

要旨

物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的特質

社会システム工学コース

1215053 楠本建

本研究の目的は物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的特質を明らかにすることである。空間的特質とは、地域における建築の分布や建築正面の方位、建築の立地や配置の特性、などから伺える空間の成り立ちのことである。

物部川は高知県中部を流れる河川で、河川沿いには数多くの集落と神社が確認される。物部川流域圏というまとまりにありながら、場所によって立地地形や気象条件はさまざまであり、それぞれの状況に応じた集落と神社の空間があると考えられる。本稿では、まず、集落ごとに集落空間と神社の空間的特質を明らかにする。次に集落ごとに明らかにした集落と神社の空間的特質を比較することで、その共通点と差異を見だし、立地や気象条件の違いがいかに空間に影響を与えるかを考察する。最後に物部川流域圏という大きな枠組みのなかで、流域圏全体の空間的特質と、集落単位の集落および神社の空間的特質がいかなる影響関係にあるかを考察する。このような段階的なプロセスを踏むことにより、集落と神社の空間的特質を、集落ごとの小さな生活世界から流域圏全体という大きな文化圏までに至る総合的なスケールで明らかにできると考える。

現在、物部川流域圏上中流部は過疎化が進んでおり、集落と神社が消滅の危機に瀕している。集落と神社の空間を記録として残すことは、当時の生活の在り方を後世に残す手がかりになるという意味でも重要である。

Abstract

Consideration on the spatial quality of villages and Shinto shrines in Monobe river basin

Infrastructure Systems Engineering Course

1215053 Kusumoto Takeru

The purpose of this study is to consider on the spatial quality of villages and Shinto shrines in Monobe river basin. Spatial quality means overall quality of architectural compositions, such as location, direction, arrangement and so on.

The Monobe river flows through the central area of Kochi prefecture. Numerous villages and shrines are located in Monobe river basin. In each village there are various and weather. Among various conditions, there are village and shrine space according to each situation. Conversely, it is possible to understand how people grasp the place and how they can live by grasping the way of the village and the space of the shrine. This research is conducted by the following process.

First, we consideration on the spatial quality of villages and Shinto shrines in the village unit, show the spatial relationship between the village and the shrine. Next, we will clarify the spatial quality of villages and shrines in the Monobe river basin. Finally, we clarify how each village is influenced by the spatial composition of the Monobe river basin. And, we clarify what kind of role each village plays in the whole. Such a process makes it possible to clarify the village and the space of the shrine on a comprehensive scale ranging from a small living world of each village to a large area of the Monobe river basin.

Currently, the Monobe river basin is undergoing depopulation, and villages and shrines are on the verge of extinction. Leaving the village and the space of the shrine as a record is also important in the sense that it will become a clue to preserve the way of life at that time in future generations.

目次	
要旨	1
目次	3
序章	7
0.1 研究の背景	8
0.2 研究の目的	9
0.3 既往の研究	10
0.4 研究の方法	11
0.5 研究の構成	12
第1章 集落と神社	13
1.1 集落とは	14
1.2 神社とは	14
1.3 集落における神社	15
1.4 流域圏と神社	16
第2章 物部川流域圏上中流部の概要	17
2.1 概要	18
2.2 地理的概要	19
2.3 集落概要	23
2.3.1 集落区分の変遷	23
2.3.2 物部川流域圏の道	27
2.4 神社	28
2.4.1 神社から見る物部川流域圏の歴史	28
2.4.2 物部川流域圏の神社における社格	30
第3章 物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間	31
3.1 物部川流域圏上中流部の集落の空間	32
3.1.1 集落の類型化と分布	28
3.2 物部川流域圏上中流部の神社の空間	35
3.2.1 神社正面の方位と分布	35
3.2.2 神社正面の河川に対する向きと分布	37
3.2.3 神社立地地形の類型化と分布	38
3.2.4 斜面方向に対する神社正面の向き	42
3.3 物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間	45
3.3.1 集落と神社の立地関係の類型化と分布	45
3.3.2 集落と神社の相関	46
3.4 小結	47
第4章 物部川流域圏上中流部全域における集落と神社の空間	48

4.1	物部川流域圏上中流部の地形	49
4.2	物部川流域圏上中流部の道	52
4.3	物部川流域圏上中流部の聖山	53
4.4	奥宮への参道と神社の関係	55
4.5	小結	57
第5章	物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的考察	58
5.1	物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間	59
5.2	物部川流域圏上中流部全域における集落と神社の空間	60
5.3	物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的特質	61
第6章	終章	63
6.1	成果	64
6.2	課題	64
	主要参考文献	65
	謝辞	67
	付録	68
	物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間	68
	神社明細帳	171

図目次

第2章

図 2-1	物部川流域圏	20
図 2-2	支流河川	21
図 2-3	上流部断面図	22
図 2-4	上流部断面概念図	22
図 2-5	中流部断面図	22
図 2-6	中流部断面概念図	22
図 2-7	領域変遷	23
図 2-8	昭和 36 年の領域分類	24
図 2-9	鎌倉時代の領域分類	24
図 2-10	上流部集落	25
図 2-11	中流部集落	26
図 2-12	流域圏道	27

第3章

図 3-1	集落地形類型化	33
図 3-2	集落地形類型化分布	34
図 3-3	神社正面の方位	35
図 3-4	神社正面の方位分布	35
図 3-5	神社正面の方位（上流部）	36
図 3-6	神社正面の方位（中流部右岸）	36
図 3-7	神社正面の方位（中流部左岸）	36
図 3-8	神社正面の河川に対する向きの種類化	37
図 3-9	神社正面の河川に対する向きの分布	37
図 3-10	神社立地地形類型化	39
図 3-11	神社立地地形類型化分布①特殊地形	40
図 3-12	神社立地地形類型化分布②地形の変化点	41
図 3-13	神社立地地形類型化分布③無特性の地形	41
図 3-14	斜面方向に対する神社正面の向き①特殊地形	42
図 3-15	斜面方向に対する神社正面の向き②地形の変化点	42
図 3-16	斜面方向に対する神社正面の向き③無特性の地形	42
図 3-17	斜面方向に対する神社正面の向き①特殊地形	43
図 3-18	斜面方向に対する神社正面の向き②地形の変化点	43
図 3-19	斜面方向に対する神社正面の向き③無特性の地形	44
図 3-20	集落と神社の立地関係類型化	45
図 3-21	集落と神社の立地関係類型化分布	45

図 3-22 集落と神社の立地関係 相関	46
----------------------	----

第 4 章

図 4-1 物部川流域圏上中流部の起伏図	49
図 4-2 上流部上葦生川地形図 (図 4-1 の①の範囲)	50
図 4-3 上流部槇山川地形図 (図 4-1 の②の範囲)	50
図 4-4 物部川流域圏上中流部の河川	51
図 4-5 往還	52
図 4-6 聖山の神社構成	53
図 4-7 物部川流域圏の聖山	53
図 4-8 物部川流域圏の聖山と奥宮	54
図 4-9 物部川流域圏の奥宮と往還	55
図 4-10 物部川流域圏の聖山と奥宮	56

第 5 章

図 5-1 神社の立地地形と正面向き	61
図 5-2 神社の立地地形と聖山の構成	62
図 5-3 神社立地地形と集落との位置関係	62

表目次

第 2 章

表 2-1 上流部集落名	25
表 2-2 中流部集落名	26
表 2-3 高知県神社明細帳での社格	30

序章

序章

0.1 研究の背景

物部川は高知県中部を流れる河川である。かつては物部川を利用した舟や山道が赤岡や高知市と、大栃、豊永、祖谷、阿波、讃岐をつなぎ、人や牛、物資、文化が行きかう物部川流域圏を形作っていた。流域圏とは分水嶺によって分割された流域ごとに風俗、習慣に特色ある地域社会が形成されているという概念である。物部川流域圏においては「塩の道」と称される往還道を用いて塩を海岸から上流に運んでいた。また、豊富な木材を物部川に流し、塩をつくる燃料や建材として用いるという一連のサイクルが営まれていた。

物部川の上流部は標高 500m を超える急峻な山々と V 字の溪谷を形成している。中流部には河岸段丘地形がみられ、下流部では扇状地が広がっている。地域によって地形条件や気象条件に相違があり、多様な地域性を生み出している。この地域性の差異が流域圏の集落や神社の空間に影響を与えている。集落と神社の空間を読み解くことで、様々な条件に対して人がいかに住むことができるのかについて考察できると考えられる。

しかしながら、戦後の高度経済成長によって車中心の社会となり、集落の風景や人々の生活は一変した。山の中腹を走っていた等高線沿いの道や尾根道、塩の道は使われなくなり、川沿いの道が使われるようになった。それに従い山上の集落も消滅していった。また、多くの集落では重要な構成要素である道が拡張もしくは引き直され、集落の構成が変化してしまっている。土木技術の発達により生活は向上した一方で、地形条件を反映していた多様な地域性は薄れてしまった。

そこで、かつての人びとがどのように周囲の環境を認識し、集落をつくり生活していたのかを集落の空間と神社の空間から明らかにしたい。集落の空間と神社の空間にはそこに住む人々の世界観が反映されており、集落の構成を読み解くことで人々がその土地をどのようにとらえ、工夫して住んできたのかを推測できる。また、集落はそれ単体で成り立つのではなく、川を共有した流域圏というつながりの中で成立している。各集落単位という小さな集まりと流域圏という大きな領域で捉えることが必要だと考えられる。

0.2 研究の目的

本研究の目的は物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的特質を明らかにすることである。空間的特質とは、地域における建築の分布や建築正面の方位、建築の立地や配置の特性、などから伺える空間の成り立ちのことである。

第一段階としては各集落の範囲で行う。集落をどこに形づくりどう暮らしていたのかを知るために、集落の地形を類型化し、分布特性を把握する。次に、神社について方位、立地地形、居住地との位置関係を類型化し、分布特性を把握する。集落と神社の相関から、集落が存在するときに、神社の空間がどのような要因で決定されているのかを明らかにする。

第二段階としては流域圏上中流部という大きい領域を対象に扱う。集落を結ぶ往還道や、聖山といった流域圏全域に影響を及ぼす地物を対象にして流域圏上中流部の空間構成を明らかにする。

最後に、神社の決定要因を分布特性から地域ごとに整理することで、物部川流域圏の空間的特質を明らかにする。地域の人びとにとって物部川流域圏はいかなる存在として認知されてきたのかを見出すことができると考える。

0.3 既往の研究

神社研究は各地で行われており、神社のさまざまな役割が指摘され、人々がそこで集住するための工夫やそのあり方が集住地の神社に示されることが指摘されている。

後藤隆太郎氏、中岡義介氏による『集住地からみた佐賀低平地における集住地特性』では、干拓地というただちに住み着く工夫を認めがたい平坦かつ広大な低平地において、集住地の神社が空間的にどのように展開しているのか、何に依拠しているのか、さらには干拓地の集住がどのようなものかを考察している。

嶋田奈穂子氏による『滋賀県野洲川流域における神社の立地特性に関する研究』では、「流域圏」の概念に従い、滋賀県野洲川流域を調査対象に設定している。地域内における個々の神社の立地特性について地理的環境を軸に類型化し、その分布特性を考察している。しかし、流域圏の集落は扱っていない。

原田紫帆氏、辻原万規彦氏による『阿蘇外輪山の内側に位置する神社の配置と人々の暮らしの関係』ではカルデラという特殊地形においてどのように集落ができて発展していったのかを神社を指標に解明している。

上記の共通点は各地形条件において、どのように集落がつくられ神社立地が決定されるのかという視点である。この視点は本研究とも共通している。

本研究独自の点は流域圏全域で地形や集落をつなぐ道に着目し、流域圏上中流部での各集落と神社の在り方を考察すること、また、各集落単位と流域圏単位という大小二つの視点から考察することである。各集落での道を考察している研究はあるものの、対象地域全域で見たときの道を介した集落同士の配置関係まで考慮している事例はない。

次に、既往研究では見られなかった点として、対象とする神社を各集落の村社に絞って扱うことがあげられる。既往研究においては住宅地図に記載のある神社を選定している事例が多いが、集落の中核を担う村社と各々で祀っている無各社を同列に扱うことは集落の特質を見えにくくすると考える。そこで本研究では村社のみを扱う。なお、無各社に関しては記録にとどめるのみとする。

物部川流域圏ではいざなぎ流という古い信仰形態が残っているため、民俗学での研究が盛んにおこなわれている。小松和彦氏の『いざなぎ流の研究 歴史のなかのいざなぎ流太夫』があげられる。また、楠瀬慶太氏の『新・葦生嶺山風土記』（平成20）では、現地での聞き取り調査と「長宗我部地検帳」をもとに地名の現地比定を行い、当時の景観を復元している。民俗学での研究はあるものの、集落や神社を空間的に論じている研究はない。

0.4 研究の方法

本研究では、対象地域の空間的特質を明らかにするにあたって、

1. 文献調査、2. 地図の分析、3. 現地調査の三種の手法に基づき分析を行う。調査結果はGIS(地理情報システム)で統合した。

1. 文献調査

文献調査では物部村志、香北町史、在所村史、山田町史、神社明細帳、新・葦生槇山風土記を用いて、集落と神社の概要と歴史について調査を行う。特に神社については明治初期に編纂された神社明細帳を用いて当時の神社の様態を明らかにする。

2. 地図の分析

地図調査から明治末期の物部川流域圏上中流部の地図を作成した。対象とした年代は明治末期であるが、現在(2018年)の時点で住人が立ち去り廃村となって消滅している集落に関しては調査が困難なため対象としない。地図は国土地理院発行の明治四十年の地図(s=1/50,000)を主に、国土地理院発行の昭和四十六年の地図(s=1/25,000)とゼンリン住宅地図(2018)、国土地理院基盤地図情報(2018)で補足した。ゼンリン住宅地図には神社記号が記されているものの、名称まで記載されているものは少ない。また神社記号の記載すらない神社も多数あり、現地調査で特定した。

3. 現地調査

集落の現地調査では地図で把握しきれない微地形と居住域を把握した。

神社の現地調査ではヒアリングをもとに神社の正確な場所の特定と神社名の同定を行った。無各社でも住宅地図に記載されているものについては調査した。調査内容は神社の立地地形、社殿正面の方位、面している川、集落との関係、道との関係である。また、現在の参道は車道からひかかれている事例が多く、その場合は本来の参道を調査した。神社の記録として歩測による社殿、境内の簡易配置図の作成、本殿形式の特定、境内の記録写真の撮影を行った。

4. GIS 統合

本研究ではGIS(地理情報システム)を活用しながら研究を進める。調査対象となる地物の位置情報や属性情報を与えることで、他のGISデータと照らし合わせながら空間解析をすることができるほか、見やすい分布図の作成や、属性ごとのタイ粗油物の検索・表示などに有効である。また、調査内容をGISデータとして保存・管理GISを用いた今後の研究における素材として役立つと思われる。

0.5 研究の構成

序章では、研究の背景、研究の目的、既往の研究、研究の構成、研究の方法について書き記す。

第1章では全国での集落研究や神社研究をまとめ、本研究の位置づけを行う。

第2章では物部川流域圏の地理的概要と集落、神社の歴史の変遷についてあきらかにする。

第3章では集落と神社の空間を 1. 集落、2. 神社、3. 集落と神社 の3つの段階に分けて分析、考察する。

集落については立地地形を類型化し、分布特性を把握する。

神社については、方位、立地地形を類型化し、分布特性を把握する。

集落と神社では集落と神社の位置関係を類型化し、分布特性を把握する。

第4章では流域圏上中流部全域という大きな領域に着目する。地形と集落間をつなぐ往還道、聖山といった流域圏に影響を及ぼす地物を対象にして流域圏の空間構成を明らかにする。

第5章では神社の決定要因を分布特性から地域ごとに整理することで、物部川流域圏の空間的特質を明らかにする。

第1章 集落と神社

第1章 集落と神社

1.1 集落とは

集落とは人間の居住形態が具現化したものであり、各地の風土の相違や社会的環境のちがいを反映し、それぞれの土地に応じてもっとも住みよい形態をもって成立している。居住の形態を解明することによってその居住地域の特質を明らかにできる。集落は地形学・地質学・気候学・自然地理学といった自然環境の観点に加え、社会的、歴史的環境の観点から研究することが重要である。

集落は人口の大小や居住様式あるいは機能の点から、「村落」と「都市」に大別される。村落は地理的位置や住民の従事するおもな産業の違いから「農村・山村・漁村」に分けられる。本研究では農村、山村が該当する。

次に集落の成立過程に主眼をおいて分類すると自然発生的村落と計画的発生村落に分けられる。自然発生的村落は古い時代から居住域として好適な条件を備えた所へ自然に定住して村落を形成したものである。計画的発生村落は成立起源が比較的新しく、人為的・計画的に集落を設定して居住地域となった所である。

また、集落形態から類型化すると、民家が固まって建つ集村と、民家が点在している散村・散居村に大きく分けられる。集村は不規則に民家が固まっている塊村のほかに、街道沿いなどの主要な道沿いに密度高く民家が固まる街村がある。

1.2 神社とは

神社とは神道の神々を祀るための建物や施設の総称である。神社に祀られる祭神には、磐座や、滝、神体山といった自然神、天照大御神に代表される日本書紀や古事記に登場する人間神、一族の祖先を祀る祖先神などが挙げられる。

日本の原始信仰はアニミズムという自然崇拜であったといわれており、社殿を持たなかったが、徐々に社殿が設けられるようになった。飛鳥時代に大陸から仏教が伝来し仏教信仰と神道とが混淆し、神仏習合が起きる。明治元年に神仏分離令が出され、現在のように寺院と神社を分けて祀るようになった。

1.3 集落における神社

集落の構成をかたちづくる重要な要素として神社が挙げられる。各集落の神社では祭りが行われ、信仰の場と同時に住民の寄り合いの場として重要な機能を果たしてきた。神社の立地や様態には人々がそこで集住するための工夫やそのあり方が示されており、神社をみることでそれが立地する集落の空間の捉え方を把握することができる。集落と神社の関係を考察した研究は全国で行われている。

・後藤隆太郎、中岡義介氏の『集住地からみた佐賀低平地における集住地特性』では佐賀の干拓を対象にしている。干拓地は湿潤な低平地その土地の特性ゆえにただちに住み着くことは難しく、そこに集住するための何らかの工夫が必要であろうと考えられ、その工夫が神社に現れていると述べられている。研究の結果、北側の山麓近くの集落では神社空間と山とのかかわりが強いことが示されている。一方で南側の干拓による平地集落の神社空間は山とのかかわりが薄いものの、集住生活とのかかわりが強く表れていると述べられている。

・原田紫帆氏、辻原万規彦氏の『阿蘇外輪山の内側に位置する神社の配置と人々の暮らしの関係』では阿蘇山のふもとのカルデラという四方を山に囲まれた地理的環境の中で人々の暮らしと神社との関わりを明らかにすることを目的としている。研究の結果、集落の成り立ちには地形が深く関わっていると示されている。また、集落の形成とともに神社が作られたことを示唆しており、神社は祭事を行う重要な場所である一方で、集落を見守ってくれる身近な存在であると述べられている。

・木下靖史氏、牧絢子氏の『琵琶湖湖岸における集落・神社の平面構成による類型化』では琵琶湖湖岸を対象にしている。入江や内湖、水路等が多く存在する複雑な地形に立地する集落は、これら周辺環境を巧みに利用しながら生活を営み、湖岸地域に豊かな風景を生み出してきた。集落を山辺と浜辺に類型化している。その結果、山辺の集落は神社の立地が必ず山側で、参拝方向も山側であったが、浜辺の集落の神社では位置も方向も様々であると示されている。

以上は総じて地形的特質を踏まえたうえで、集落と神社の様態を調査し、人が居住するときに環境をどのように捉えて、集落をつくり神社を設けたのかを考察している。本研究においてもこの観点から物部川流域圏の特質を明らかにする。

1.4 流域圏と神社

「流域圏」は第三次全国総合開発計画で述べられている概念である。樋口忠彦の『日本の景観』では以下のように記されている。

第三次全国総合開発計画とは経済の安定成長や国土資源・エネルギーの有限性の顕在化等を背景に策定され、1977年に閣議決定されたものである。日本は2度のオイルショック、景気低迷もあって地方圏から大都市圏への人口移動が沈静化するなかで、財政難とも相まって地方自立の機運が高まっており、大都市抑制、地方振興が目標とされていた。「流域圏」とは、

- (1)日本の国土は分水嶺により多くの流域に分割されており、この流域ごとに気象条件や土地条件が微妙に変化し、風俗、習慣も異なる特色ある地域社会が形成されている。
- (2)流域を特徴づける水系を総合的に管理することにより、流域の安定度と安定性を高め、流域の生態系と環境の容量とを維持する。

の2点であり、本研究では主に(1)を流域圏の定義として用いる。

流域圏や河川沿いの神社に関しては、以下のような既往研究がある。

嶋田奈穂子、山根周の『滋賀県野洲川流域における神社の立地特性に関する研究』があり、流域圏の概念のもとに滋賀県野洲川流域を対象に研究を行っている。

神社立地について、地理的環境を主軸にした分析を行い、立地特性を導き出すことを試みている。ここでは8つの型の立地特性が提示されている。また、各型の分布の集中する地域があることも示されている。また、各神社の立地には周辺の地理的環境が地域社会に与えてきた影響が反映されるとしている。

水嶋克典の『神奈川県における日枝神社の社殿配置について—その1 河川との関係—』では日枝神社の分布・立地・社殿配置について稲作と関係の深い河川との関連を現地調査から以下のように明らかにしている。

- (1)調査対象神社の社殿はほぼ近接河川と平行または直交して配置されている。河川からの距離による影響はほとんど見られない。
 - (2)社殿が近接河川と平行して配置される場合は流下（川下）を向く。
 - (3)河岸立地の神社は社殿が隣接河川に平行して配置されている割合が高く、河岸丘・山腹立地の社殿配置は平行配置と直交配置がほぼ同数である。
- といった結果が得られている。

本研究との共通点は、流域圏の地形条件が神社の様態に影響を与えている点である。差異は、神社のみに絞っており、集落との考察を行っていない点である。本研究では流域圏という領域設定に加え、先に述べた集落と神社の関係に着目することで流域圏の空間的特質を明らかにする。

第2章 物部川流域圏上中流部の概要

第2章 物部川流域圏上中流部の概要

2.1 概要

物部川は高知県中部を流れる河川で、高知県香美市の白髪山(1,770m)を源流とし途中、上葦生川と合流し西流している。香美市杉田で南に向きを変え、香美市神母ノ木で香長平野に出て扇状地を形成しつつ南流し、太平洋に注いでいる。かつては物部川を利用した舟や山道が主に使われ、赤岡や高知市と大栃、豊永、祖谷、阿波、讃岐をつなぎ人や牛、物資、文化が行きかう物部川流域圏を形作っていた。塩の道と称されるように塩を海岸から上流に運び、豊富な木材を物部川に流し、塩をつくる燃料や建材として用いる一連のサイクルが営まれていた。

既往研究は楠瀬慶太氏の『新・葦生嶺山風土記』が挙げられ、現地での聞き取り調査と「長宗我部地検帳」をもとに地名の現地比定を行い、当時の景観を復元している。また、いざなぎ流という古い信仰形態が残っているため民俗学による研究は多くあり、小松和彦氏の『いざなぎ流の研究 歴史のなかのいざなぎ流太夫』などがあげられる。

2.2 地理的環境

物部川は地形の特徴から上流部、中流部、下流部に分けることができる。

上流部は旧物部町の範囲で別府村、久保村から楮佐古村、大栃村までである。標高 500m を超える急峻な山々と V 字の溪谷を形成している。物部川の本流である槇山川と大栃で合流する支流の上葦生川の二つの河川が存在するのが特徴である。上葦生川は物部川の支流であるが、上流部は二つの同規模の河川（槇山川と上葦生川）に分岐する特徴から本流として扱う。上葦生川は谷の間隔が広いいため集落は川沿いに作られ、塊村の形をとる。槇山川は溪谷が深いいため川沿いに平地が少なく、山腹の斜面地形に散居村の形態をとる。

中流部は香北町と山田町の一部の範囲で、猪野々村、永瀬村から神母ノ木村、佐野村までである。河川はおおむね北東から南西に流れ、川沿いに河岸段丘地形がみられる。右岸では南向き斜面で日当たりが良く、段丘地形が山腹にまで発達していることから山腹にも集落がみられる。塊村または街村の形態をとる。左岸は北向き斜面で日当たりが悪く、河岸段丘地形も川沿いのみで山腹には集落は発達しない。しかしながら、川沿いの河岸段丘地形が大規模に広がるため、橋川野村から太郎丸村、下野尻村、美良布村、葦生野村、小川村が属する広い平地地形がみられる。塊村または街村の形態をとる。

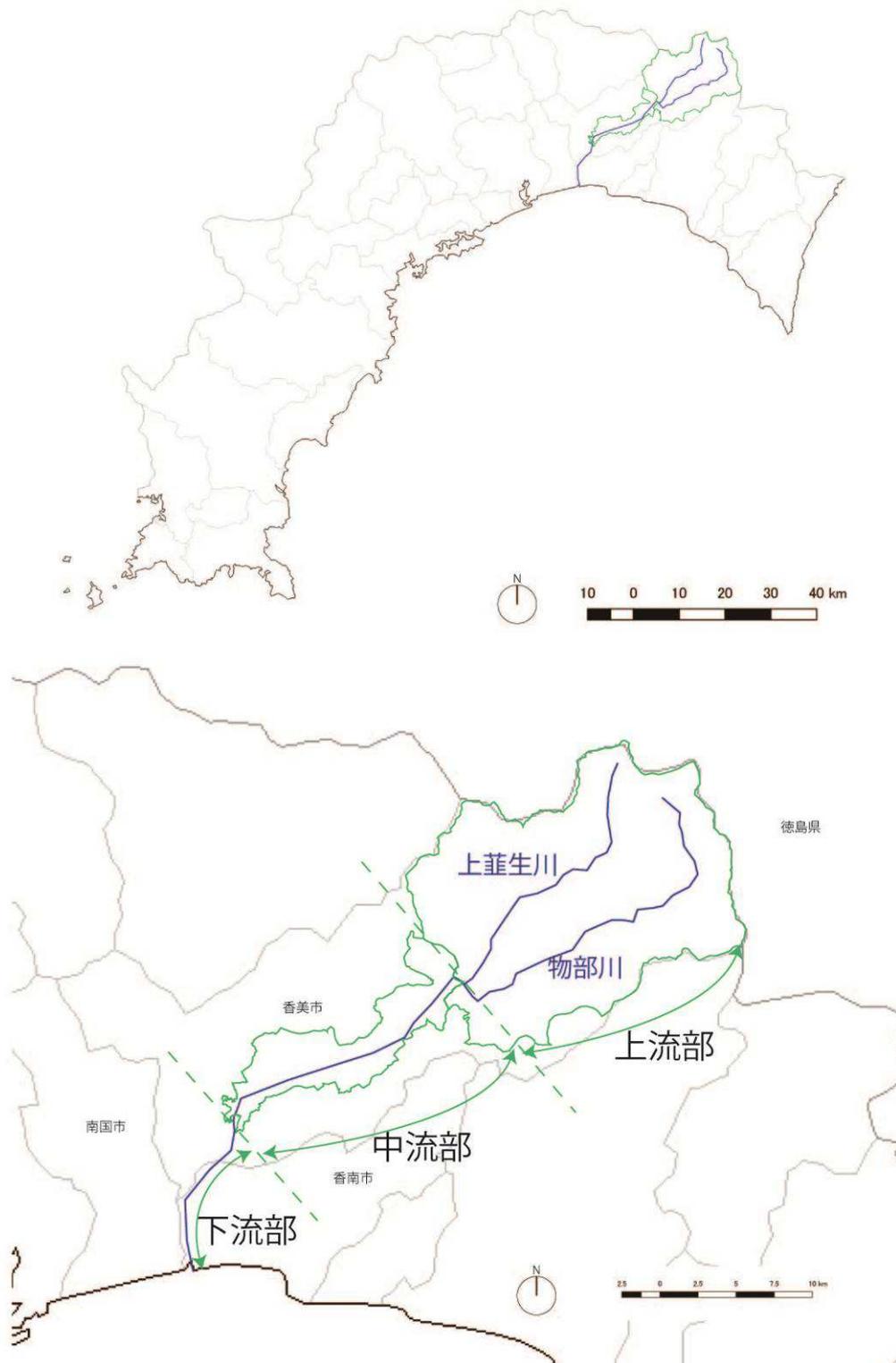


图 2-1 物部川流域圈

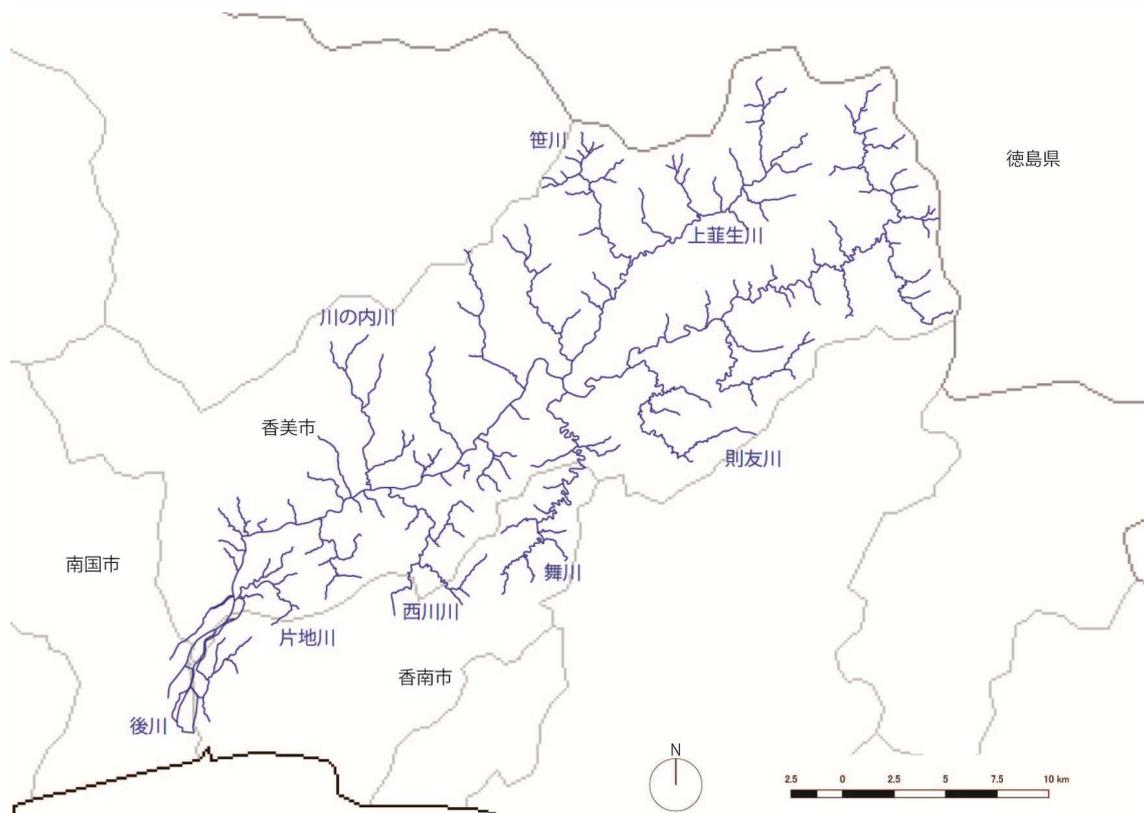


図 2-2 支流河川

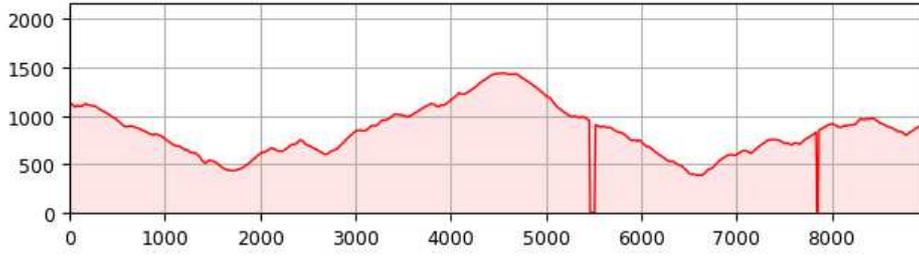


図 2-3 上流部断面図

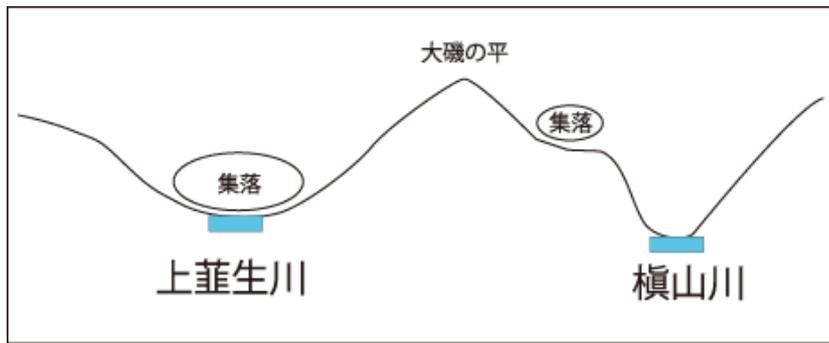


図 2-4 上流部断面概念図

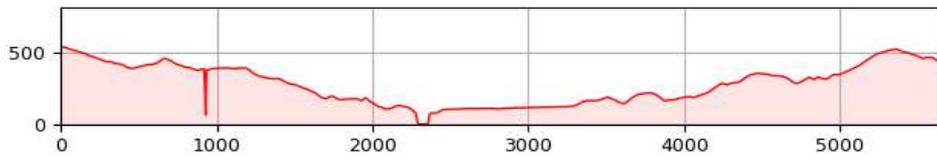


図 2-5 中流部断面図

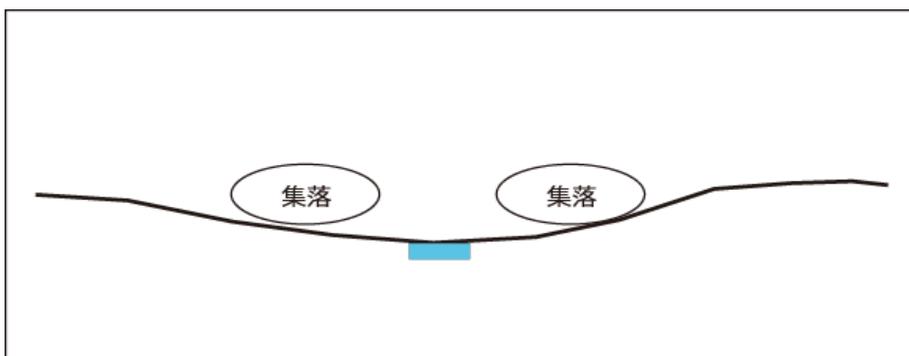


図 2-6 中流部断面概念図



図 2-8 昭和 36 年の領域分類

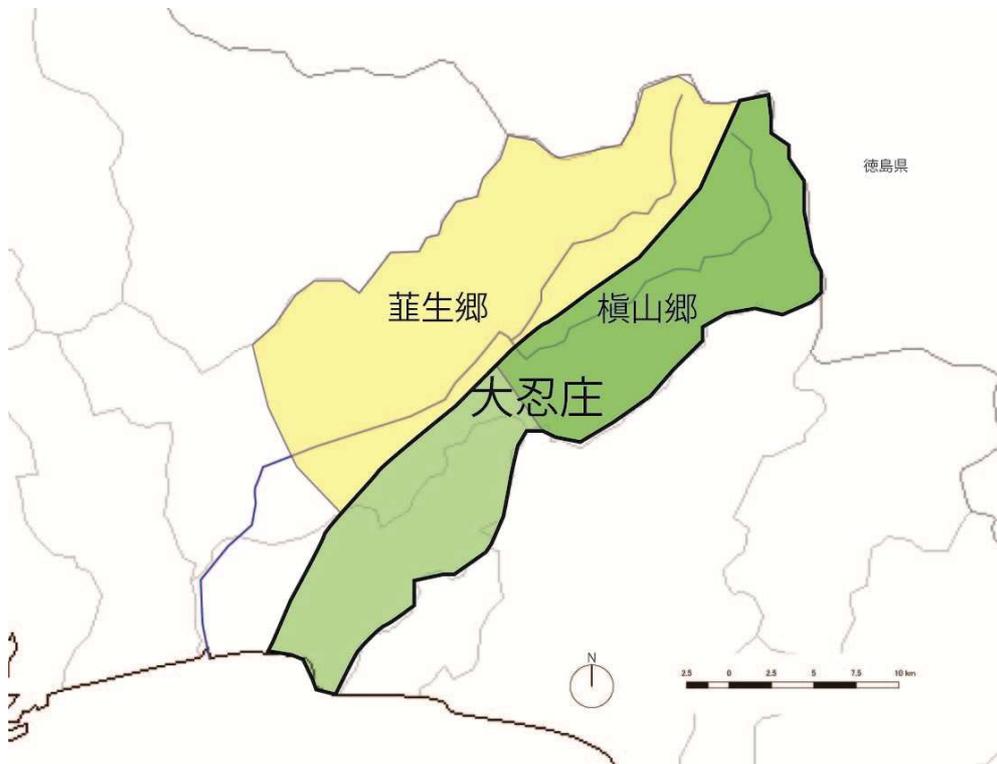


図 2-9 鎌倉時代の領域分類

本研究で扱う集落は明治末期を対象とし、大字ごとを一つの集落単位村単位とする。流域圏を考察するために物部川に集落の一部が接しているものを対象とした。神池村、楮佐古村、中谷川村に関しては物部川と接していないものの、槇山往還、葦生往還が通過する村であり、集落同士の連関を考察する際に重要であるため対象に含めた。また、2018年時点で廃村になっている集落に関しては調査が困難なため、対象に含めない。(山崎村天王、中上村、仙頭村の一部、岡ノ内村の一部)

以下の表に対象とする村名と村社名を列挙する。

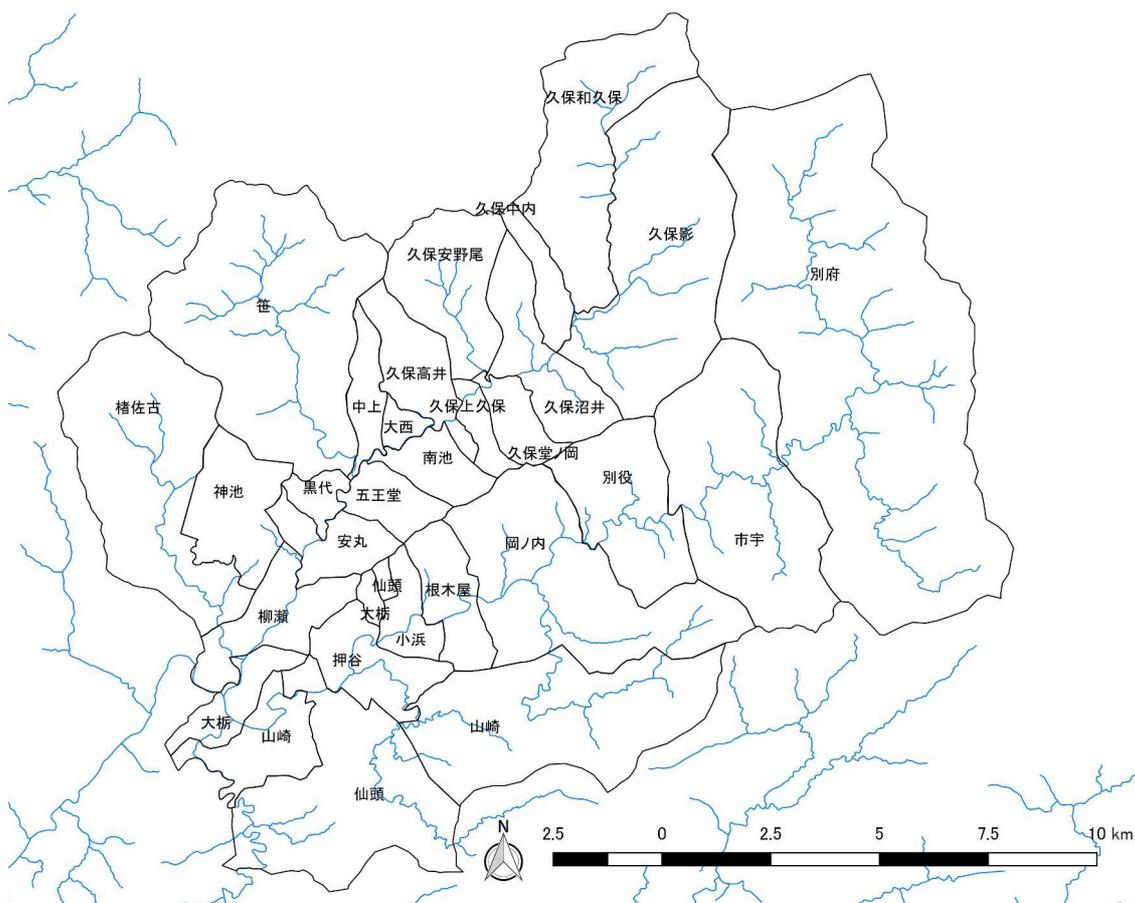


図 2-10 上流部集落

上流部村名	村社	久保村影	石土神社
五王堂村	田中神社	根木屋村	竈戸神社
久保村中内	白髪神社	楯佐古村	的場神社
大橋村	八王子宮	笹村	磐本神社
押谷村	仁井田神社	仙頭村	五社王子宮
神池村	王子神社	小浜村	十二所神社
久保村上久保	清田神社	別役村	小松神社
市宇村	十二所神社	大西村	仁井田三所神社
仙頭村柳ノ上	有宮須賀神社	南池村	須賀神社
黒代村	谷辺ノ神社	柳瀬村	柳瀬神社
別府村	公土方神社	安丸村	安丸神社
山崎村	山崎神社	久保村沼井	聖神社
岡ノ内村	馬岡公土方神社	大橋村楯ヶ谷	立伊神社
久保村安野尾	須賀神社		

表 2-1 上流部集落名

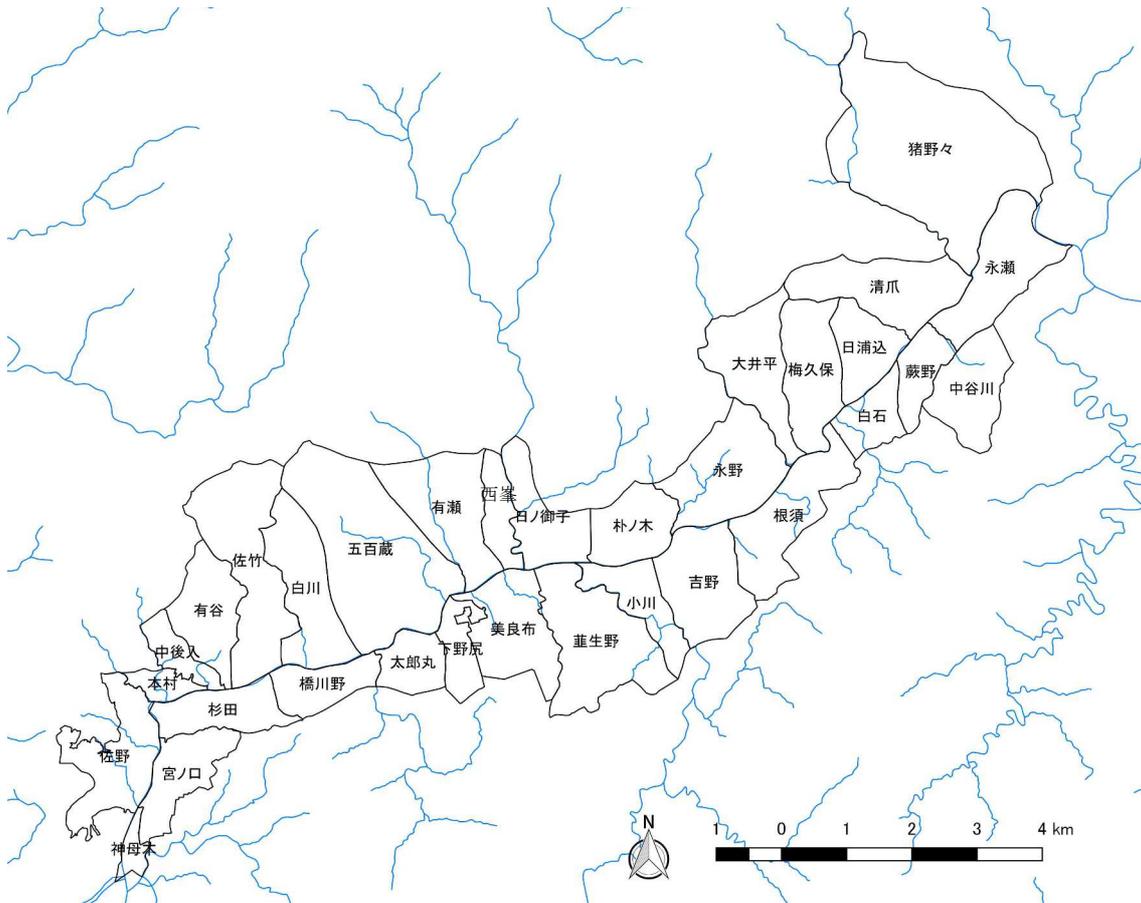


図 2-11 中流部集落

中流部村名	村社	西峯村	金峰神社
白石村	山神社	有瀬村	奥有瀬山祇神社
白川村	白川神社	杉田村	若一王子宮
宮ノ口村	星神社	太郎丸村刈谷我野	若宮八幡宮
永野村	聖神社	太郎丸村	八坂神社
袖ノ木村	仁井田神社	梅久保村日浦込村	仁井田神社 八坂神社 須賀神社
猪野々村	王子宮	永野村	山神社
佐野村	美丸神社	清爪村	杉尾神社
吉野村	仁井田神社	朴ノ木村	巖島神社
永野村	野麓神社	大井平村	山神社
佐野村仁井田	仁井田五所神社	下野尻村	若一王子宮
白川村	須賀神社	小川村	山祇神社
上野尻村	神明宮	橋川野村	聖神社
白石村下田	磯山神社	根須村	日吉神社
日ノ御子村	日野御前神社	蕨野村	山神社
五百蔵村	御市川若一王子宮	神母ノ木村	宮ノ口 星神社に所属
佐竹村	本宮星神社	中後入村	金峯神社
五百蔵村	聖神社	中後入村	須賀神社
日ノ御子村	聖神社	有谷村	竈神社
日ノ御子村柳川	柳川神社		
中谷川村	熊野神社		

表 2-2 中流部集落名

2.3.2 物部川流域圏の道

戦前の集落間の移動・運搬などは往還と呼ばれる山道が主であった。往還は人や馬、牛が通行できるだけの細い道で山を登り、谷を渡る険しい道であった。また、物部川の舟運が盛んで、物部川を下る川船と対岸へ渡る渡し舟が使われていた。現在でも交通安全を祈願する馬頭観音が道ばたに見られ、かつて渡し船があったであろう橋のたもとには見渡し地蔵が多く見られる。川流しを用いて豊富な森林資源を高知市や赤岡に運び、逆に赤岡から塩を物部の奥地に運ぶサイクルが成り立っていた。さらに、高知市と豊永、祖谷や阿波といった徳島県とをつなぐ道でもあった。

戦後の昭和期から道路・鉄道交通が発達し道が整備され車社会が本格化した。馬や牛、川船はトラック輸送に変わり、徒歩交通もバスや自家用車に変わっていった。橋が架けられ渡し舟もなくなり、川船や塩の道などの往還道も使われなくなっていった。さらに川口、仙頭、五王堂の発電所工事、道路の建設あるいは拡張、橋梁の架設、そして昭和31年の永瀬ダム完成によって物部の溪谷は姿を大きく変えた。ダム建設時期は好景気になったものの、ダムが完成すると人が出ていき、過疎化、少子高齢化が進んでいる。道が拡幅、引き直され、田畑に杉が植林され、民家は消失し、集落の構成は大きく変化した。

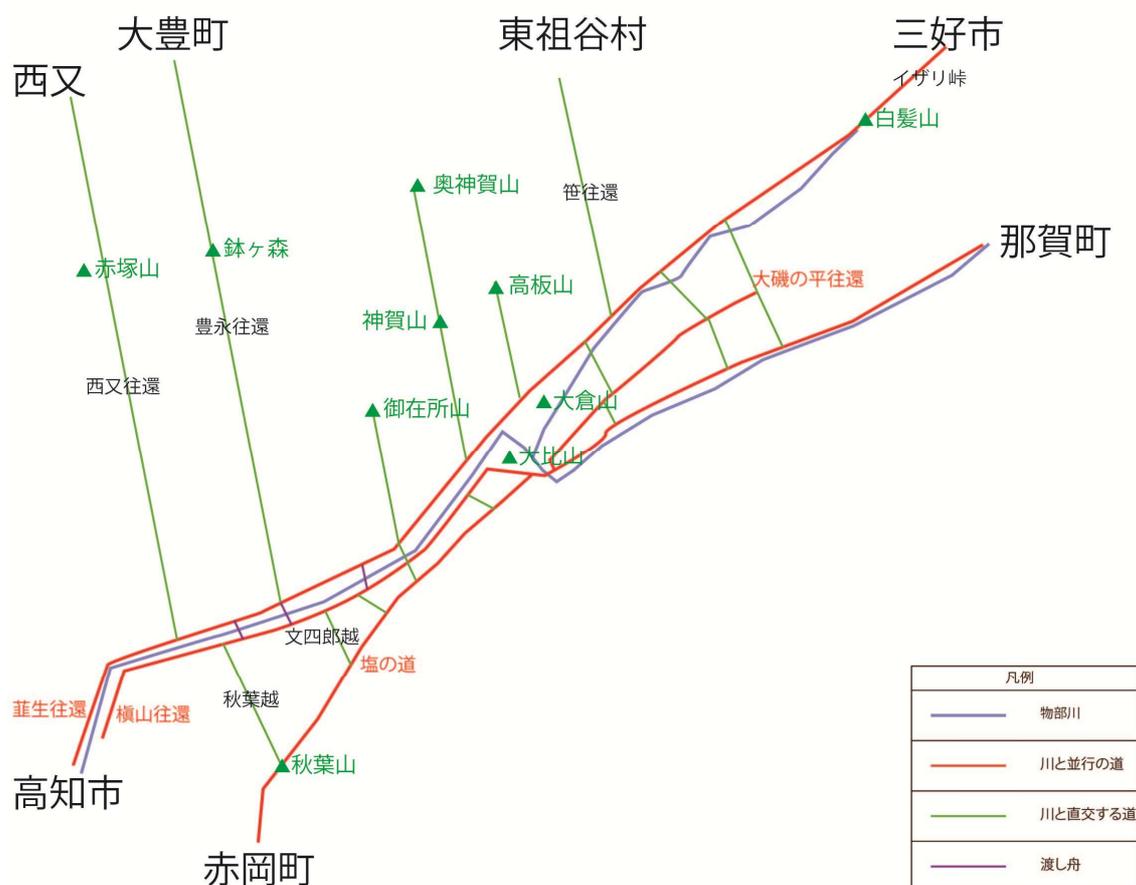


図 2-12 流域圏道

2.4 神社

2.4.1 神社から見る物部川流域圏の歴史

物部村志、香北町史、在所村史、山田町史、神社明細帳、新・葦生槇山風土記の各書籍を統合して物部川流域圏の歴史を神社の視点から述べる。

・先史

刈野我野村（現在の香美市香北町太郎丸村）の刈谷賀野遺跡から縄文早期の土器が発見されたことや、美良布遺跡で縄文時代晩期の土器や遺構が発見されたことから先史時代において、すでに物部川流域圏には人が居住していた。

・平安時代

平安時代の物部川流域圏について記述されている書籍には平安時代初期に編纂された『延喜式』という法典がある。『延喜式』の神名帳に記載のある神社のことを式内社と呼び、ここに記載のある神社は平安時代にすでに格式のある社として存在していたことになる。香美郡では天忍穂別神社、深淵神社、美良布神社、小松神社の4社が含まれている。

上代から平安時代の初めにかけてすでに物部川上流には、小松神社を中心とする奏氏の一族、中流には美良布神社を氏神とする加茂氏の一族と物部氏の一族、下流には天忍穂別神社を中心とする物部氏の一族が居たと思われる。ほかの多くの若一王子宮がいずれも天照大神を祭神として祀っているのに対して、天忍穂別命を祭神とする若一王子宮が杉田村、五百蔵村市川、下野尻村などが物部川に沿って散在することから下流に住んでいた物部氏が上流に向けて次第に発展していったと考えられる。また、美良布村付近には加茂氏が住んでいたと思われる。

・鎌倉時代

鎌倉時代には熊野の荘園で大忍荘と呼ばれており、仙頭村や岡ノ内村には重要な役職が置かれていた。熊野の荘園であったことからこの時代に熊野信仰が伝わった。

・戦国時代

戦国の武将は出陣に際しては戦勝を祈願し、凱旋の暁には神意に感謝して、社殿の改築や土地の寄進をしたと物部村志にある。武運長久を祈って、その居城には弓矢の神様である八幡を祭った。現在城跡にかならずといってよい程城八幡が残っている。

山田郷をおさめていた山田氏や、土佐を統一した長宗我部氏も美良布神社の改修を行っている。神仏は郷民尊敬の中心であり、神社崇拝によって人心を取攬しようとする政治的な意図も含まれていた。神仏を敬うことを規定して、一般の領民にも尊神を奨励している。領内を富ませ、食料を確保するために土地の開拓をすすめたので、その竣工既工には必ず神を祭り、新たに土地が開かれ集落ができると鎮守の神も勧請されたであろう。天正の地検帳に社領の散見されることや各地に本田が点在することなどから推して、各部落の鎮守の神も土地の開拓とともにほぼこの時代に勧請されたと思われる。

・江戸時代

長宗我部氏に代わって山内氏が入国したが、山内氏も各地の社寺を修復した。個人の有力者

によって再建された神社もあれば、個人で修復を加えたものもあったが、これらは敬神思想の普及徹底を意味するとともに、人々に経済的余裕のできたことを物語るものとして意義深い。この時代の特筆すべきことがらとしては、前時代の神社が、戦勝祈願、武運長久のためだったのに対して、作物の豊饒、病気の平癒、延命長久など人々の生活について祈願し、娯楽や社交、協力の場となったということである。

・明治時代

明治元年に神仏分離令が出され、廃仏毀釈が起きる。明治政府が近代社格制度を制定し、神社明細帳の作成を命じた。

明治 39 年に神社合祀が行われた。神社合祀とは、神社の合併政策のことである。複数の神社の祭神を一つの神社に合祀させるか、もしくは一つの神社の摂末社にまとめて遷座させ、その他の神社を廃することによって、神社の数を減らすというものである。神社合祀の目的は、神社の数を減らし残った神社に経費を集中させることで一定基準以上の設備・財産を備えさせ、神社の威厳を保たせて、神社の継続的経営を確立させることにあった。物部川流域圏でも多くの神社が消滅している。(付録 神社明細帳参照)

元来、世の泰平と人々の幸福な生活を祈願した神社が、国が管理し、戦争に利用されるようになった。戦勝祈願や武運長久を願い、絵馬の奉納が盛んに行われた。現在でも多数の絵馬や、出兵した方の写真が神社の拝殿内に残されている。

・昭和時代から現在

昭和 20 年の戦争終結とともに神社は国家管理を離れ、氏子の神社としての役割に戻った。しかしながら、修理に多額の費用がかかることや、少子高齢化によって神社の維持管理が次第に困難になっている。合祭される事例も増えている。

・物部川流域圏の仏教と神仏習合について

仏教が伝わったのは六世紀中ごろであるが、当時は仏教の思想と神道の思想は相いれないものと考えられ、崇仏排の激しい争いがあった。しかし、後には神道と仏教が次第に接近していき、神は仏法を喜び、仏は神を擁護するようになり、神社に付属する寺院を設けて神宮寺と呼び、僧侶が神前で経文を読み、寺院には鎮守神が祭られたりして、神仏が混淆されるようになった。大川上美良布神社境内にあった日禅寺や、市川の若一王子宮の境内に阿弥陀堂が建てられているが、これは神宮寺の名残をとどめているものであろう。平安時代に入るとこの考えがさらに進んで、神は仏の化身で、仏が我が国に迹を垂れ、神となったものであると説くようになり、これを本地垂迹説という。権現というのはこの思想を表す言葉で、権はカリ、現はアラワレルで、仏が仮に神として現れるという意味である。永瀬の聖神社を日尻権現、下野尻の若一王子宮を王子権現、日裏込の八坂神社を牛頭天王と呼んでいた。

菰生大山祇神社には朴ノ木の高照寺の住職が奉仕していたり、神社の修理や再建に当たって寺院が関係していたことが棟札に記されている。

2.4.2 物部川流域圏の神社における社格

神社明細帳は、内務省および庁府県に備え付けられていた神社の台帳である。1872年（明治5年）に神祇省から地方庁に神社の調査が命じられ、翌年、社格が決定された。

高知県神社明細帳は、明治12年に内務省の布達により高知県が調査し、まとめた県下の神社の総目録である。神社の名称、鎮座地、社格、祭神、由緒、例祭日、建物や境内の規模、合殿神社、境内神社、信徒数などが記録され、それ以降、大正・昭和期を通じて追記や修正が加えられてきた。由緒には勧請の経過のほか、棟札の内容、土佐州郡志や南路志などの文献の引用、津波等の災害記録も記録されており、歴史を学術的に研究するための貴重な資料である。

神社明細帳には以下のような3つの社格について記されている。

社格	
郷社	郷ごとに設けられている。
村社	一つの村に一社存在する。例外として二つの集落が合併して一つの集落になっている場合、村社が二つ維持される。
無各社	土地の神様で自然信仰とむすびついている山神社や、祖先神と八幡信仰が習合した八幡、金刀比羅宮などである。

表 2-3 高知県神社明細帳での社格

既往研究では住宅地図に記載のある神社を選定している事例が多いが、集落の中核を担う村社と各々で祀っている無各社を同列に扱ってしまうと、集落の特質が見えにくくなってしまふ。無各社に関しては記録にとどめるのみとする。

神社明細帳は明治初期に編纂されているため、郷、村の表記である。この時すでに郷社、村社、無各社の区分はなされている。後に明治政府が町村制を施行したことによって明治43年に神社明細帳は修正が加えられている。ただし、消去方法は墨で書かれた文字の上から赤の墨で縦線を引いている程度であるので消される前の文字を読み取ることは可能である。修正内容は郷名を村名に修正している点と、神社合祀によって消滅した神社の消去である。郷名から村名への変更については、例えば葦生郷清爪村であったのが在所村清爪村に変更されている。（図 2-7 領域変遷参照）。

神社合祀によって多くの神社が村社に合祀される形で消滅した。（付録参照）とくに岡ノ内村においては7つの村社のうち6社が消滅し、現在の村社である馬岡公土方神社に合祀されてひとまとめにされている。

第3章 物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間

第3章 物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間

第3章では集落と神社の空間を 1. 集落、2. 神社、3. 集落と神社 の3つの段階に分けて類型化、分布特性を考察する。

3.1 物部川流域圏上中流部の集落の空間では、集落の地形を類型化し、分布特性を考察する。

3.2 物部川流域圏上中流部の神社では、神社正面方位、立地地形、立地場所の斜面方向、の3要素を類型化し、分布特性を考察する。

3.3 物部川流域圏上中流部の集落と神社では集落に対する神社の立地位置を類型化し、分布特性を考察する。

3.1 物部川流域圏上中流部の集落の空間

3.1.1 集落の類型化と分布

ここでは、集落地形の類型化を行い、分布の特性を明らかにする。

集落を地形の起伏がない平地集落と、起伏のある斜面地集落に大別する。さらに、斜面地集落について特徴的な尾根集落・谷集落に細分化した。図 3-1 に、集落地形類型化の項目を示す。

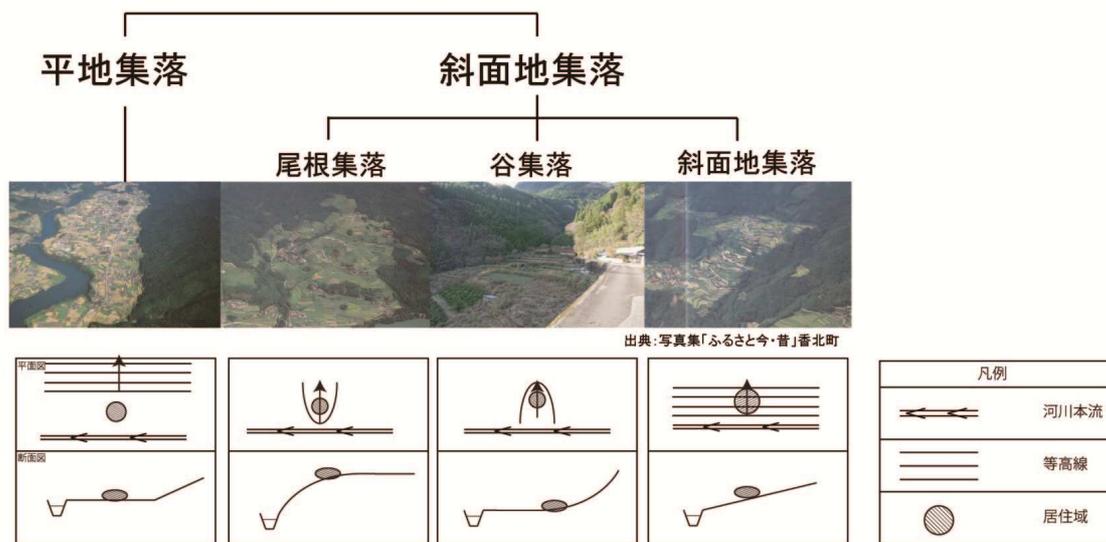


図 3-1 集落地形類型化

図 3-2 に、集落地形の類型化の分布を示した。

分布を見ると、平地集落と斜面地集落が分布している境界が顕著に表れている。地形が大きく変化する場所であることから、下流側をA地域、上流側をB地域とし、個別に考察を行う。A地域の範囲は、右岸は永野村よりも下流、左岸は吉野村よりも下流とする。B地域の範囲は、右岸は大井平村よりも上流、左岸は根須村よりも上流とする。

A地域は平地が多く、右岸のみに斜面地が存在する。

B地域は平地が少なく、斜面地が多い。とくに、上葦生川と槇山川では、尾根集落、谷集落が分布している。

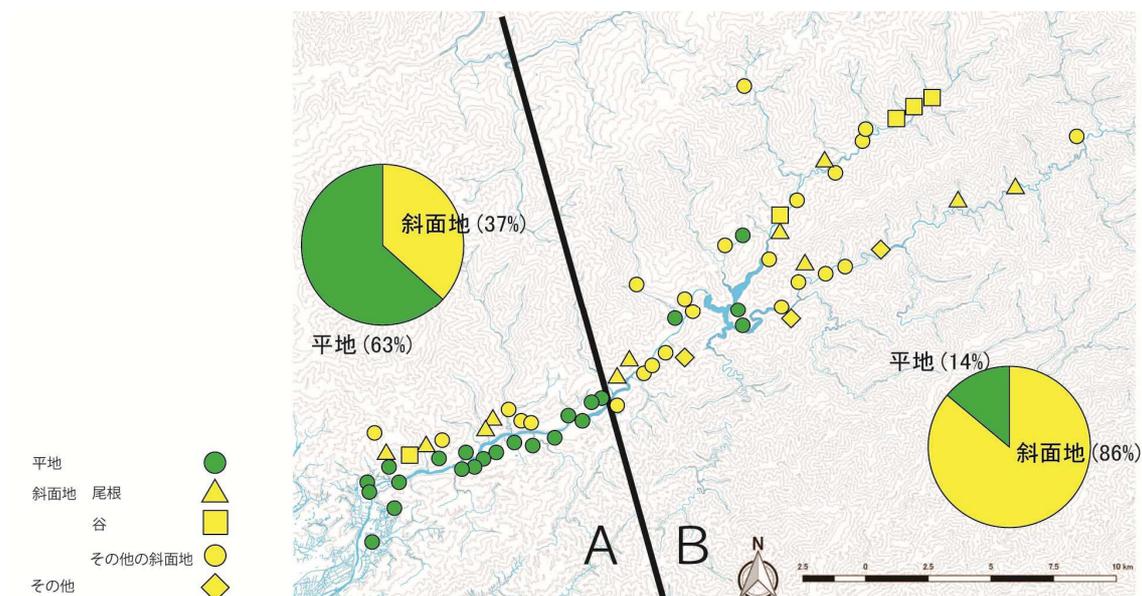


図 3-2 集落地形類型化分布

3.2 物部川流域圏上中流部の神社の空間

3.2.1 神社正面の方位と分布

ここでは、神社正面の方位についての考察を行う。神社の向きを8方位で分類した。調査対象とする神社の方位の割合を図3-3、分布を図3-4に示した。

上中流部全体では南が約3割を占めているものの、ばらつきのある結果となっている。そのため、上流部、中流部右岸、中流部左岸、それぞれで傾向を示す。

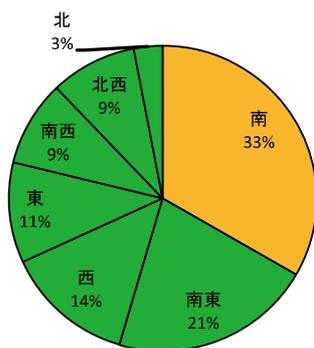


図 3-3 神社正面の方位

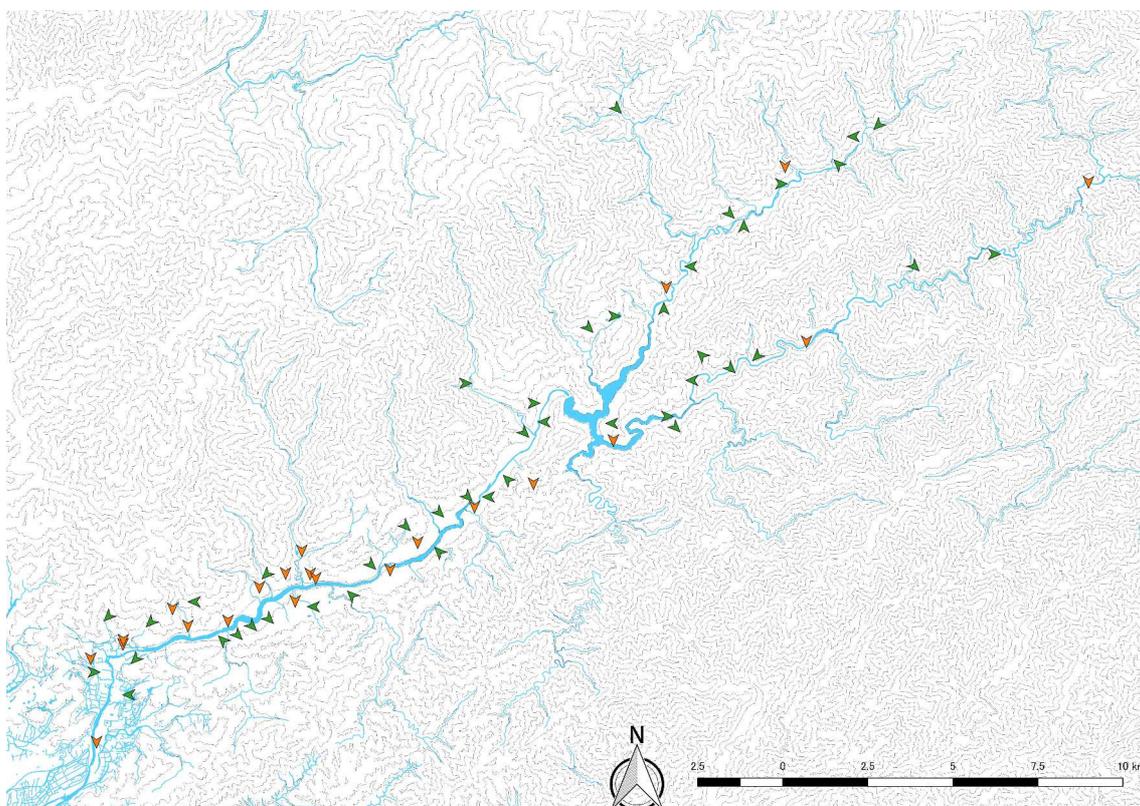


図 3-4 神社正面の方位分布

上流部では方位の偏りは無い。少ないながらも他では見られない北向きが2社存在する。

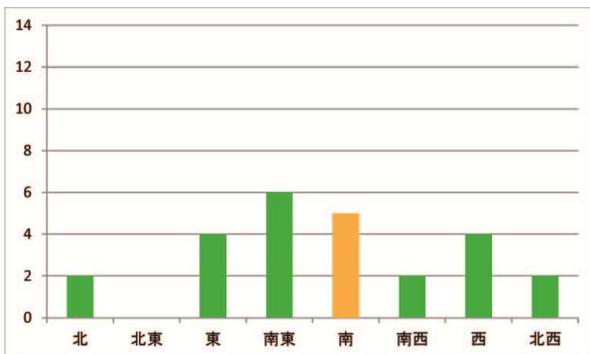


図 3-5 神社正面の方位（上流部）

中流部右岸では南が12社と最も多く、半数を占めている。

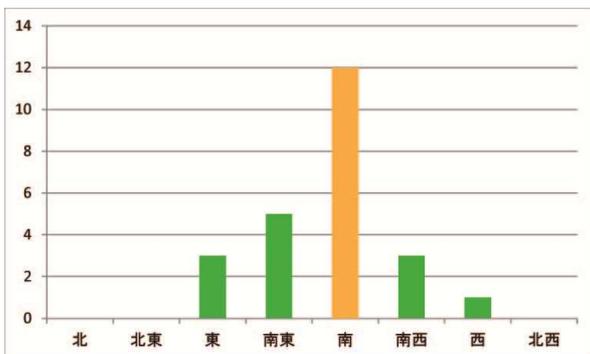


図 3-6 神社正面の方位（中流部右岸）

中流部左岸では方位の偏りは無い。

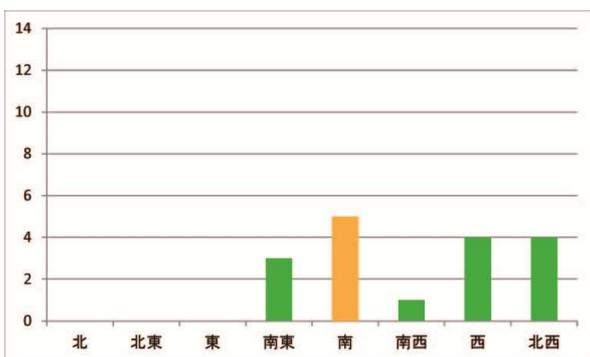


図 3-7 神社正面の方位（中流部左岸）

3.2.2 神社正面の河川に対する向きと分布

ここでは、神社正面の方位と、河川の流れる方向との関係を示す。両者の関係を①直交正面、②直交背面、③平行の3つの場合に分け、中流部右岸、中流部左岸のそれぞれで分布特性を示した。上流部に関しては河川の流路が直線ではなく、蛇行しているため、直交、平行の判別が困難であったため、中流部のみで行う。

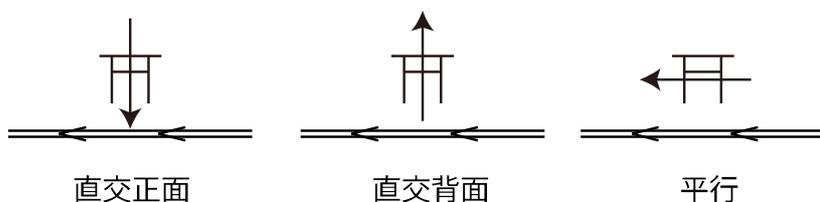


図 3-8 神社正面の河川に対する向きの類型化

分布の傾向を図 3-9 に示した。右岸ではすべての神社が直交正面であった。左岸では直交正面は約半数で、直交背面、平行が存在した。このことから右岸は直交正面が優位であるのに対して、左岸はばらつきがあることが明らかになった。

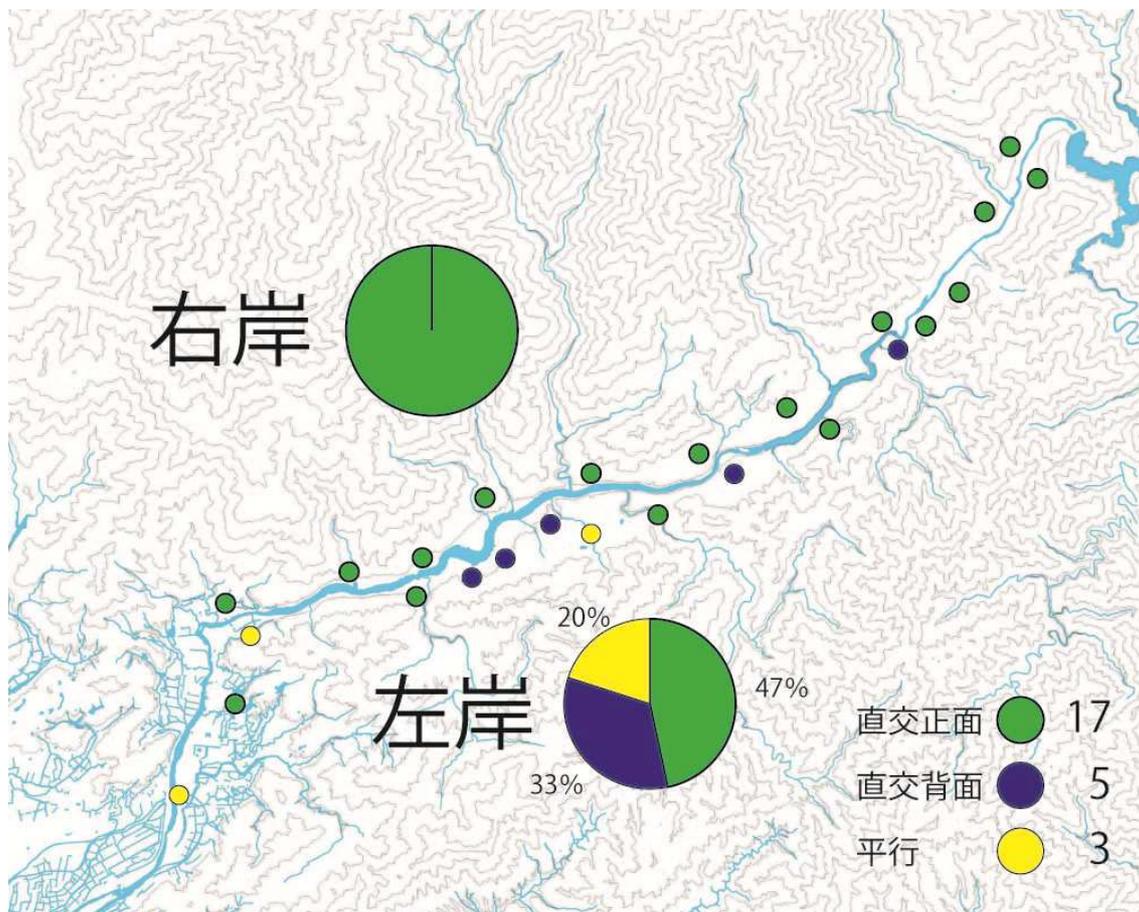


図 3-9 神社正面の河川に対する向きの分布

3.2.3 神社立地地形の類型化と分布

一般に神社研究では、神社の立地地形について古いものほど地形的特徴の強い場所に設けられるとされている。それを踏まえ、神社の立地地形を地形的特徴の強弱という観点から①特殊地形 ②地形の変化点 ③無特性の地形の3種に類型化した。

①特殊地形

- ・川岬 蛇行する川にむかって尾根が張り出している場所に立地
- ・山岬 山の中腹から尾根が突き出ている場所に立地
- ・谷 谷奥に立地
- ・小丘陵 小高い山の山頂に立地

②地形の変化点

- ・川際 平地から川にむかって急落する変化点に立地
- ・山際 平地から山への変化点に立地

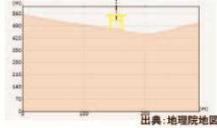
③無特性の地形

- ・平地中央 平地の中央に立地
- ・斜面地中央 斜面地の中央に立地

①特殊地形

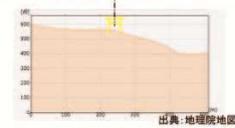
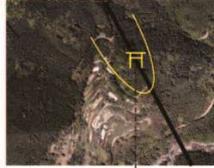
川岬

蛇行する川にむかって尾根が張り出している場所に立地



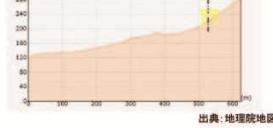
・山岬

山の中腹から尾根が突き出ている場所に立地



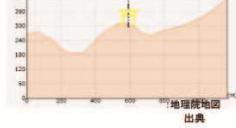
・谷

谷奥に立地



・小丘陵

小高い山の山頂に立地



②地形の変化点

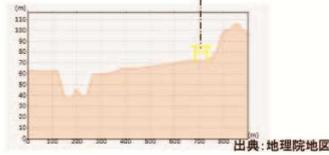
・川際

平地から川にむかって急落する変化点に立地



・山際

平地から山への変化点に立地



③無特性の地形

・平地中央

平地の中央に立地



・斜面地中央

斜面地の中央に立地



図 3-10 神社立地地形類型化

次に、①特殊地形 ②地形の変化点 ③無特性の地形 のそれぞれについて分布の特性を示す。

①特殊地形の分布について図 3-11 に示した。

B 地域に多く分布している。上流では川岬、山岬が多く、谷が少ない傾向がある。A 地域の右岸に谷がまとまって分布している。

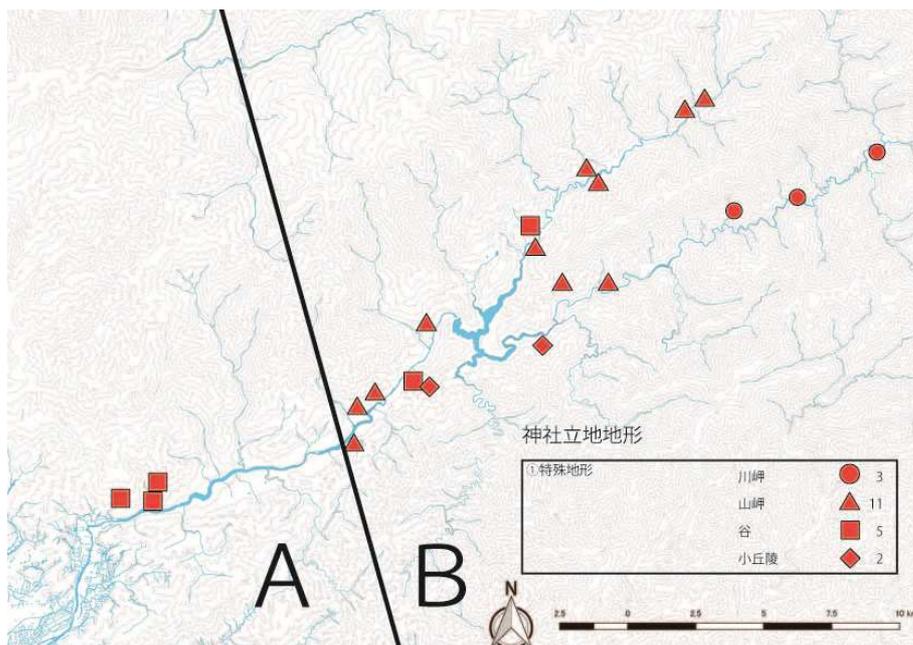


図 3-11 神社立地地形類型化分布①特殊地形

②地形の変化点の分布について図 3-11 に示した。

全域に分布している。川際は槇山川とA地域の左岸に分布している。右岸には存在しない。

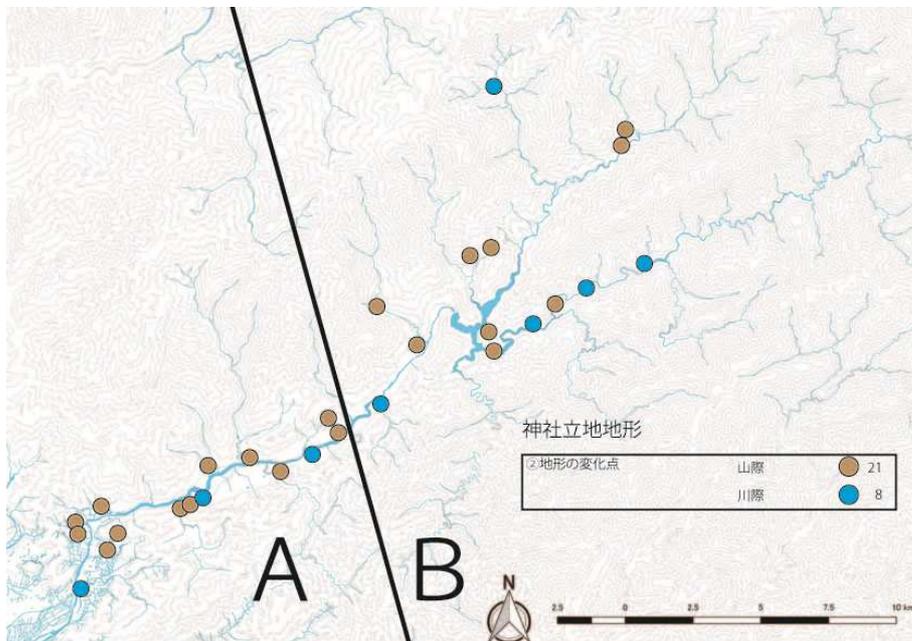


図 3-12 神社立地地形類型化分布②地形の変化点

③無特性の地形の分布について図 3-11 に示した。

A地域に多く分布している。平地中央はA地域のみ分布する。

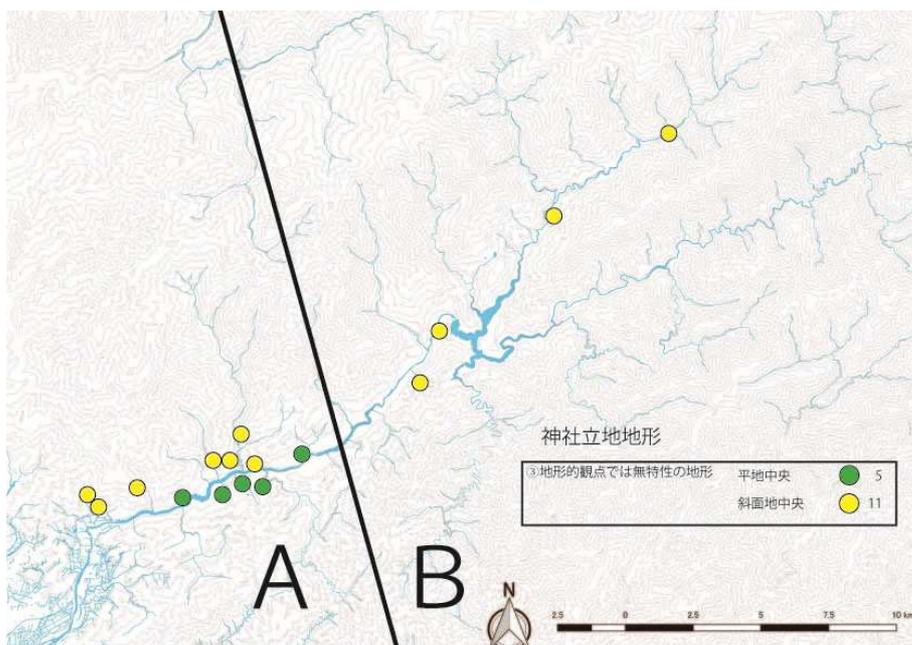


図 3-13 神社立地地形類型化分布③無特性の地形

3.2.4 斜面方向に対する神社正面の向き

次に、神社の立地する土地の斜面方向に対して、神社正面がどの方向を向いているのかについて地形類型別に類型化を行った。

①特殊地形では尾根筋方向、斜交の2つの場合に分け、分布特性を示した。

尾根筋方向

斜交

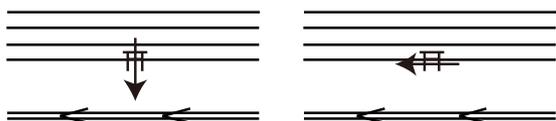


図 3-14 斜面方向に対する神社正面の向き①特殊地形

②地形の変化点では直交、平行、斜交、影響なしの4つの場合に分け、分布特性を示した。

直交

平行



斜交

影響なし

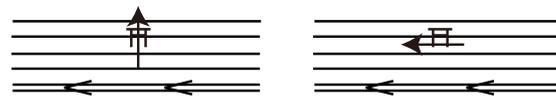


図 3-15 斜面方向に対する神社正面の向き②地形の変化点

③無特性の地形では直交、平行、斜交、影響なしの4つの場合に分け、分布特性を示した。

直交

平行



斜交

影響なし

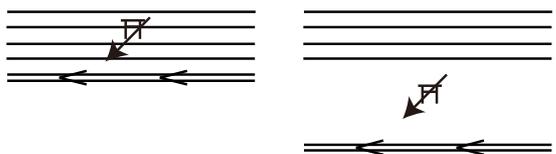


図 3-16 斜面方向に対する神社正面の向き③無特性の地形

次に、それぞれについて分布の特性を示す。

①特殊地形

尾根谷筋が多い。特殊地形の持つ方向と同じ方向に神社正面をとっている。

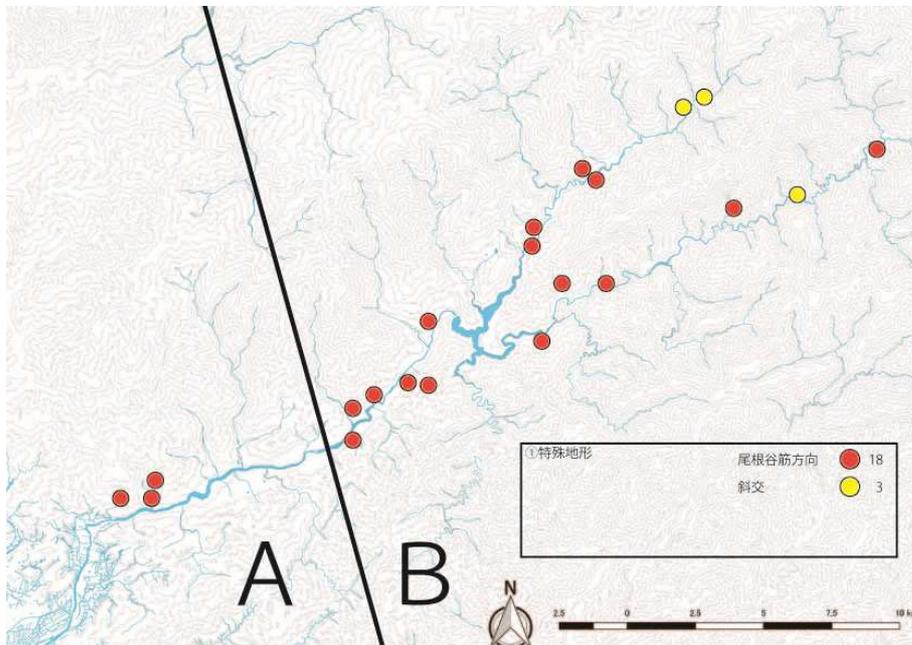


図 3-17 斜面方向に対する神社正面の向き①特殊地形

②地形の変化点

斜面に直交が多い。

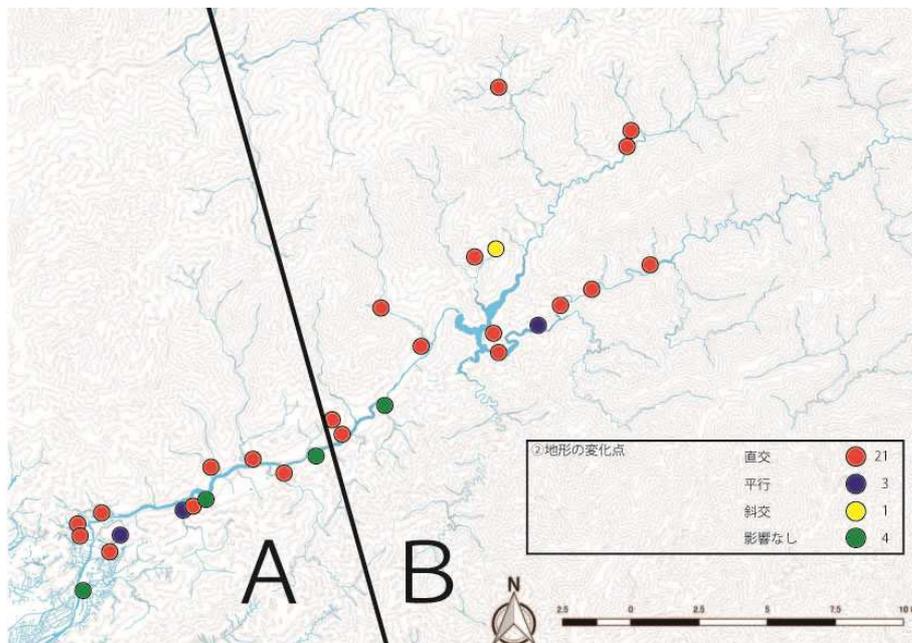


図 3-18 斜面方向に対する神社正面の向き②地形の変化点

③無特性の地形

傾向は見られない。A地域右岸に平行が集中している。

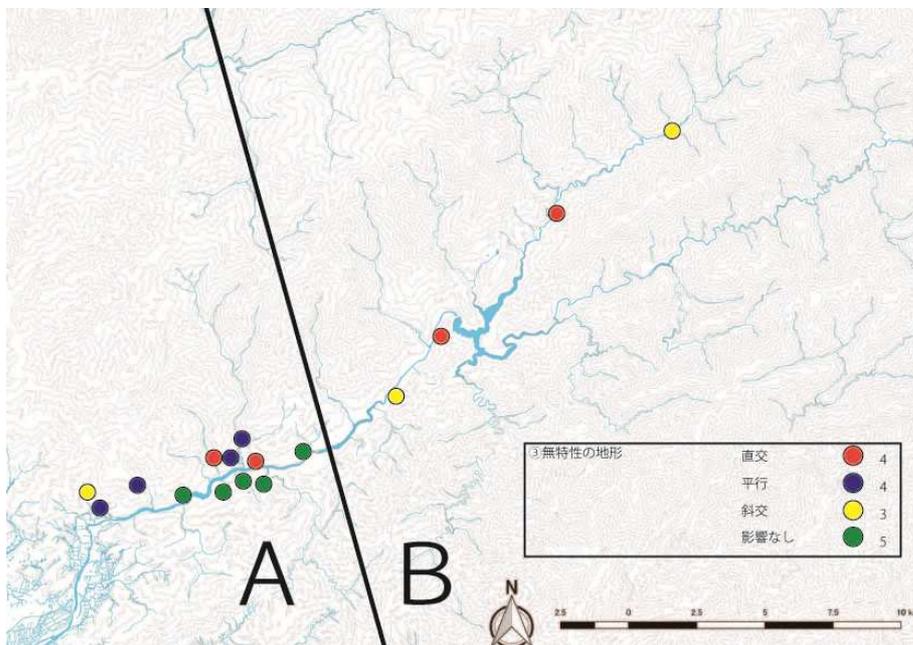


図 3-19 斜面方向に対する神社正面の向き③無特性の地形

3.3 物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間

3.3.1 集落と神社の立地関係の類型化と分布

ここでは、集落に対しての神社の立地場所について考察を行う。集落に対して神社の立地場所を①集落の内、②集落の縁、③集落の外 の3種で類型化し、分布特性を図3-21に示した。

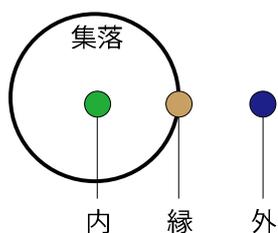


図3-20 集落と神社の立地関係類型化

集落の縁に立地している神社は全域に分布している。集落の内に立地している神社はA地域、集落の外に立地している神社はB地域に分布している。

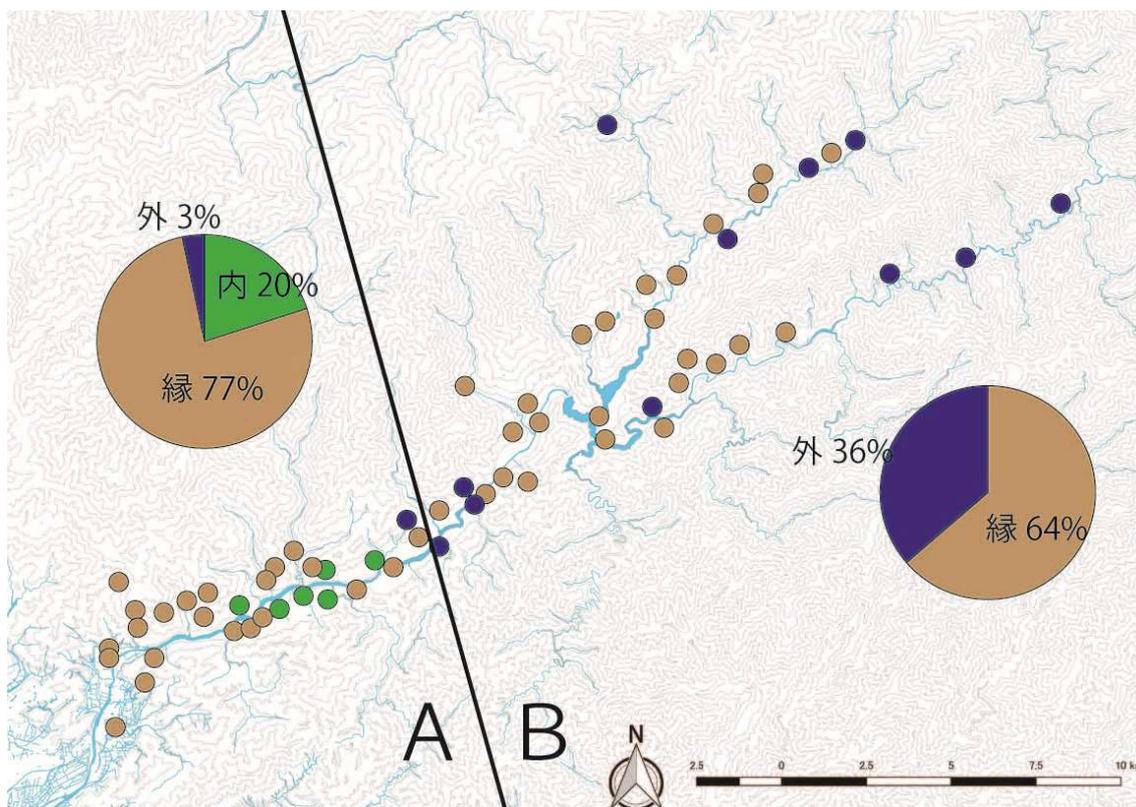


図3-21 集落と神社の立地関係類型化分布

3.3.2 集落と神社の相関

神社立地地形と集落との位置関係を考察する。3.2.3 神社立地地形の類型化と分布と3.3.1 集落と神社の立地関係の類型化と分布の相関を図3-22に示した。

全体では集落の縁に立地するものが多く、典型だと考えられる。

①特殊地形では集落の外に立地する神社が他の地形と比較して多い。集落の地形に対して、神社立地の差別化を図っていると考えられる。

②地形の変化点では集落の縁に立地するものが9割を占める。集落の終わる縁であり、同時に川際や山際といった地形の変化点であることが重要だと考えられる。

③無特性の神社立地では集落内が他との地形と比較して多く見られた。地形的特徴がなく、集落の内であるため、集落との差別化ができない。他の決定要因があるのではないかと考えられる。

		集落に対する神社の立地位置		
神社立地地形	特殊地形 33% (22)	外 36% (8)	縁 64% (14)	
	地形の変化点 44% (29)	外 10% (3)	縁 90% (26)	
	無特性 23% (15)	外 7% (1)	縁 53% (8)	内 40% (6)

図3-22 集落と神社の立地関係 相関

3.4 小結

第3章では集落と神社の空間を 1. 集落、2. 神社、3. 集落と神社 の3つの段階に分けて類型化、分布特性を考察した。

3.1 物部川流域圏上中流部の集落の空間では、中流側のA地域は平地が多く、上流側B地域では斜面地が多いことが分かった。

3.2 物部川流域圏上中流部の神社では、神社正面方位、立地地形、立地場所の斜面方向、の3要素を類型化し、分布特性を考察した。神社正面方位は全域では最も多い南でも3割で、傾向は見られなかった。中流部右岸で南が5割を占めた。立地地形は地形の変化点が全域で多い事が分かった。A地域では特殊地形が多く、B地域では無特性の地形が多くなることが分かった。立地場所の斜面方向と神社の向きに関して、①特殊地形では尾根筋や谷にそって神社の正面方向が決定されることが明らかとなった。

3.3 物部川流域圏上中流部の集落と神社では集落に対する神社の立地位置を類型化した。集落の縁に立地している神社は全域に分布している。集落の内に立地している神社はA地域、集落の外に立地している神社はB地域に分布している。

神社立地地形と集落との位置関係の相関をまとめる。

全体では集落の縁に立地するものが多く、典型だと考えられる。

①特殊地形では集落の外に立地する神社が他の地形と比較して多い。集落の地形に対して、神社立地の差別化を図っていると考えられる。

②地形の変化点では集落の縁に立地するものが9割を占める。集落の終わる縁であり、同時に川際や山際といった地形の変化点であることが重要だと考えられる。

③無特性の神社立地では集落内が他との地形と比較して多く見られた。地形的特徴がなく、集落の内であるため、集落との差別化ができない。他の決定要因があるのではないかと考えられる。

第4章 物部川流域圏上中流部全域における集落と神社の空間

第4章 物部川流域圏上中流部全域における集落と神社の空間

第4章では流域圏上中流部全域という大きな領域に着目する。地形と集落間をつなぐ往還道、聖山といった流域圏に影響を及ぼす地物を対象にして流域圏の空間構成を明らかにする。

4.1 物部川流域圏上中流部の地形

物部川流域圏の地形について図4-1に示した。対象領域の中央に物部川のもっとも大きな谷が北東から南西にかけて見られる。上流では谷と並行する向きに尾根があり、谷は二つに分かれる。物部川よりも北側では高い山が多く、北東から南西にかけて走る尾根から南に向けて7本の尾根が見られる。それと同時に谷も北向きに大規模に発達している。次に、物部川よりも南側では高い山はあまり見られず、尾根は大きな谷と並行の配置であるため、大きな谷も形成されない。

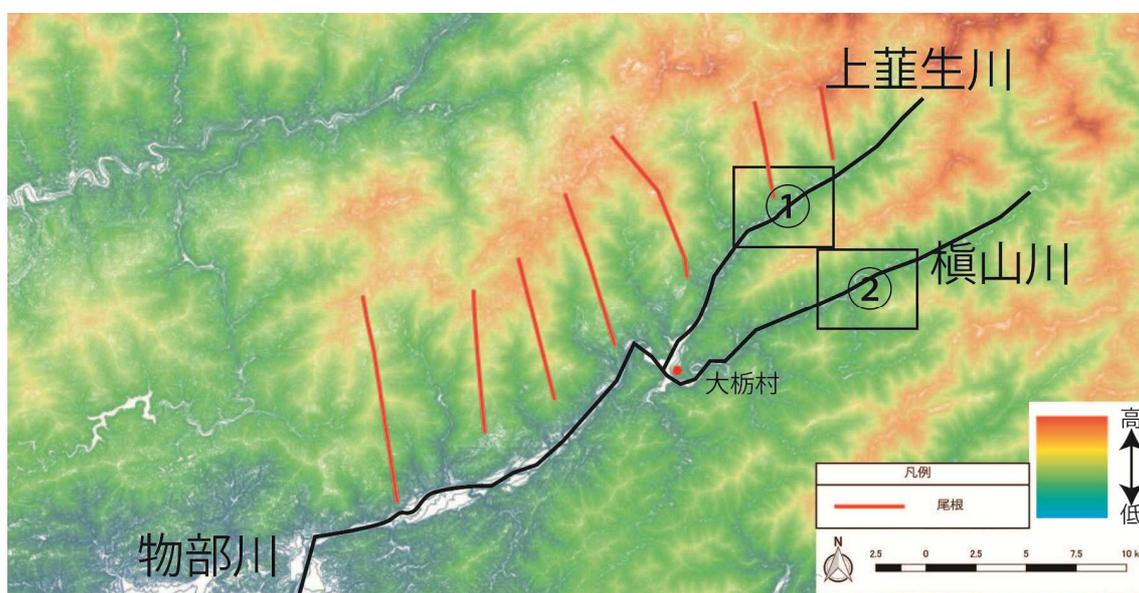


図4-1 物部川流域圏上中流部の起伏図

物部川上流部の上葦生川、槇山川については広域では特徴を把握しづらいため、拡大して詳細を述べる。図 4-2 に上葦生川の詳細図を示した。小規模な尾根と谷が無数に存在している。

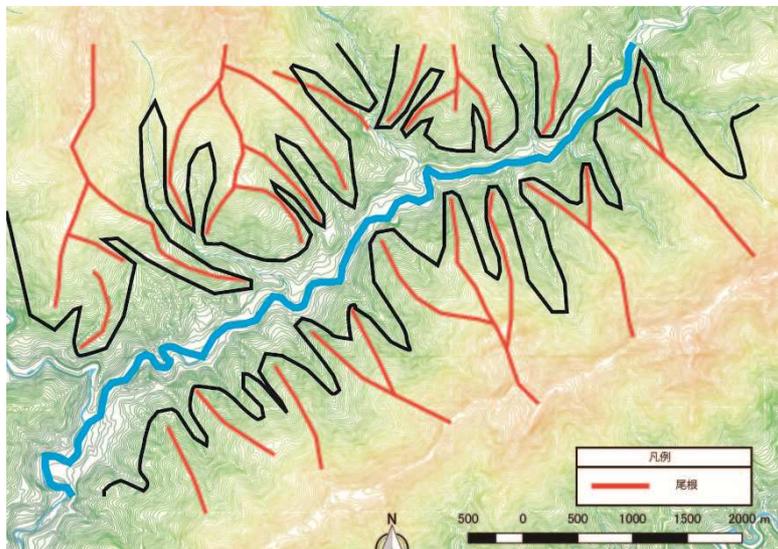


図 4-2 上流部上葦生川地形図 (図 4-1 の①の範囲)

次に、槇山川の詳細を示す。北側に大磯の平の尾根が北東から南西に通っており、そこから尾根が南に多数伸びている。小規模な尾根と谷が無数に存在している。河川槇山川は入り組んだ尾根と谷の間を流れているため、流路は紆余曲折している。上葦生川よりも谷の間隔が狭い。

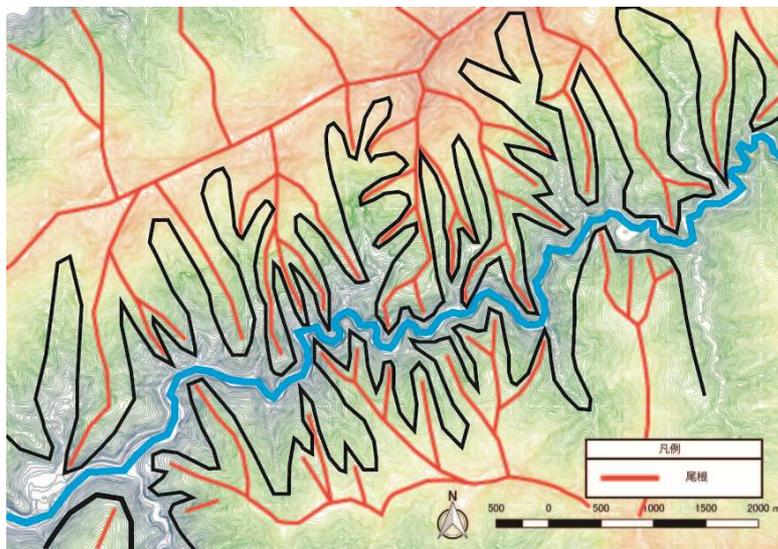


図 4-3 上流部槇山川地形図 (図 4-1 の②の範囲)

次に河川について図 4-4 に示した。

・上流部では上葦生川の主な支流は安野尾川、笹川、楮佐古川である。槇山川、舞川、則友川が見られる。上葦生川と槇山川の合流地点である。

・中流部

右岸には楮佐古川、日比原川、久保川、川ノ内川、天皇川が見られる。

左岸には萩野川、西川川、が見られる。

左岸よりも右岸の方が比較的大規模な支流河川が見られ、支流河川本数も多い。

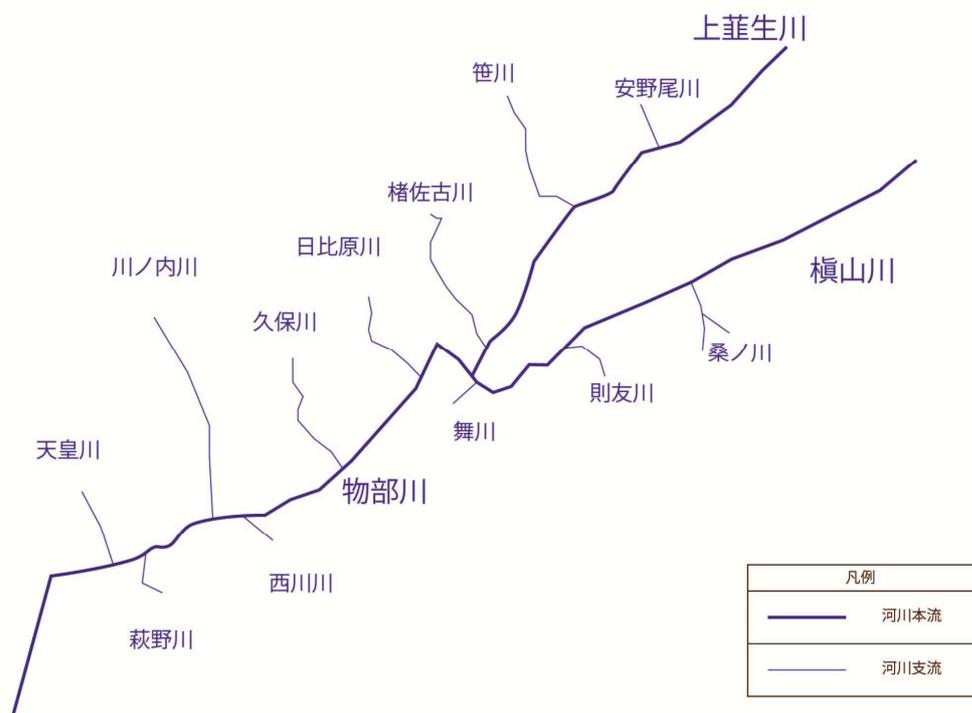


図 4-4 物部川流域圏上中流部の河川

4.2 物部川流域圏上中流部の道

次に、流域圏という広いスケールを対象とし、全体に影響を与える往還道や聖山が神社に与える影響について考察を行う。

・往還

槇山往還と葦生往還が物部川沿いに走っており、徳島県の奥地と、赤岡町・高知市といった海岸線をつないでいる。



図 4-5 往還

4.3 物部川流域圏上中流部の聖山

・聖山の空間構成

一般的に山頂付近に奥宮と呼ばれる神社が存在し、そのふもとに里宮と呼ばれる神社が設けられる。

聖山の神社構成

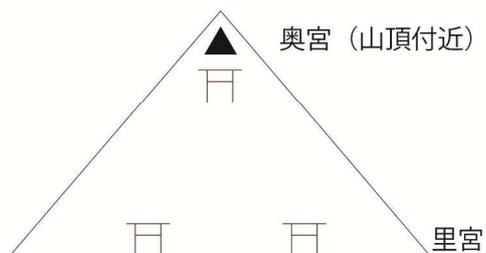


図 4-6 聖山の神社構成

・物部川流域圏における聖山を図 4-7 に示した。



図 4-7 物部川流域圏の聖山

・奥宮

聖山の山頂に奥宮が置かれ、ふもとに里宮が確認される。



図 4-8 物部川流域圏の聖山と奥宮

4.4 奥宮への参道と神社の関係

往還道と重ねると、葦生往還からそれぞれの聖山にむかって往還道が伸びている。往還道でありながら神社の参道のように機能し、里宮が往還道に面している。



図 4-9 物部川流域圏の奥宮と往還

菰生大山祇神社と左岸の中心である大川上美良布神社をつなぐように往還が存在する。往還沿いには神社の名称と各神社までの距離が刻まれた灯籠や丁石が見られる。

無特性の神社の分布を重ね合わせると、無特性の神社が聖山への参道に面している。面することで聖山と間接的に関わりを持っていると考えられる。



図 4-10 物部川流域圏の聖山と奥宮

4.5 小結

第4章では流域圏上中流部全域という大きな領域に着目し、地形と集落間をつなぐ往還道、聖山といった流域圏に影響を及ぼす地物を対象にした。右岸のみに高い山が存在し、聖山とされている。聖山の山頂には奥宮が置かれ、ふもとは里宮が置かれるという典型的な聖山の構成が見られた。往還道が参道のように機能していることが分かった。

3章で扱った無特性の地形に立地する神社について、往還道に面していることが分かった。中流部では平地が増えて地形的特徴が見だしにくい。そのため往還道に面することで、間接的に聖山とつながるようにしていると考えられる。

第5章 物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的考察

第5章 物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的考察

5章では3章から4章までの各章の結論を再度まとめなおし、物部川流域圏上中流部の空間的特質を明らかにする。

5.1 物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間

第3章では集落と神社の空間を 1. 集落、2. 神社、3. 集落と神社 の3つの段階に分けて類型化、分布特性を考察した。

3.1 物部川流域圏上中流部の集落の空間では、中流側のA地域は平地が多く、上流側B地域では斜面地が多いことが分かった。

3.2 物部川流域圏上中流部の神社では、神社正面方位、立地地形、立地場所の斜面方向、の3要素を類型化し、分布特性を考察した。神社正面方位は全域では最も多い南でも3割で、傾向は見られなかった。中流部右岸で南が5割を占めた。立地地形は地形の変化点が全域で多い事が分かった。A地域では特殊地形が多く、B地域では無特性の地形が多くなることが分かった。立地場所の斜面方向と神社の向きに関して、①特殊地形では尾根筋や谷にそって神社の正面方向が決定されることが明らかとなった。

3.3 物部川流域圏上中流部の集落と神社では集落に対する神社の立地位置を類型化した。集落の縁に立地している神社は全域に分布している。集落の内に立地している神社はA地域、集落の外に立地している神社はB地域に分布している。

神社立地地形と集落との位置関係の相関をまとめる。

全体では集落の縁に立地するものが多く、典型だと考えられる。

①特殊地形では集落の外に立地する神社が他の地形と比較して多い。集落の地形に対して、神社立地の差別化を図っていると考えられる。

②地形の変化点では集落の縁に立地するものが9割を占める。集落の終わる縁であり、同時に川際や山際といった地形の変化点であることが重要だと考えられる。

③無特性の神社立地では集落内が他との地形と比較して多く見られた。地形的特徴がなく、集落の内であるため、集落との差別化ができない。他の決定要因があるのではないかと考えられる。

5.2 物部川流域圏上中流部全域における集落と神社の空間

第4章では流域圏上中流部全域という大きな領域に着目し、地形と集落間をつなぐ往還道、聖山といった流域圏に影響を及ぼす地物を対象にした。右岸のみに高い山が存在し、聖山とされている。聖山の山頂には奥宮が置かれ、ふもとには里宮が置かれるという典型的な聖山の構成が見られた。往還道が参道のように機能していることが分かった。

3章で扱った無特性の地形に立地する神社について、往還道に面していることが分かった。中流部では平地が増えて地形的特徴が見だしにくい。そのため往還道に面することで、間接的に聖山とつながるようにしていると考えられる。

5.3 物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的特質

神社の立地地形と向きについて図 5-1 にまとめた。3つの地域に分けて考察する。

・B地域では、神社立地地形は①特殊地形が多く、神社の向きは地形に従うことが明らかになった。蛇行した川と無数の尾根が重なる複雑な地形である。また、集落の地形も尾根や谷といった特徴のある地形に立地している。集落と神社の差別化を図るために、複雑な地形のなかでも特に特殊な川岬や山岬といった地形に神社を配置し、聖なる場所として認識していたと考えられる。

・A地域右岸では、神社立地地形は②地形の変化点③無特性の地形が分布している。方位は南が多く、川との向きも直交正面をとる。斜面との向きは直交が多く、一部平行をとる。特徴的な山々が存在し、聖山とされ奥宮が置かれる。そして、ふもとには里宮が置かれるという典型的な聖山の構成である。

・A地域左岸では、神社立地は②地形の変化点、③無特性の地形が分布している。A地域右岸には見られない川際の神社が見られた。神社方位には特性が無く、川との向きについても特性が無い。また、斜面との向きにも特性が無い。対岸の聖山の参道として機能している往還道に神社を配置する。地形的特徴が弱く、神社正面の方向性にも混乱が生じている。北向き斜面で、北側に物部川が流れ、かつ対岸に聖山があるという地形的特質が原因と考えられる。

	立地地形	方位	川との向き	斜面との向き
B地域	①特殊地形 ②地形の変化点	傾向無し	——	直交
A地域右岸	②地形の変化点 ③無特性の地形	南	直交正面	直交 一部平行
A地域左岸	①地形の変化点 ②無特性の地形	傾向無し	傾向無し	傾向無し

図 5-1 神社の立地地形と正面向き

神社の立地地形と集落との関係について考察を行う。図 5-2 に神社の立地について示した。神社の立地地形は自然に近づくほど強まり異界を感じさせ、逆に生活に近づくほど弱まっていき日常と同化していく。最も自然に近い神社は特殊地形そのものを異界と捉えて設けられている。次に、聖山の空間構成を合わせる。聖山の山頂が最も異界性が強く、次に里宮、最後に参道沿いの神社というように生活空間に近づいていく。

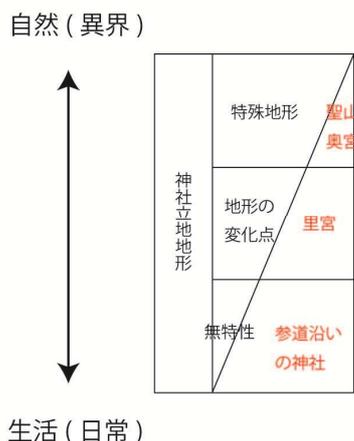


図 5-2 神社の立地地形と聖山の構成

最後に集落と神社の位置関係を考察する。特殊地形や聖山は地形的特徴が強く、それ自体が異界となり、集落は離れて立地する。地形の変化点や里宮では集落と神社は接近する。無特性、参道沿いの神社は集落内に位置し、身近な存在となる。

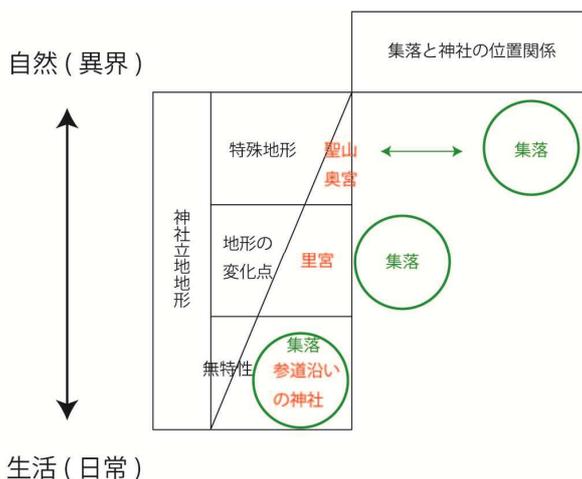


図 5-3 神社立地地形と集落との位置関係

物部川において、人々が地形をどのように感知し、様々な条件に対していかに住みうるのかについての見解を得た。人々は地形的特徴の強弱や集落と神社の位置関係を巧みに利用し、聖地を定め、心のよりどころとしていたと考えられる。

第6章 終章

第6章 終章

6.1 成果

本稿では、物部川流域圏上中流部における集落と神社の空間的特質を示した。上流部は斜面地形で平地が無く、集落は斜面に作られる。中流部では平地が多くなり、集落も平地に作られることが分かった。上流部の神社は特殊地形に立地するものが多く、集落の外に設けられる事例が見られた。中流部では、地形の変化点や、無特性の地形が多く、集落の縁、または内に立地する。神社の立地や正面方位について、右岸では傾向が見られたものの、左岸では傾向が見られなかった。これは右岸が南向き斜面であり川が南側に流れているのに対し、左岸では北向き斜面で北側に川が流れているという差異が生み出した結果だと考えられる。さらに、右岸にのみ高い特徴的な聖山があり、聖山として信仰の対象となっているという全体構成がより右左岸の違いを顕著にしている。上流部、中流部右左岸それぞれの地形、方位の違いが集落と神社、また集落と神社の位置関係に影響を与えていると分かった。以上から、物部川において人々が地形をどのように感知し、様々な条件に対していかに住みうるのかについての見解を得た。人々は地形的特徴の強弱や集落と神社の位置関係を巧みに利用し、聖地を定め、心のよりどころとしていたのである。

6.2 課題

本研究では物部川流域圏上中流部を対象に集落と神社の空間的考察を行った。しかしながら、上中流部という広大な領域において要素を絞って類型化を行っているため、それぞれ個別の集落における集落と神社の関係や、集落の空間構成については言及していない。上中流部全体での空間的特質を把握したうえで、集落ごとに詳細な研究を行うことで、より、物部川の空間的特質に迫ることができると考えている。

主要参考文献

- 大嶋仁（2010）『日本人の世界観』 中央公論新社
- 景山春樹（2001）『神体山』 学生社
- 嶋田奈穂子、山根周（2009）「滋賀県野洲川流域における神社の立地特性に関する研究」 日本建築学会論文集
- 遠日出典（昭和 61）『神仏習合』 株式会社六興出版
- 松本実（昭和 38）『物部村史』 物部村教育委員会
- 鎌田東二（2011）『現代神道論』 株式会社春秋社
- 国立歴史博物館（2003）『神と仏のいる風景』 山川出版社
『香北町史』
- 土佐山田町（昭和 59）『山田堰』 中央印刷株式会社
- 小松和彦（2011）『いざなぎ流の研究 歴史のなかのいざなぎ流太夫』 角川学芸出版
- 嶋田奈穂子、山根周（2009）『滋賀県野洲川流域における神社の立地特性に関する研究』 日本建築学会論文集
- 松本実（昭和 38）『物部村史』 物部村教育委員会
- 香北町長 野島民雄（2006）『香北町史』 高知印刷株式会社
- 土佐山田町（昭和 59）『山田堰』 中央印刷株式会社
- 楠瀬慶太（平成 20）『新・葦生嶺山風土記』
- 後藤隆太郎、中岡義介（2002）『集住地の神社からみた佐賀低平地における集住地特性』 日本建築学会計画系論文集
- ・山本直彦、平尾和洋、宮内杏里（2016）『歴史的風土特別保存地区における民家の屋敷構えに関する研究 明日香村の奥山・飛鳥・河原・野口・岡・島庄の六大字を事例として』 日本建築学会計画系論文集社団法人
 - ・日本建築学会（1989）『図説 集落』 都市文化社
- 矢嶋仁吉（1956）『集落地理学』 古今書院
- 在所村公民館（昭和 29）『在所村史』 在所村公民館村史編纂部
『香美郡神社明細帳』
- ・木下靖史（平成 13）『琵琶湖湖岸における集落・神社の平面構成による類型化（その 1）—湖西エリアを対象として—』 日本建築学会近畿支部研究報告書
 - ・牧絢子（平成 13）『琵琶湖湖岸における集落・神社の平面構成による類型化（その 2）—湖北エリアを対象として—』 日本建築学会近畿支部研究報告書

『香美郡神社明細帳』

- ・増井正哉（昭和 62）『「鎮守の森」の立地類型と周辺環境の変容に関する考察—南山城地区の神社とその集落を通して—』日本建築学会大会学術講演概要集
- ・三好花保（2015）『神社とその周辺集落の形成過程にみる札幌市の空間特性』日本建築学会北海道支部
- ・水嶋克典（2001）『神奈川県における日枝神社の社殿配置について—その 1 河川との関係—』日本建築学会大会学術講演概要集
- ・西谷宗泰、真田純子（2009）『吉野川沿川における神社立地の特徴に関する研究』
- ・原田紫帆、辻原万規彦（2012）『阿蘇外輪山の内側に位置する神社の配置と人々の暮らしの関係』日本建築学会九州支部研究報告

謝辞

本稿をまとめるにあたり、指導をしてくださった渡辺准教授、重山教授、田島准教授には心より感謝申し上げます。

渡辺教授には、調査の方法や論理的な構成についてご指導いただきありがとうございます。学部4年生の時に物部川を紹介していただき、研究室のメンバーとともに大栃から大学まで川沿いを歩き、神社を見て回ったことはかけがえのない経験だったと感じています。

また、何の事前連絡もなしに調査に行っているにも関わらず、丁寧に神社の位置を教えていただいた物部の方々に深く感謝を申し上げたいと思います。平地のほぼ無い斜面地で畑を耕し、生活を営み、神社にお参りするその姿に私の心は強く揺さぶられました。過疎により消えゆくとしている今集落と神社を調査、記録させていただいたことに深く感謝し、後世に残したいと思います。

本研究を進めるにあたり、多くの助言をいただいた研究室のメンバーにも心より感謝申し上げます。最後になりましたが、6年間に渡る大学生活を温かく見守り、励まし、支えてくださった家族に心より感謝申し上げます。

付録 物部川流域圏上中流部の集落と神社の空間

物部川流域圏上流部

1. 別府村 村社：公土方神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 176
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：川岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：外

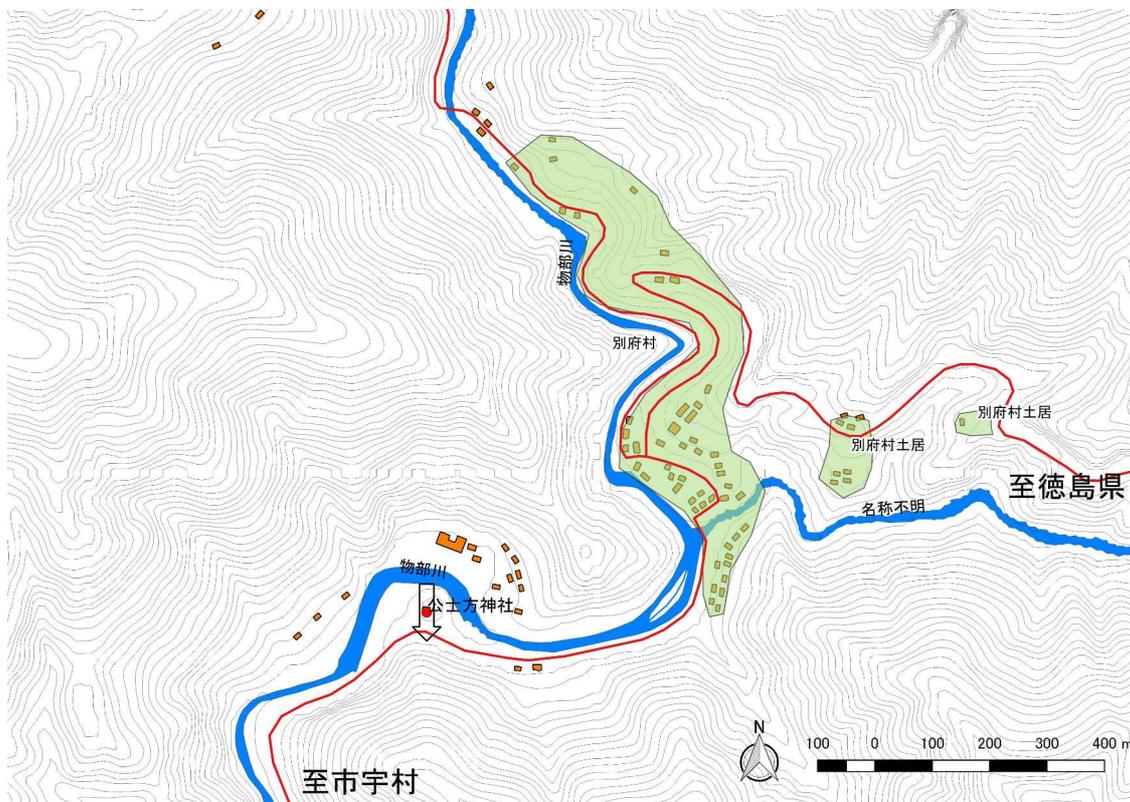


図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

2. 市宇村 村社：十二所神社

- (1)集落地形：尾根
- (2)神社正面の方位：東 85
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：川岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：斜向
- (6)集落と神社の立地関係：外

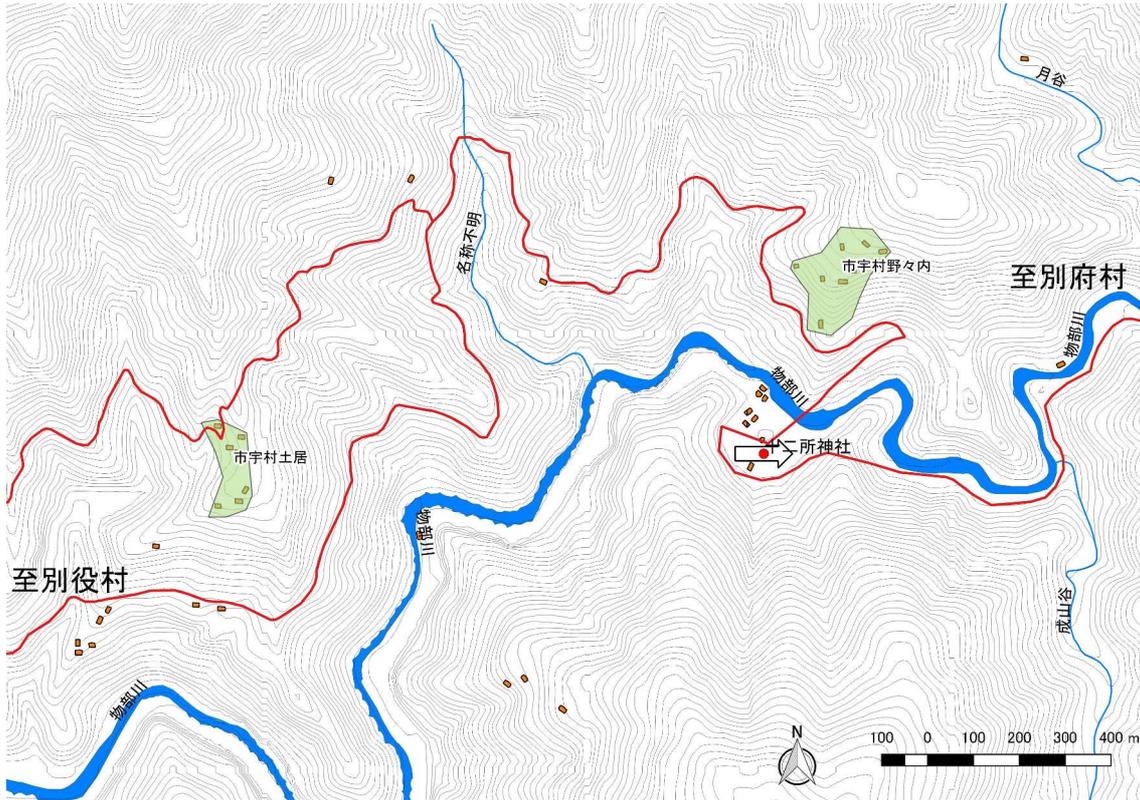


図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

3. 別役村 村社：小松神社

- (1)集落地形：尾根
- (2)神社正面の方位：南東 153
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：川岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：外

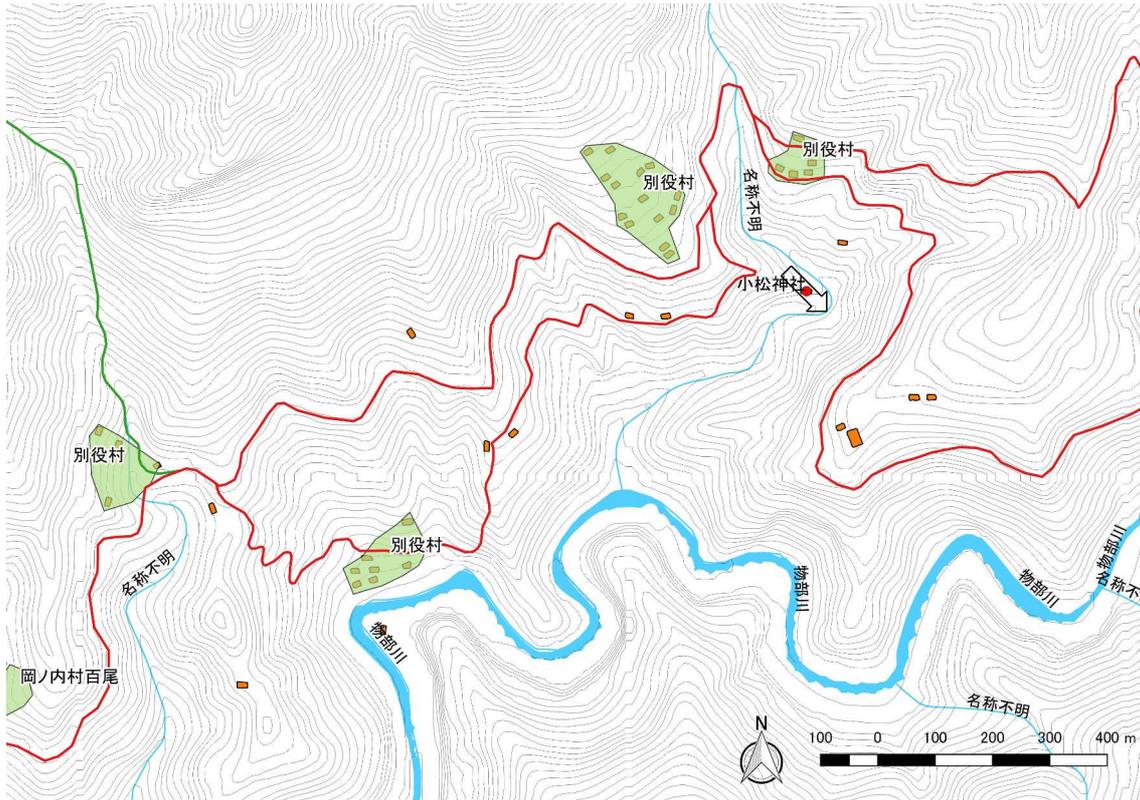


図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

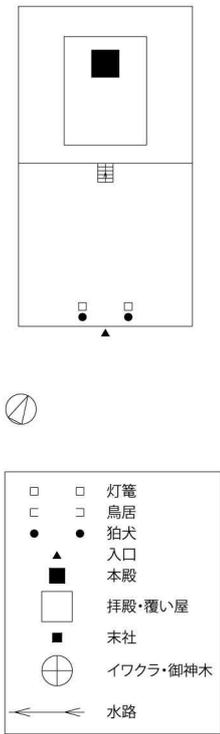


図 小松神社境内略図 S = 1 : 500

4. 岡ノ内村 村社：馬岡公土方神社

- (1)集落地形：その他
- (2)神社正面の方位：南 180
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

5. 根木屋村 村社：竈戸神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南西 228
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁

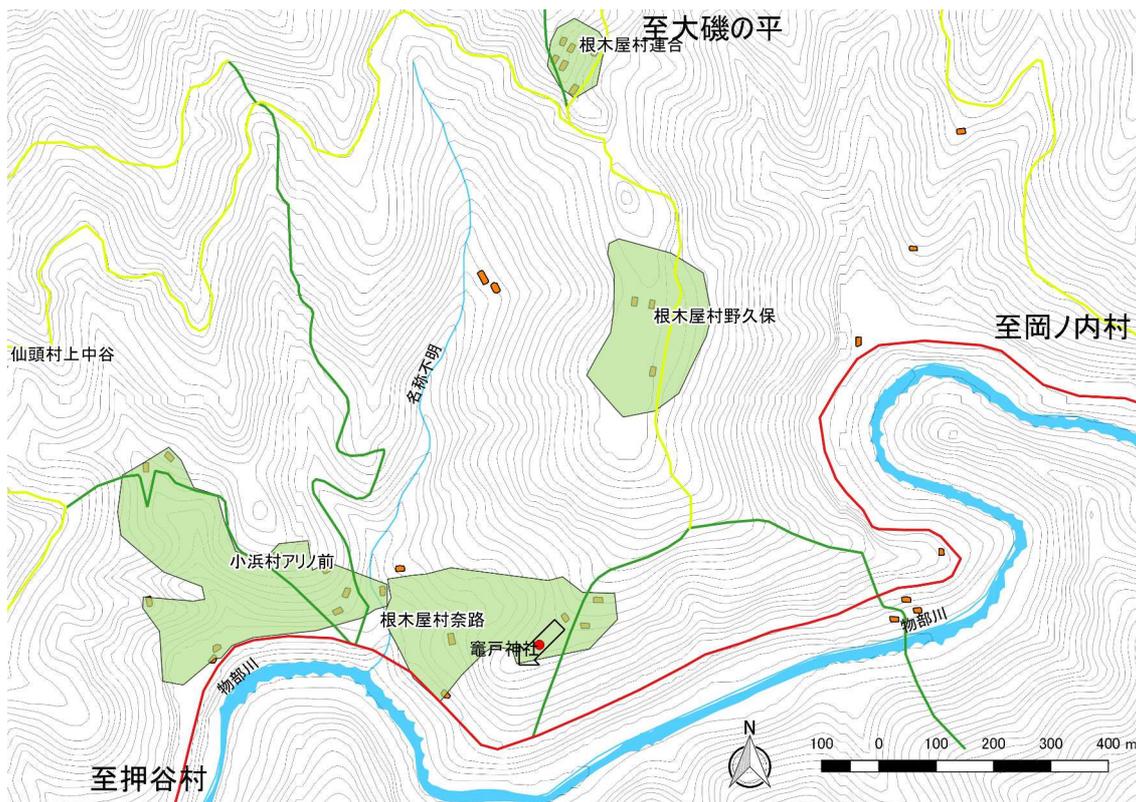


図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

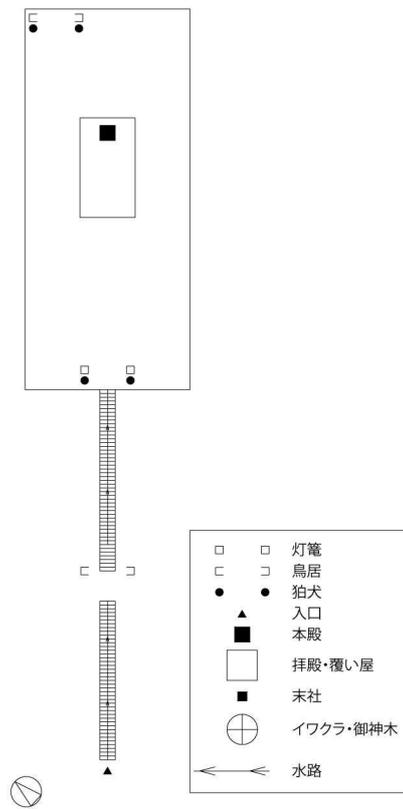


図 竈神社境内略図 S = 1 : 500

6. 小浜村 村社：十二所神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南東 151
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁

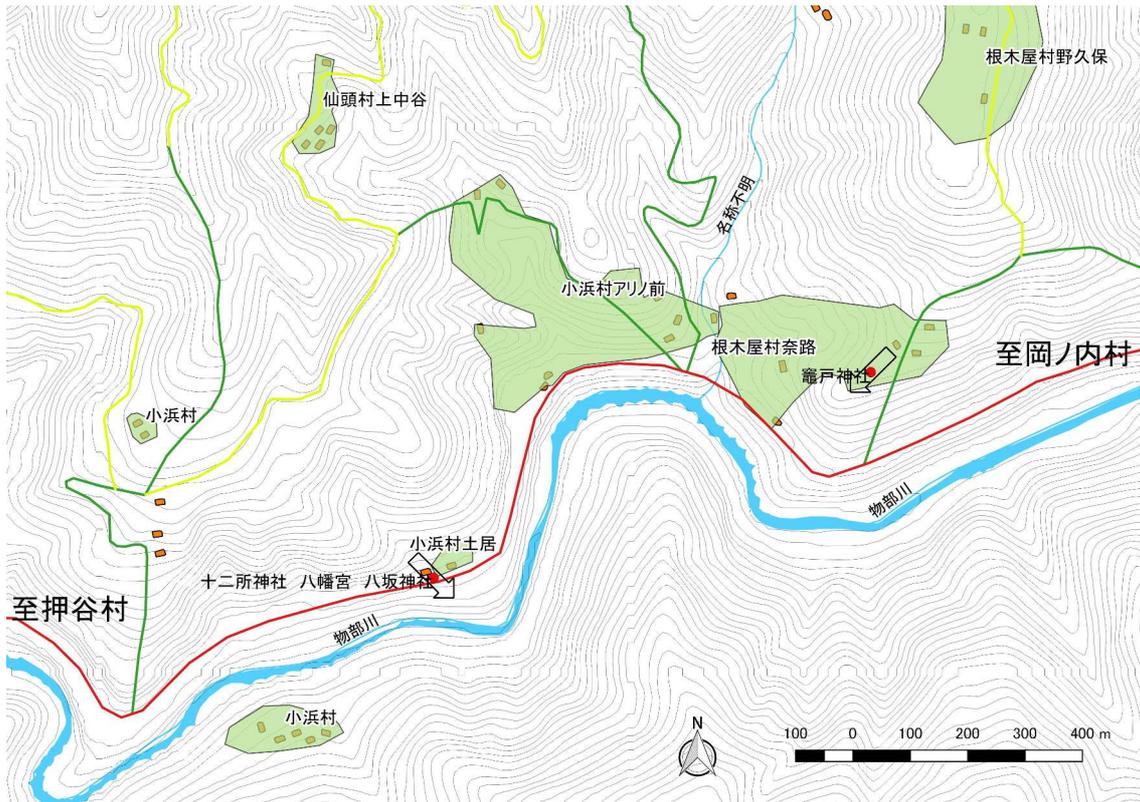


図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

7. 大栃村榑ヶ谷 村社：立伊神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：北西 330
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

8. 押谷村 村社：仁井田神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：西 281
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

9. 仙頭村影 村社：五社王子宮

- (1)集落地形：その他
- (2)神社正面の方位：南東 137
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：小丘陵
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

10. 仙頭村柳ノ上 村社：有宮須賀神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：東 93
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：外



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

11. 山崎村 村社：山崎神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南東 180
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

12. 大栃村 村社：八王子宮

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：西 274
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

13. 久保村影 村社：石土神社

- (1)集落地形：谷
- (2)神社正面の方位：南西 215
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：斜向
- (6)集落と神社の立地関係：外

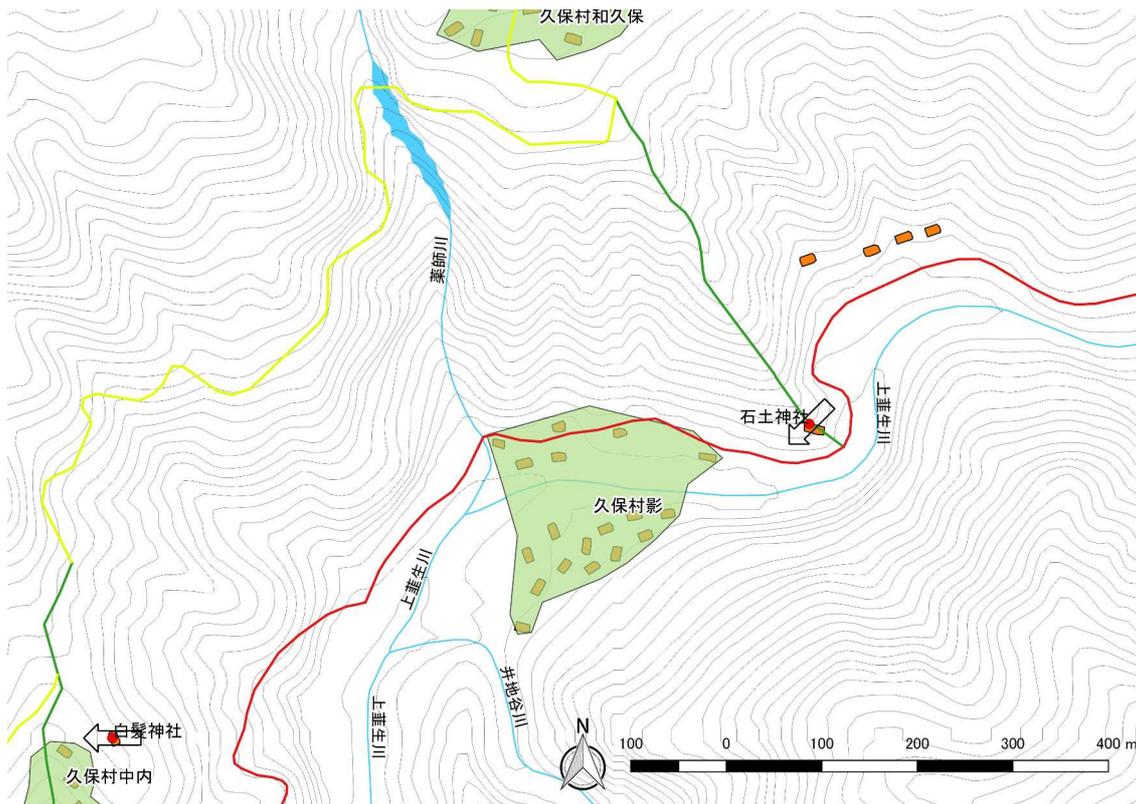


図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

14. 久保村中内 村社：白髪神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：西 255
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：斜向
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

15. 久保村沼井 村社：聖神社

- (1)集落地形：谷
- (2)神社正面の方位：北西 293
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：斜向
- (6)集落と神社の立地関係：外



図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

16. 久保村安野尾 村社：須賀神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 193
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

18. 大西村 村社：仁井田三所神社

- (1)集落地形：尾根
- (2)神社正面の方位：南東 154
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

19. 南池村 村社：須賀神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：北 342
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：外

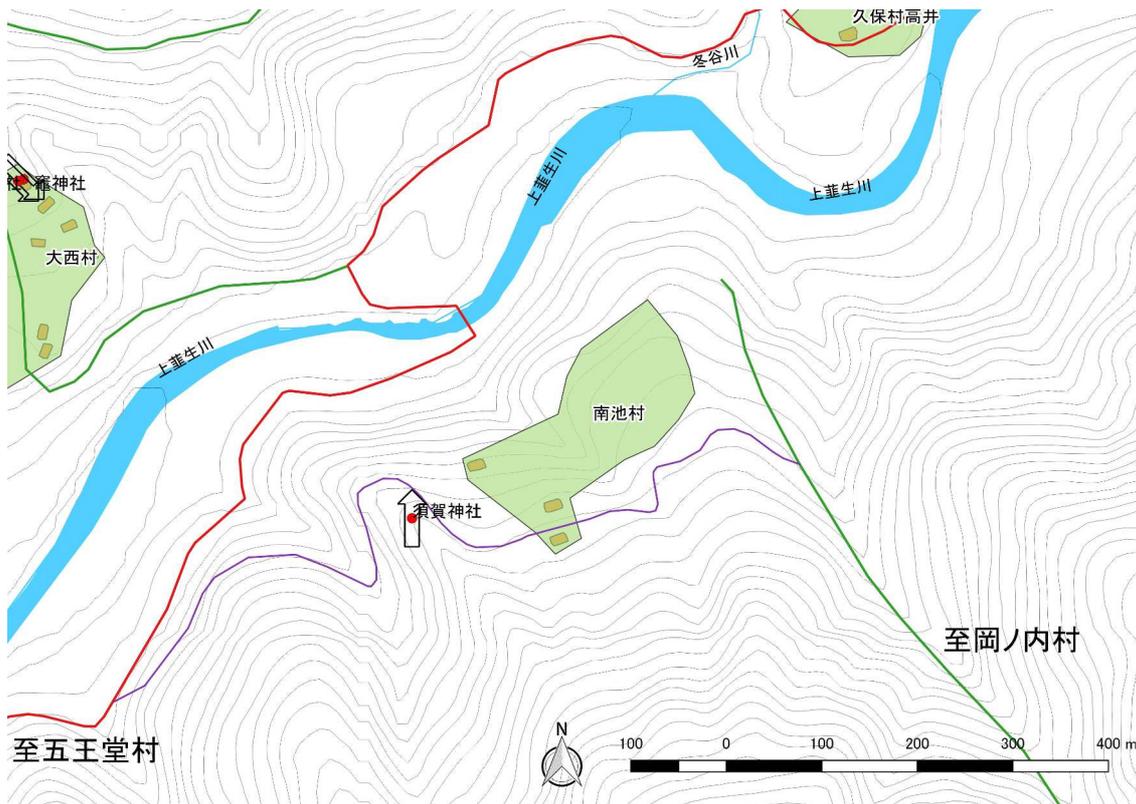


図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

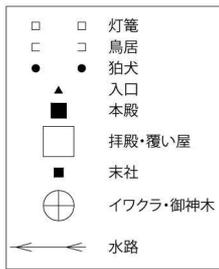
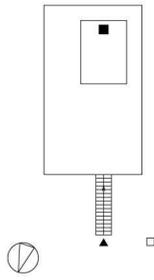


図 須賀神社境内略図 S = 1 : 500

20. 五王堂村 村社：田中神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：西 255
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：斜面地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

21. 笹村 村社：磐本神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南東 123
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：外



図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

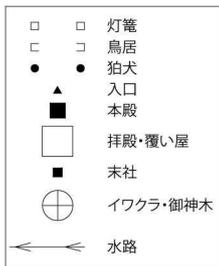
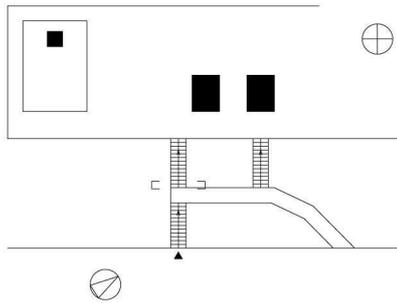


図 磐本神社境内略図 S = 1 : 500

22. 黒代村 村社：谷辺ノ神社

- (1)集落地形：谷
- (2)神社正面の方位：南 165
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：谷
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：谷筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

23. 安丸村 村社：安丸神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：北 359
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

25. 楮佐古村 村社：的場神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南東 105
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 集落神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

26. 柳瀬村 村社：柳瀬神社

柳瀬村はダムにより水没し、村社は移転しているため、本研究では対象としていない。参考までに移転後の位置を示す。

- (1)集落地形：不明
- (2)神社正面の方位：北 344
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：
- (6)集落と神社の立地関係：



図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

付録

物部川流域圏中流部

1. 猪野々村 村社：王子宮

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：東 110
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

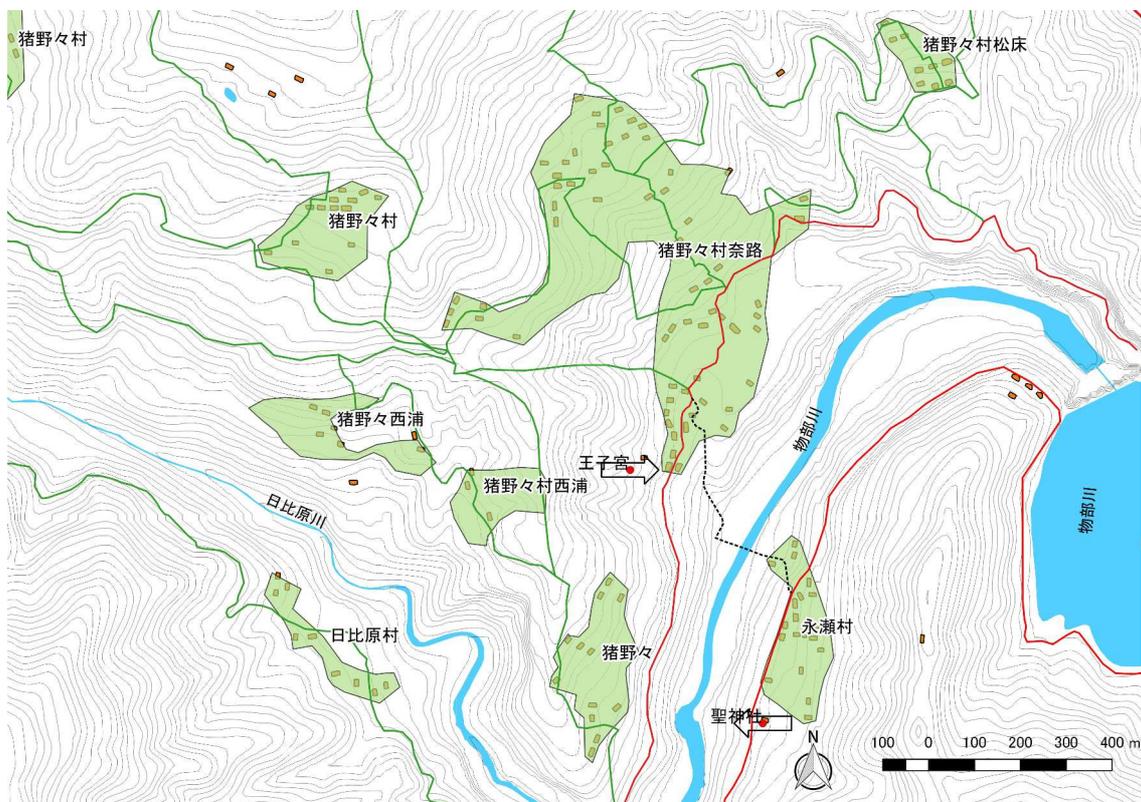


図 集落神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

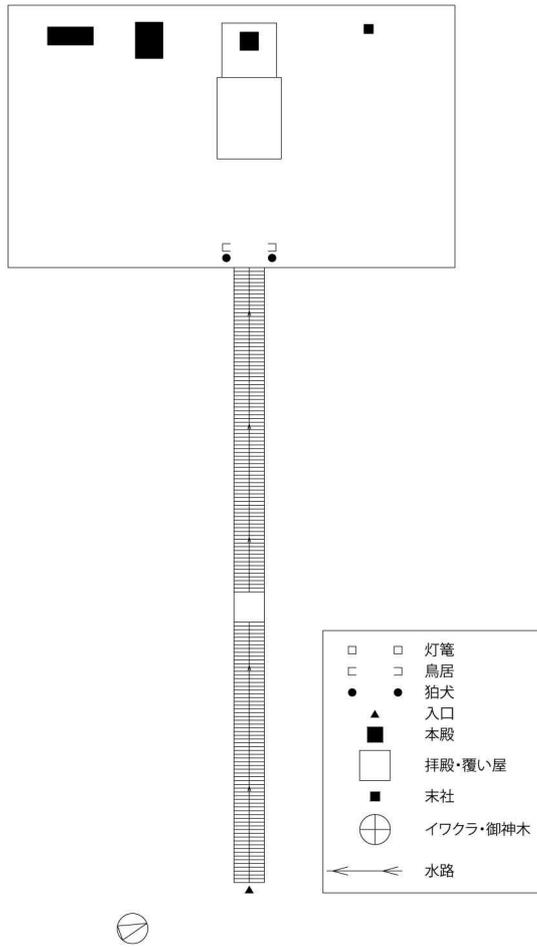


図 王子宮境内略図 S = 1 : 500

2. 猪野々村柚ノ木 村社：仁井田神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：東
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

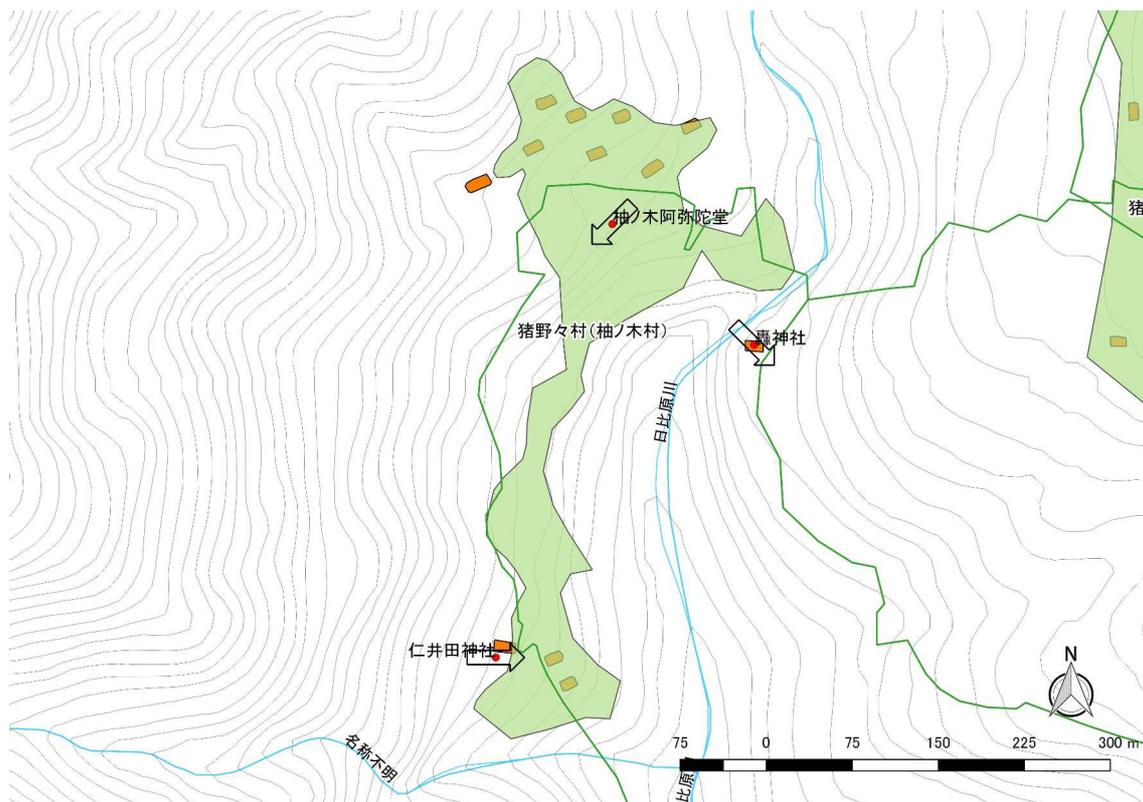


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

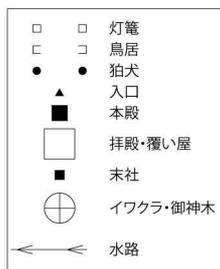
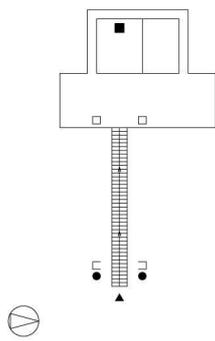


図 仁井田神社境内略図 S = 1 : 500

3. 永瀬村 村社：聖神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：西 286
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

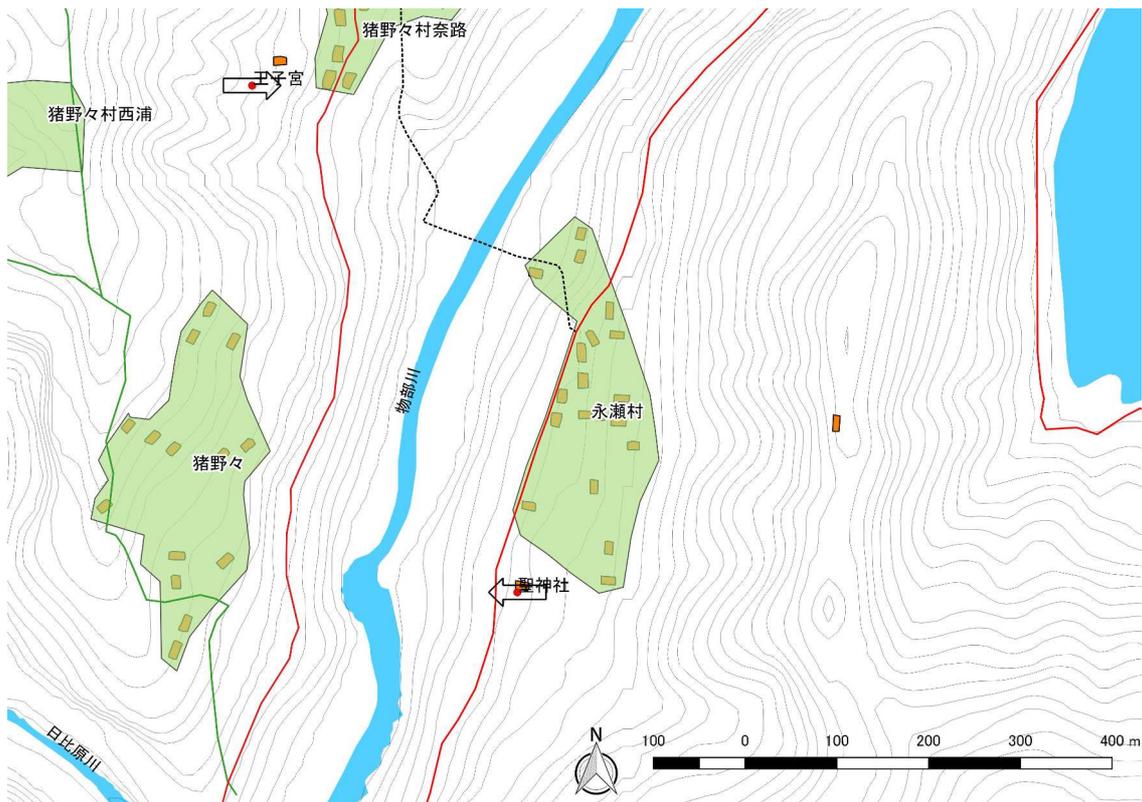


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

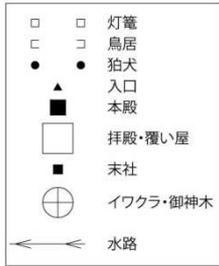
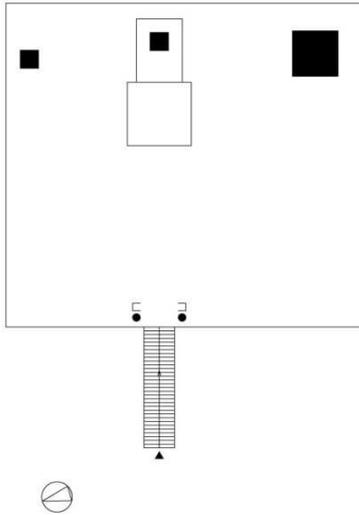


図 聖神社境内略図 S = 1 : 500

4. 清爪村 村社：杉尾神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南東 152
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

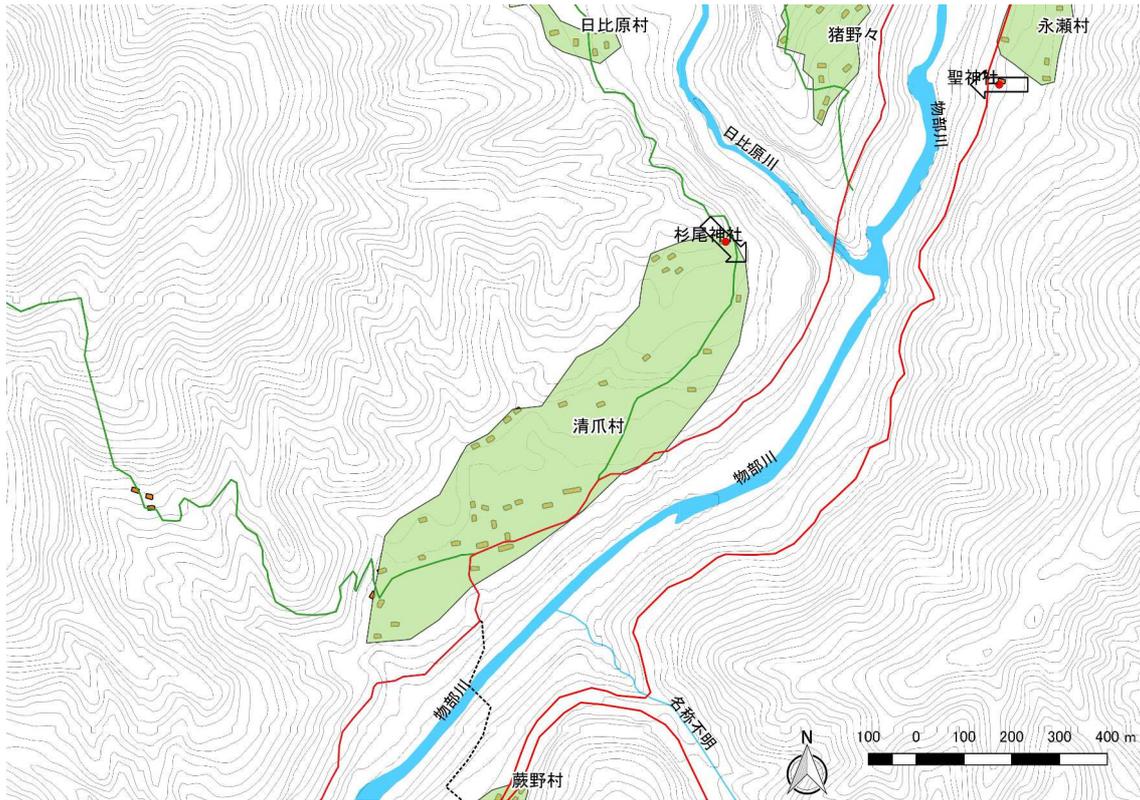


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

5. 中谷川村 村社：熊野神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 194
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：小丘陵
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

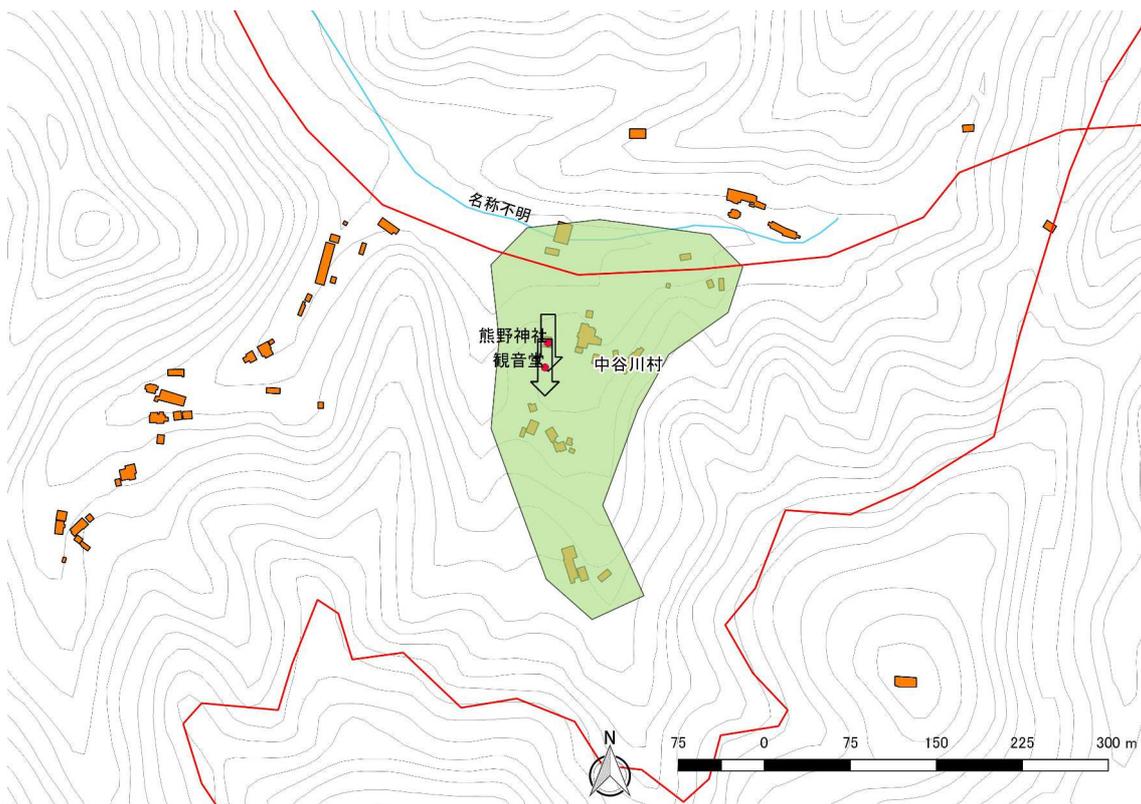


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

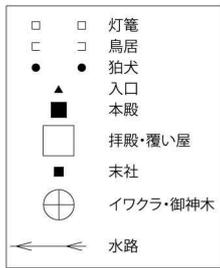
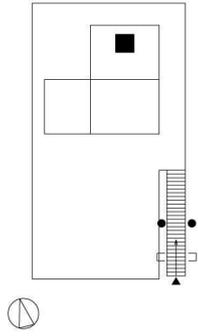


図 熊野神社境内略図 S = 1 : 500

6. 蕨野村 村社：山神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：北西 317
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：谷
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：谷筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

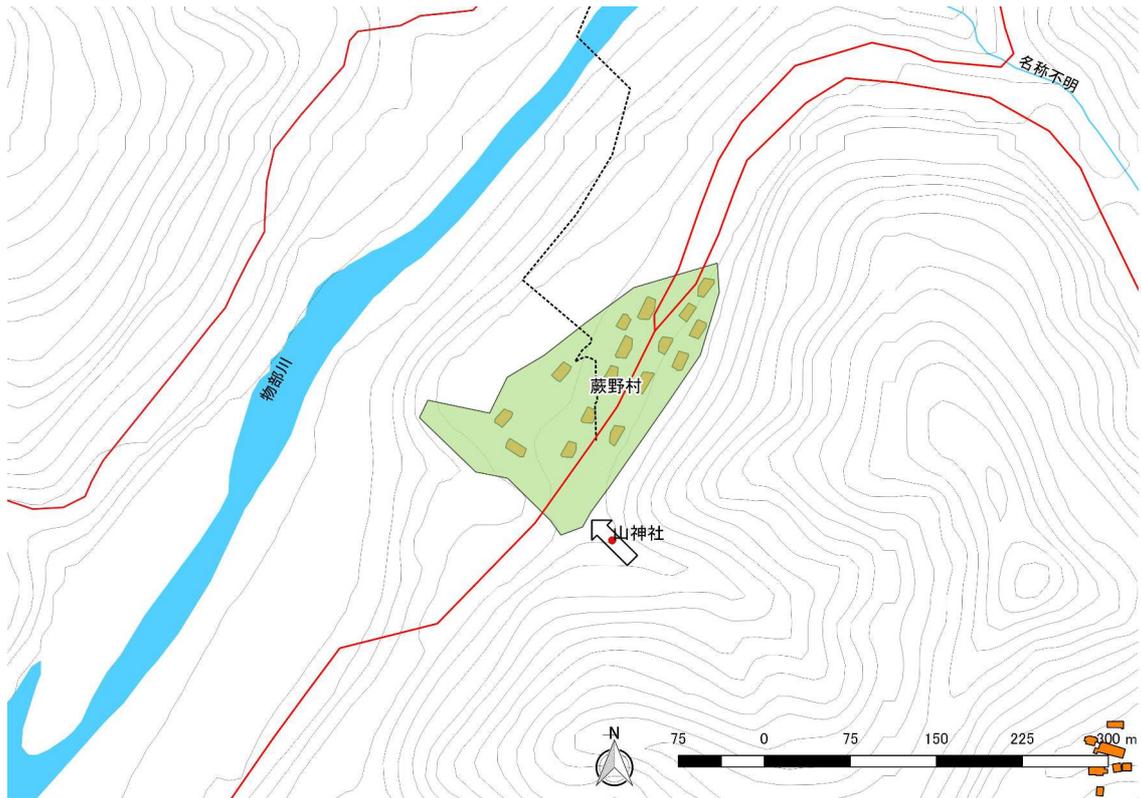


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

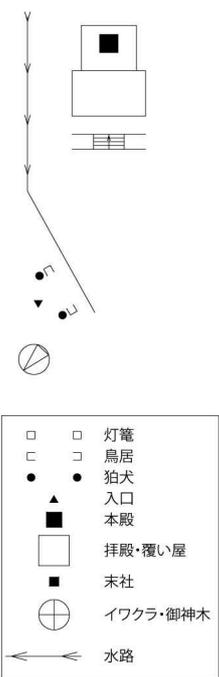


図 神社境内略図 S = 1 : 500

3.3.2 7. 梅久保村・日裏込村 村社：仁井田神社 八坂神社 須賀神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南東 142
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：外

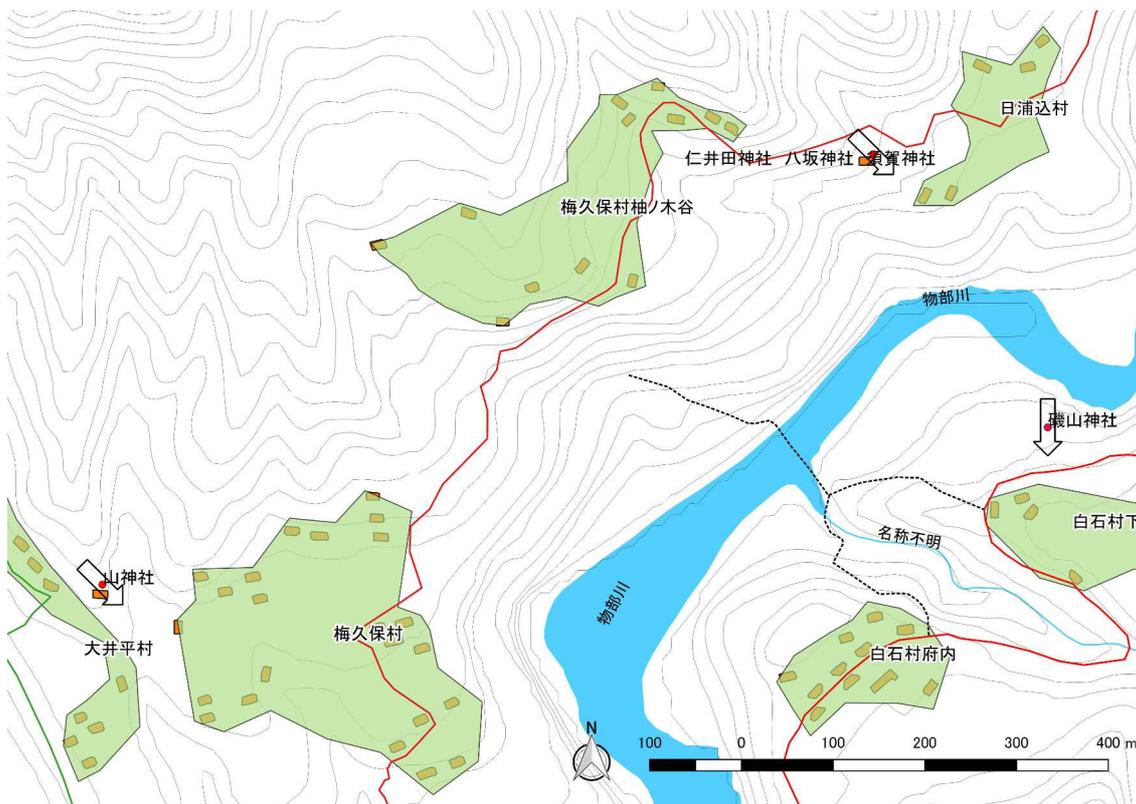


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

8. 大井平村 村社：山神社

- (1)集落地形：尾根
- (2)神社正面の方位：南 156
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交正面
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

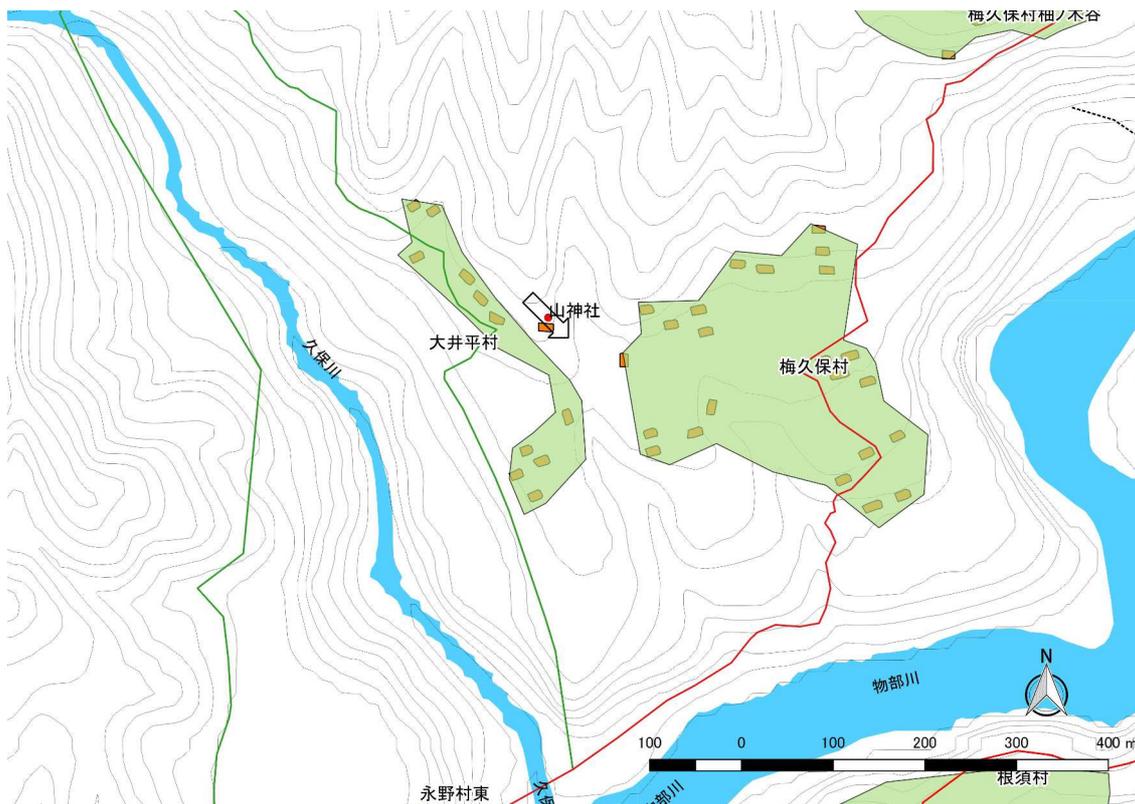


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

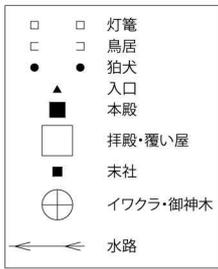
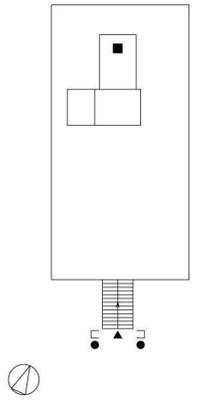


図 山神社境内略図 S = 1 : 500

9. 白石村和田 村社：山神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：西 251
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：斜面地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：斜向
- (6)集落と神社の立地関係：縁

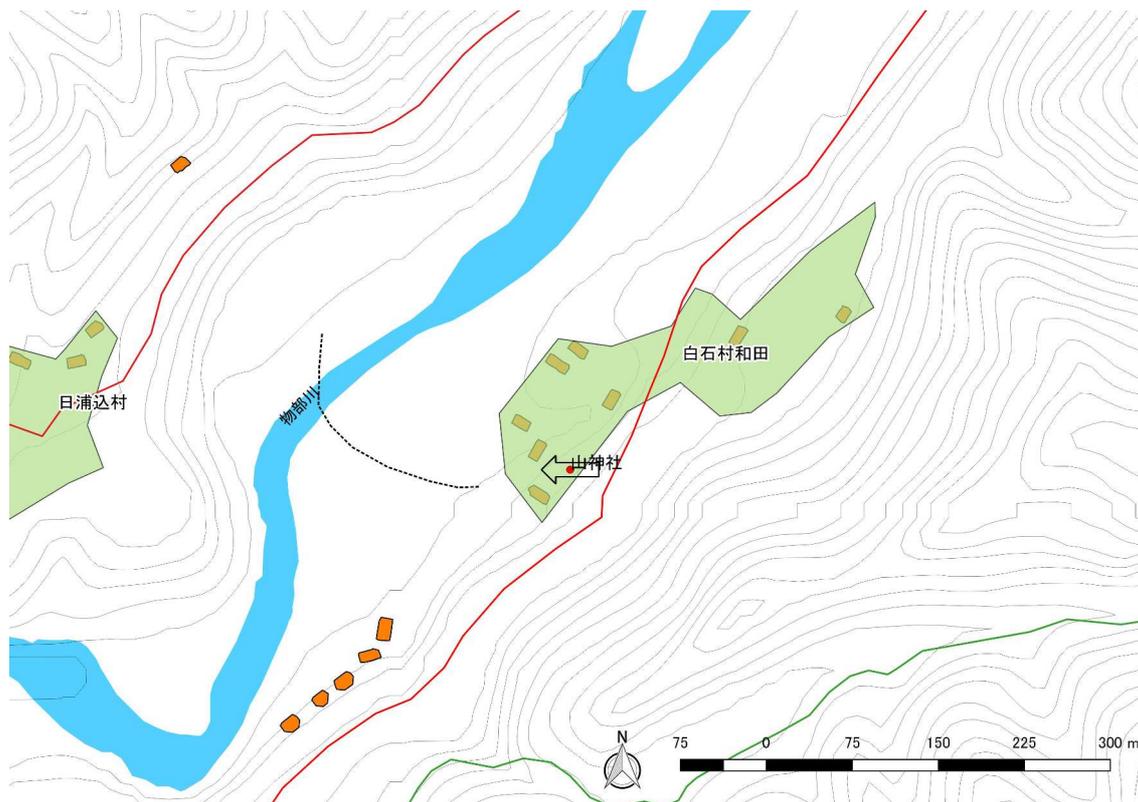


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

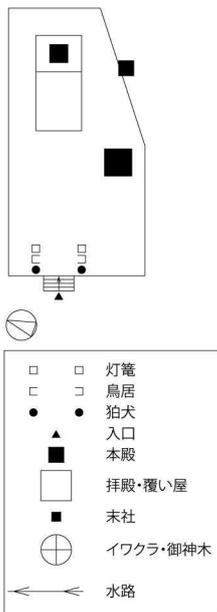


図 神社境内略図 S = 1 : 500

10. 白石村下田 村社：磯山神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 171
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交背面
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：外

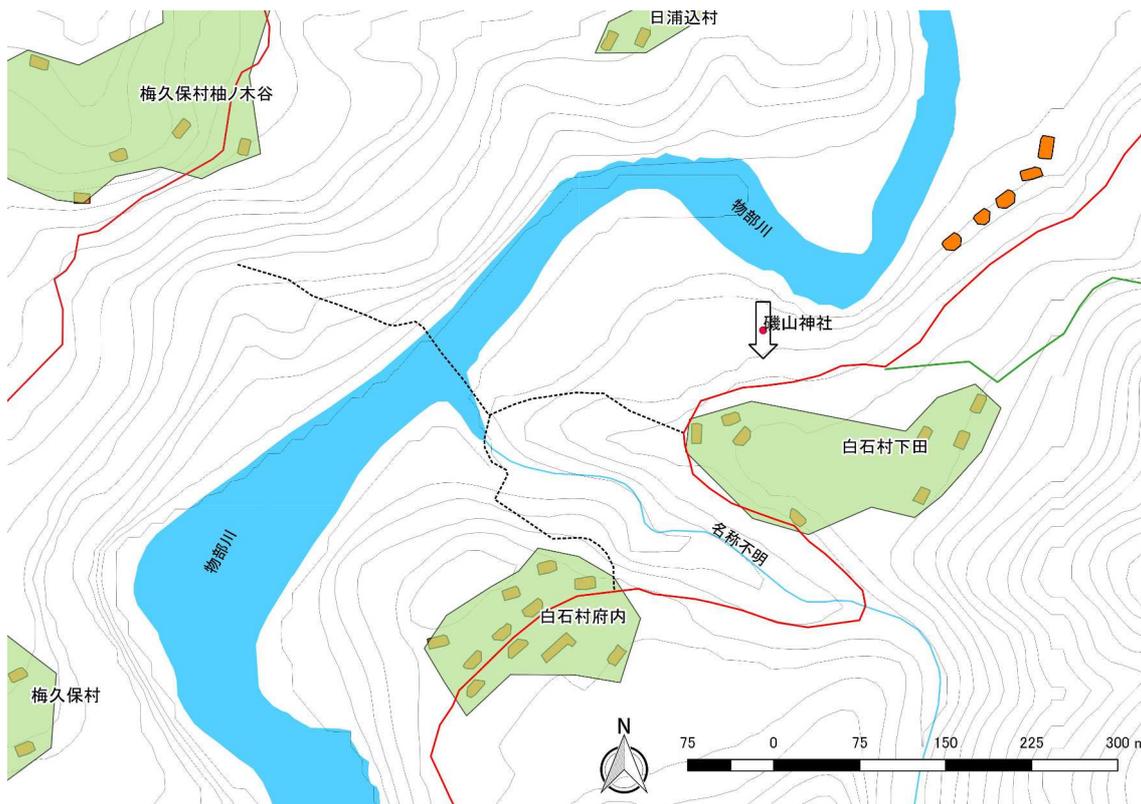


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

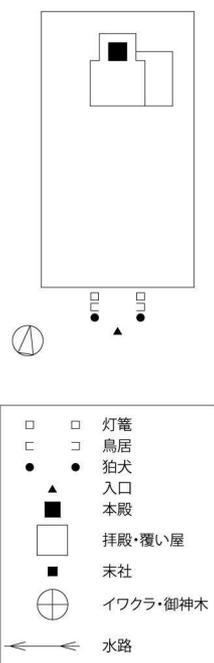


図 磯山神社境内略図 S = 1 : 500

11. 根須村 村社：日吉神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：北西 310
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：外

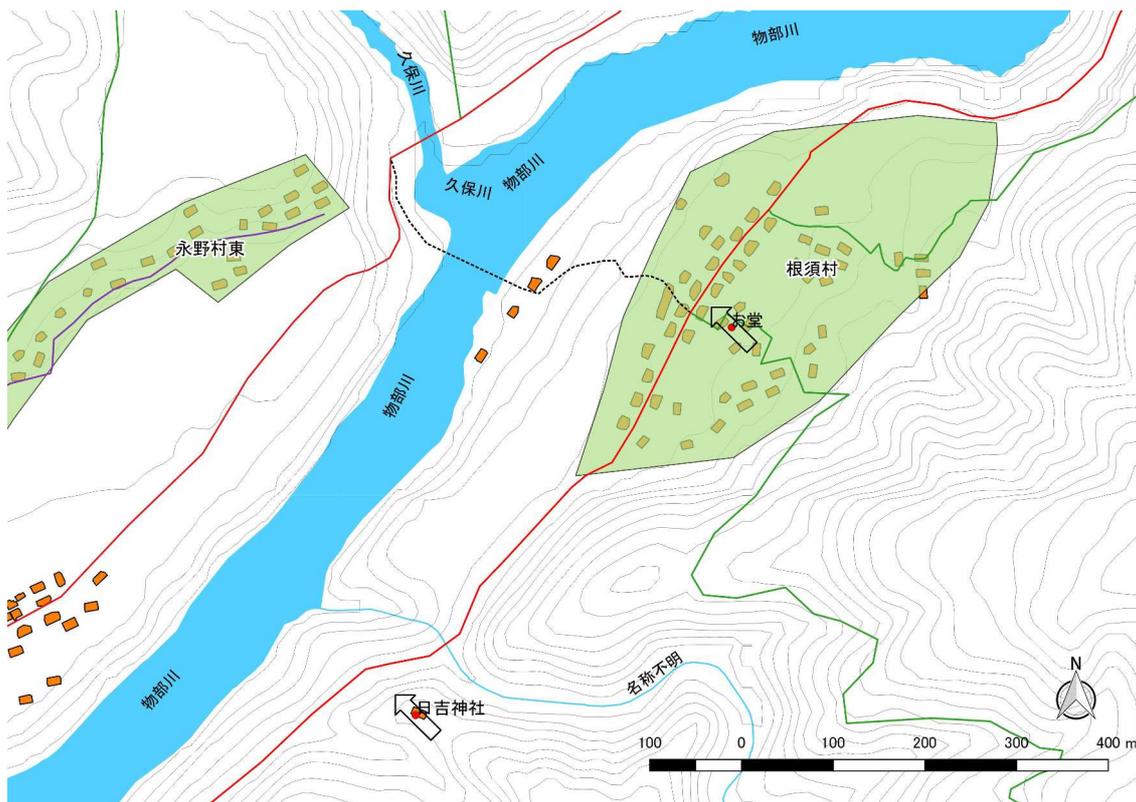


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

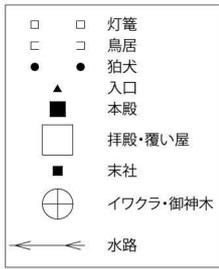
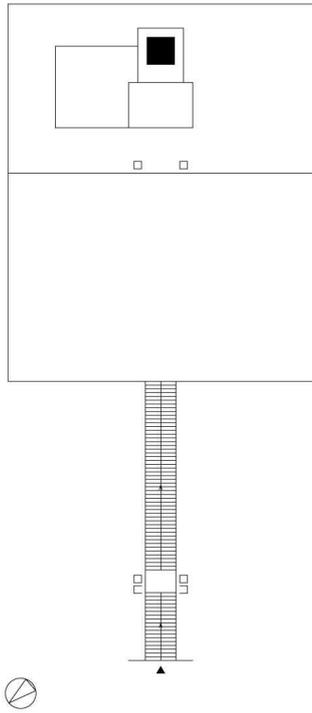


図 日吉神社境内略図 S = 1 : 500

12. 永野村東 村社：野麓神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南 165
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交正面
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

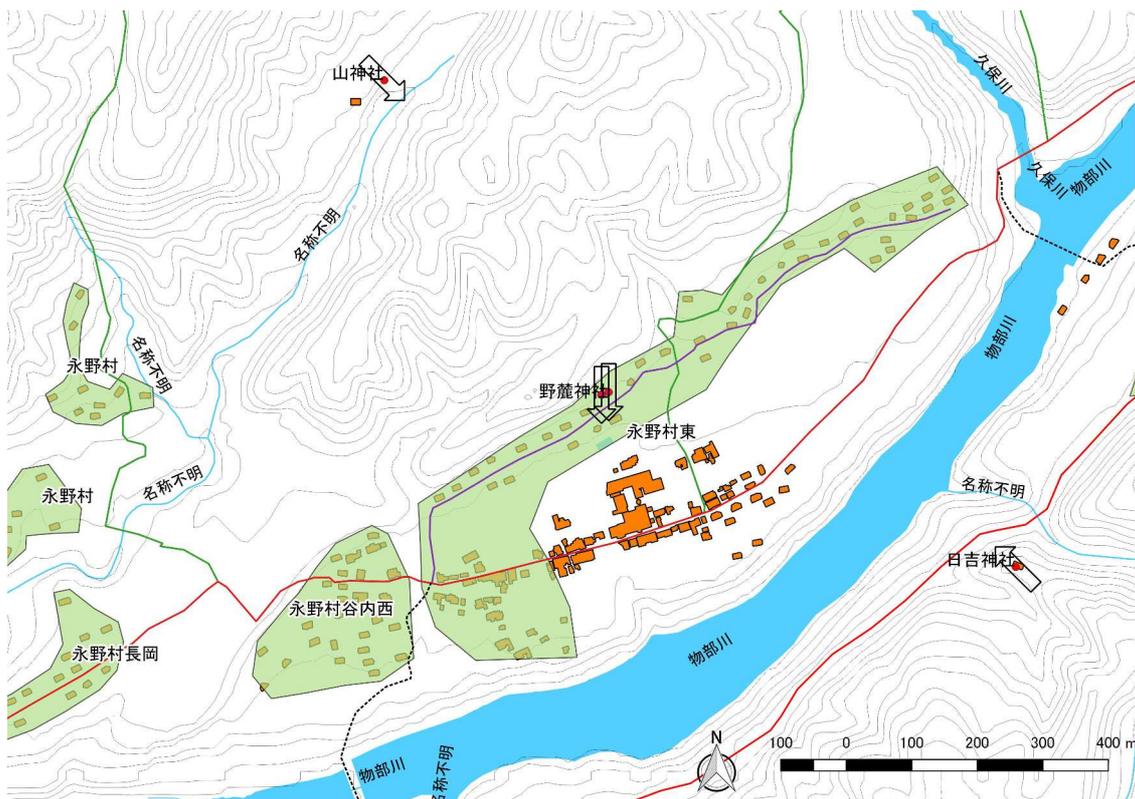


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

13. 永野村谷内西 村社：山神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：西 286
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交正面
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：外



図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

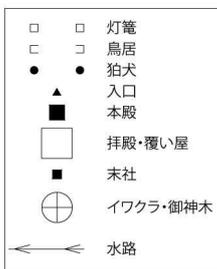
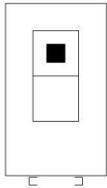


図 山神社境内略図 S = 1 : 500

14. 吉野村 村社：仁井田神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南 162
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交背面
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

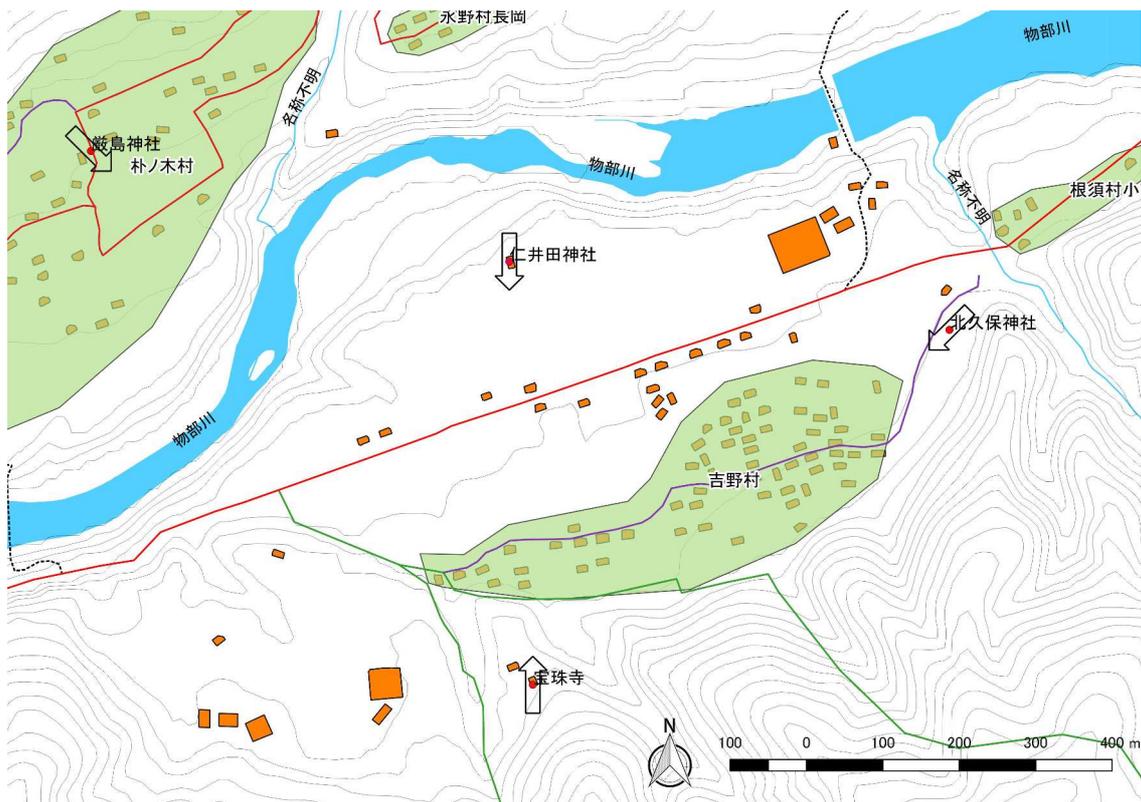


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

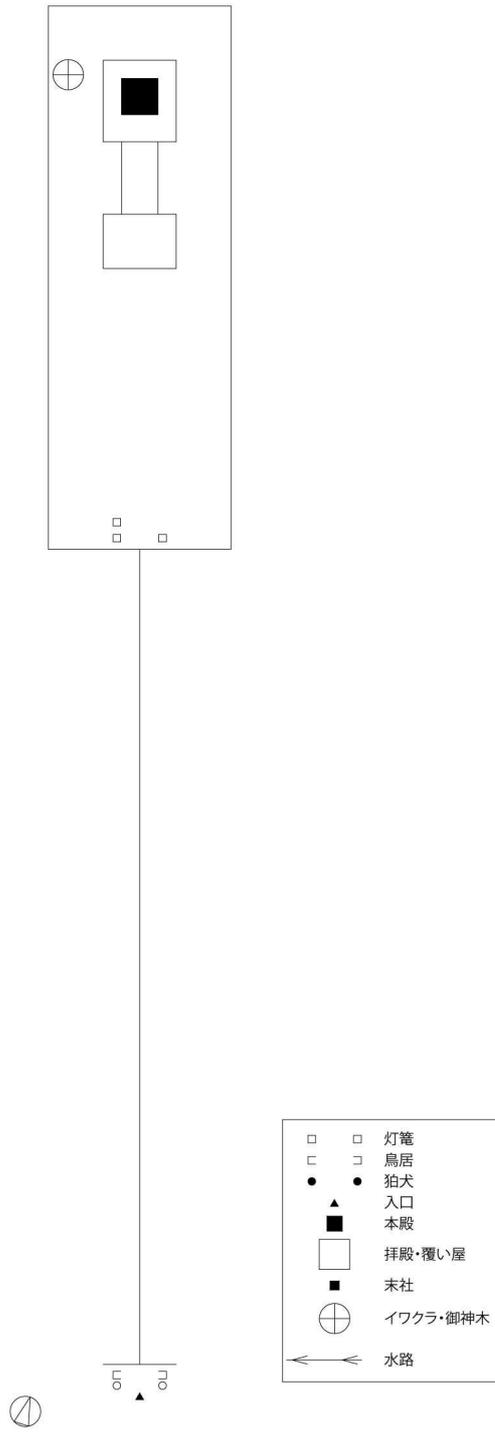


図 仁井田神社境内略図 S = 1 : 500

15. 朴ノ木村 村社：巖島神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南東 152
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交正面
- (4)神社地形：平地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：
- (6)集落と神社の立地関係：内

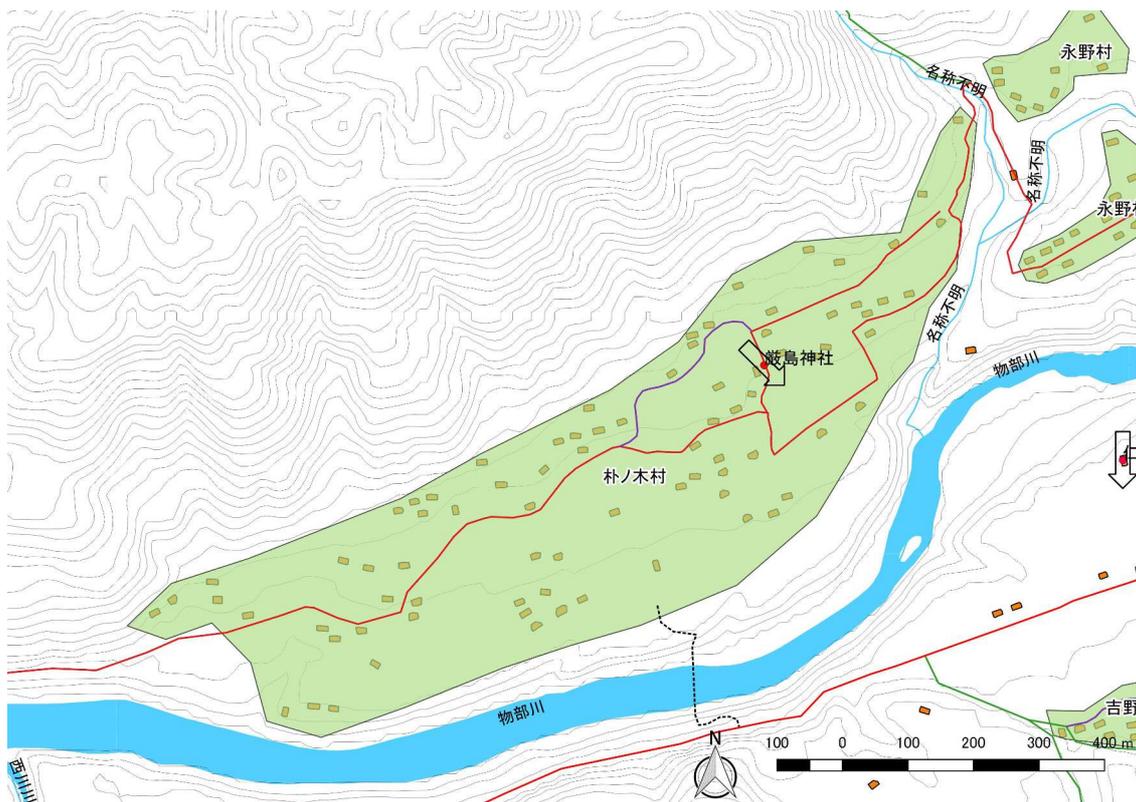


図 居住地神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

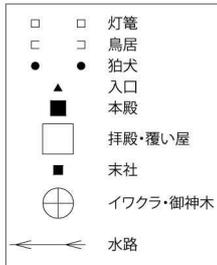
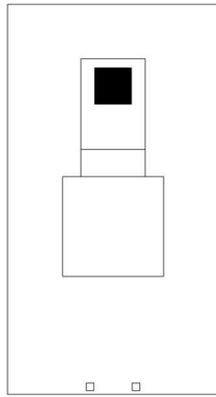


図 巖島神社境内略図 S = 1 : 500

16. 小川村 村社：山祇神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：北西 309
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

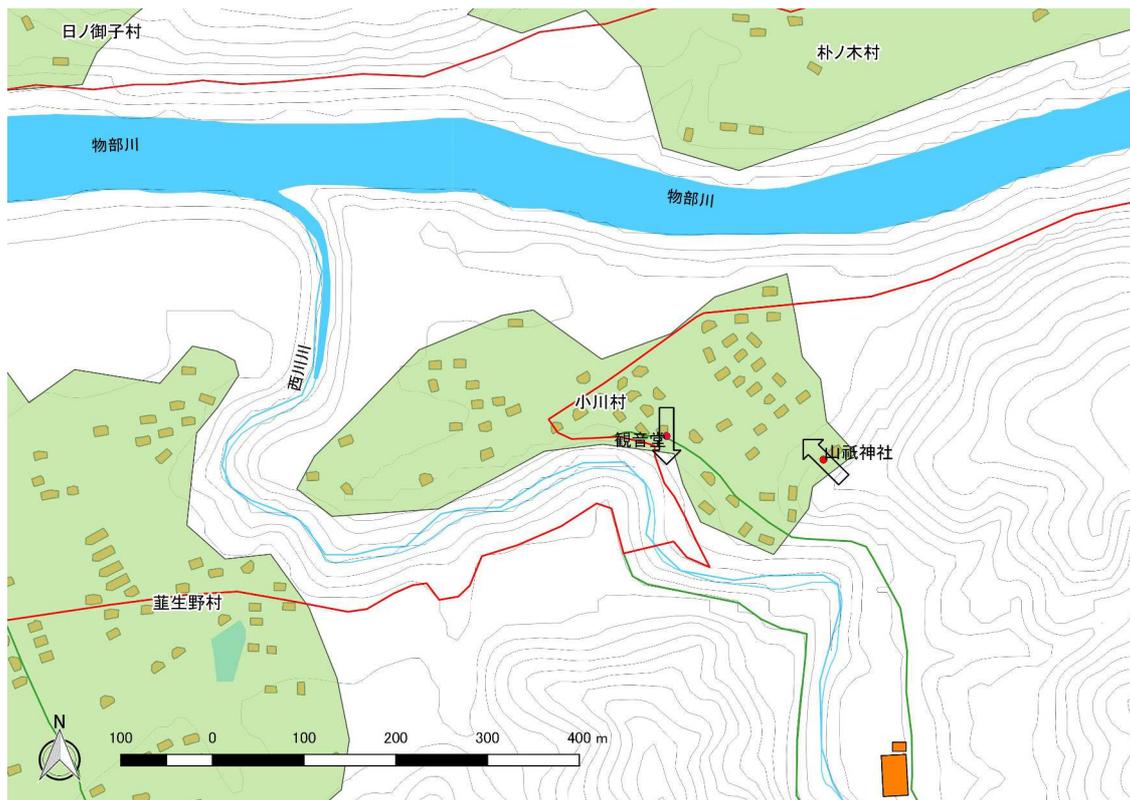


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

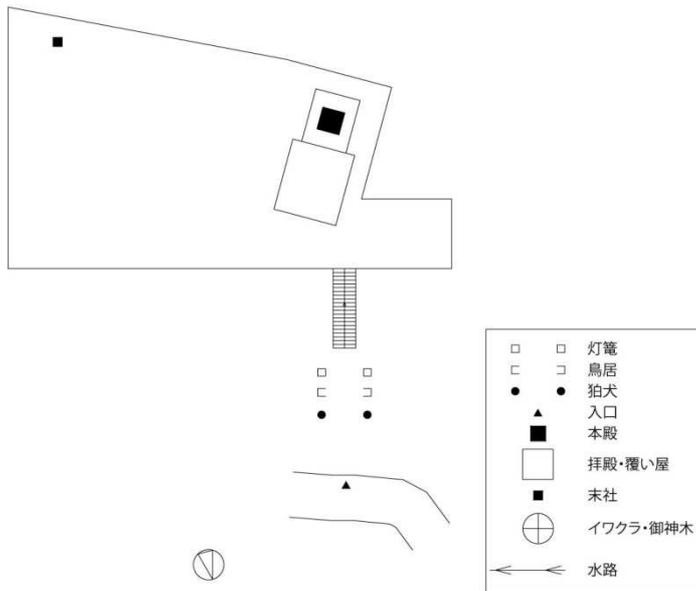


図 山祇神社境内略図 S = 1 : 500

17. 日ノ御子村東 村社：聖神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 187
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交正面
- (4)神社地形：斜面地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：内

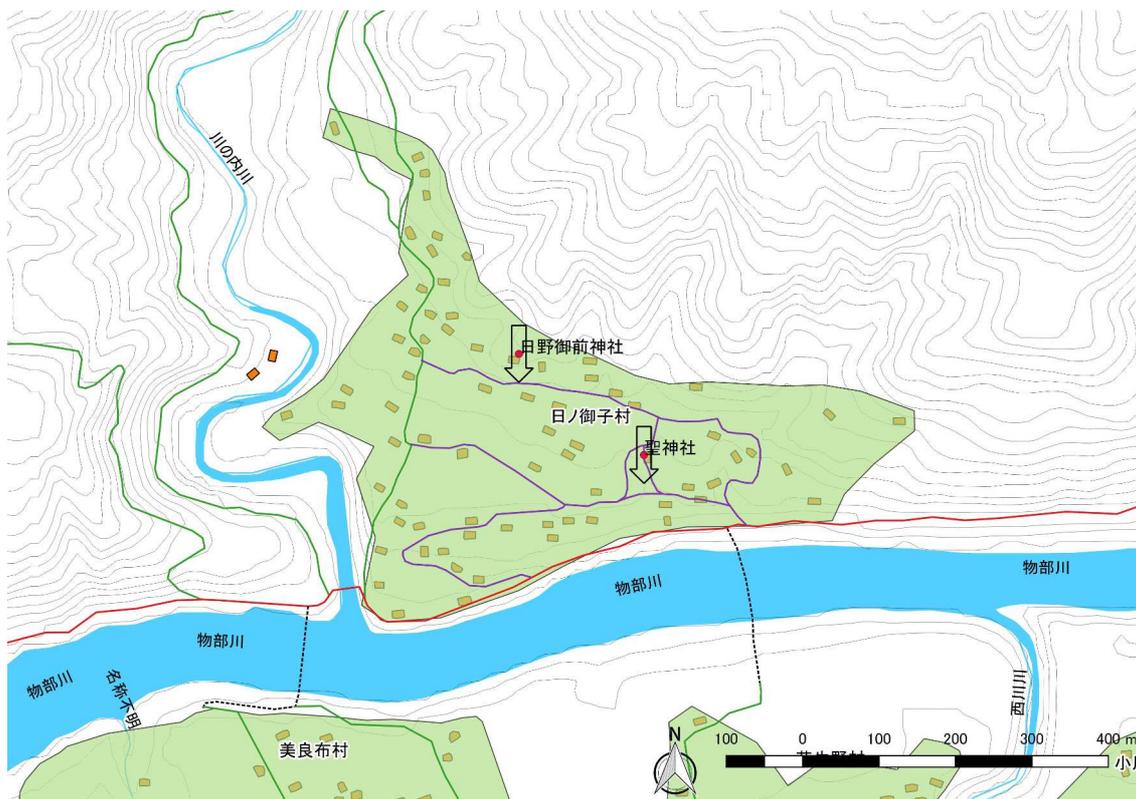


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

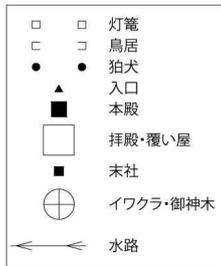
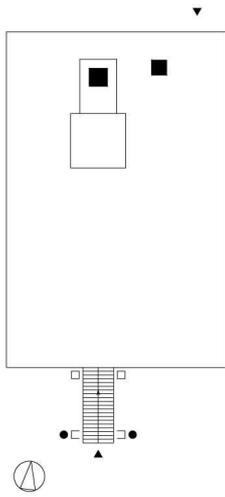


図 聖神社境内略図 S = 1 : 500

18. 日ノ御子村中 村社：日野御前神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 178
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交正面
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

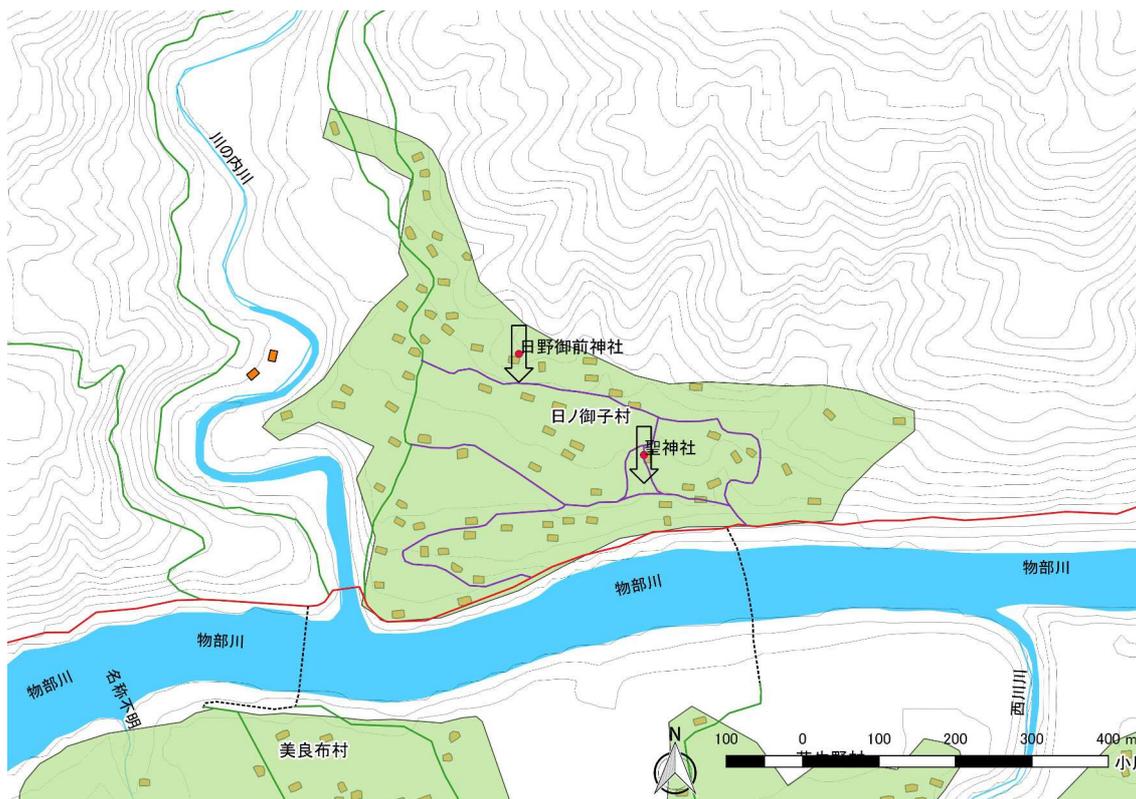


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

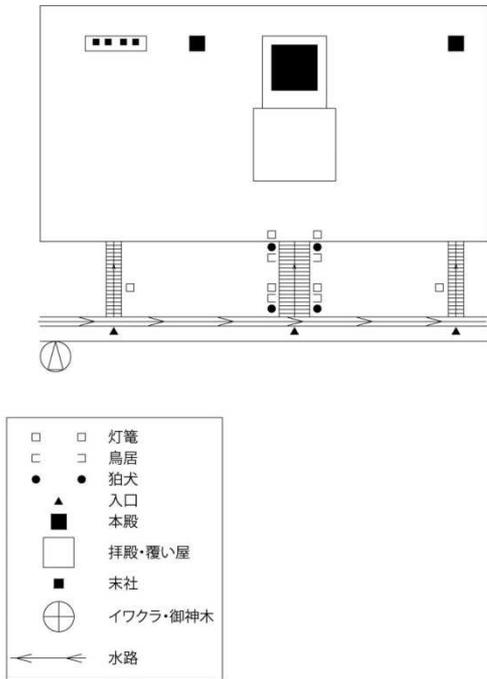


図 日野御前神社境内略図 S = 1 : 500

19. 日ノ御子村柳川 村社：柳川神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 194
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

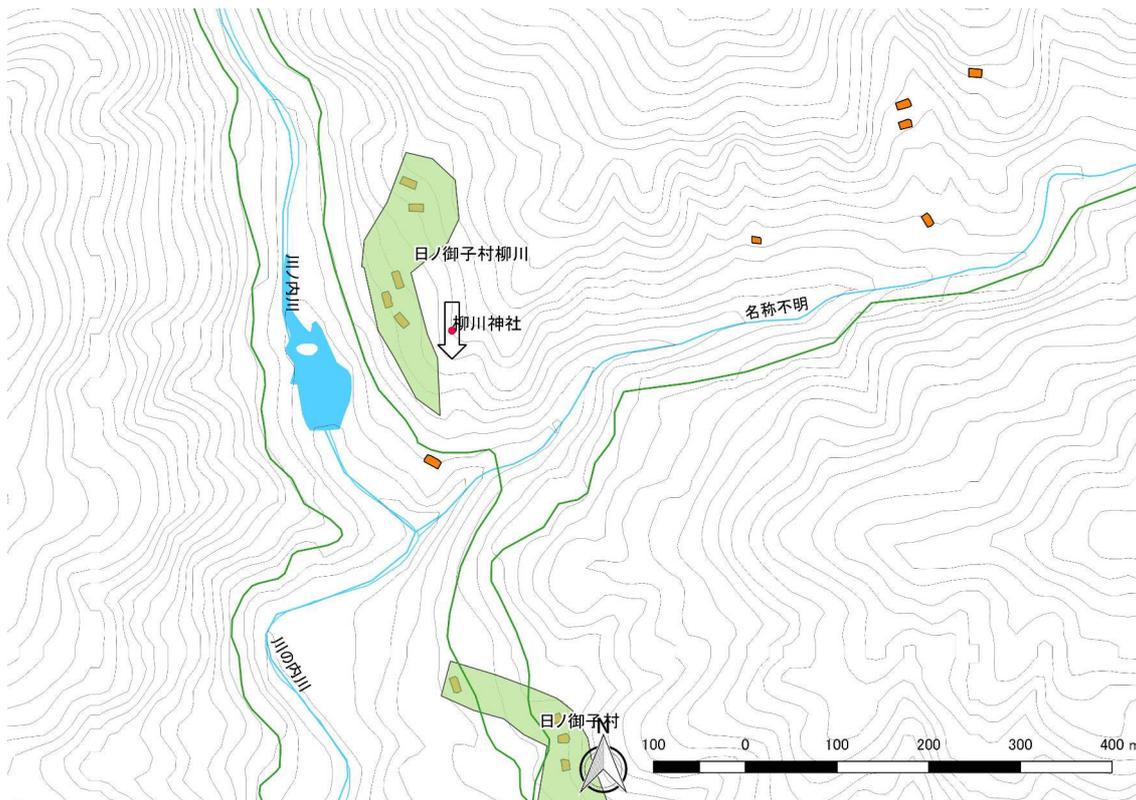


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

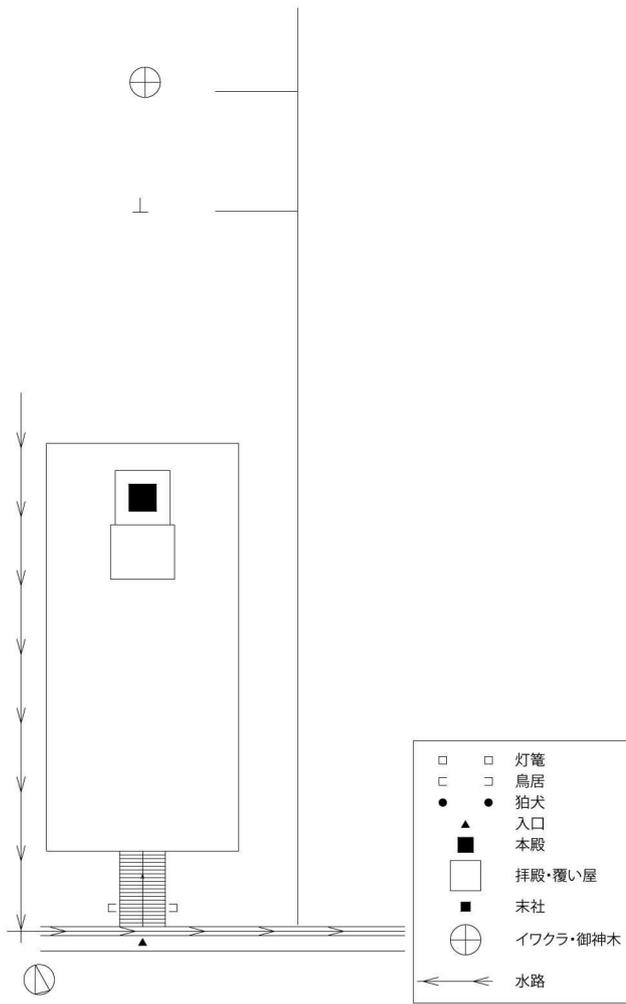


図 柳川神社境内略図 S = 1 : 500

20. 西峯村 村社：金峰神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 202
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：斜面地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：平行
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

21. 有瀬村 村社：奥有瀬山祇神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南西 218
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

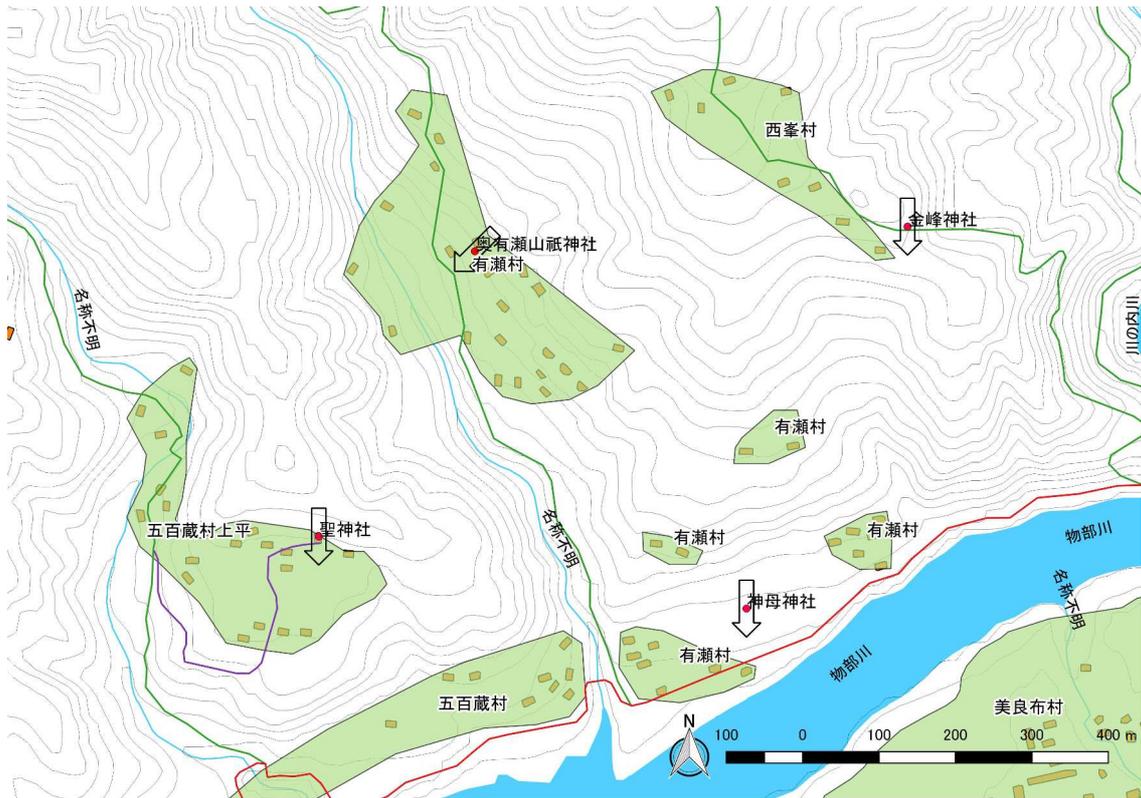


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

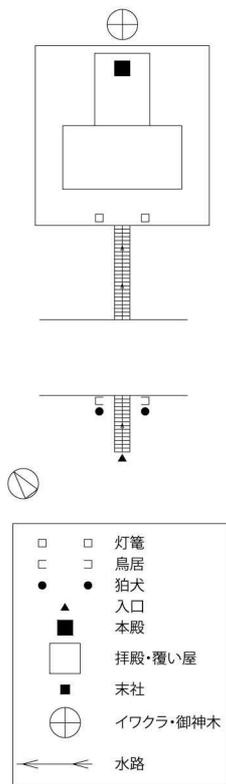


図 奥有瀬山祇神社境内略図 S = 1 : 500

22. 葦生野村 村社：大川上美良布神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：西
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：平地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：影響なし
- (6)集落と神社の立地関係：内

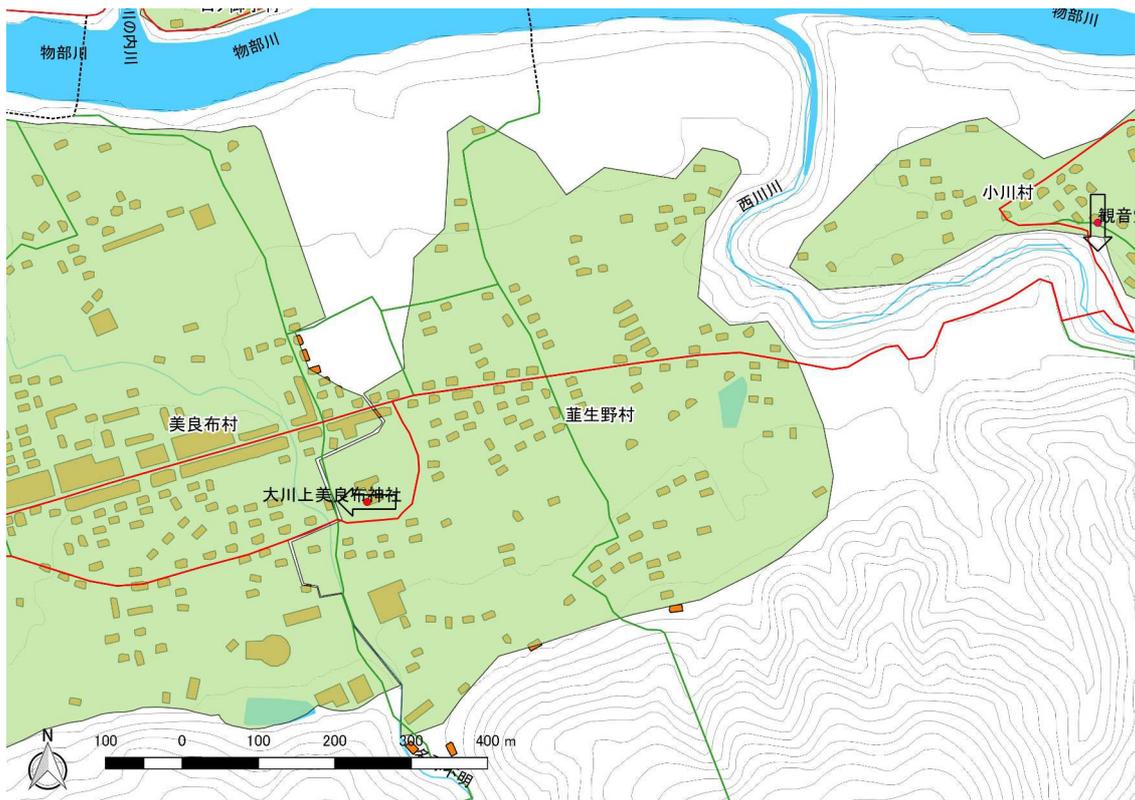


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

23. 美良布村 村社：神明宮

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南 170
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交背面
- (4)神社地形：平地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：影響なし
- (6)集落と神社の立地関係：内



図 居住地神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

24. 下野尻村 村社：若一王子宮

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南東 157
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交背面
- (4)神社地形：平地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：影響なし
- (6)集落と神社の立地関係：内

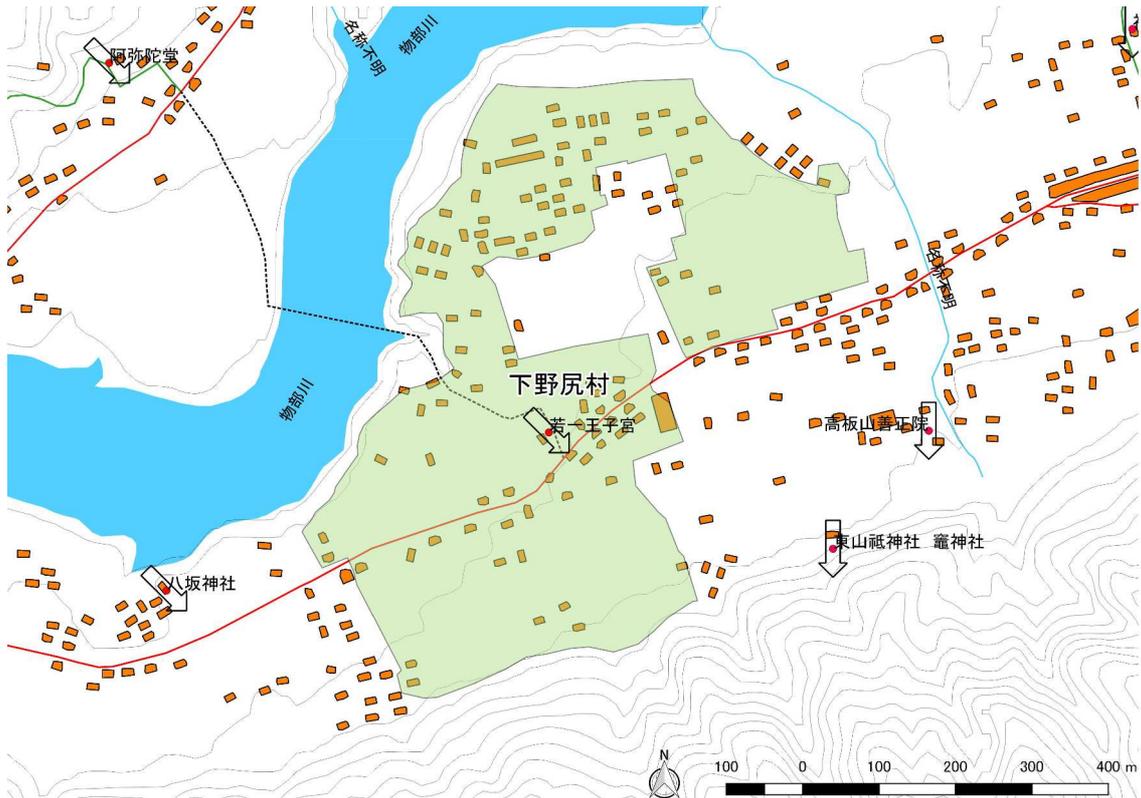


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

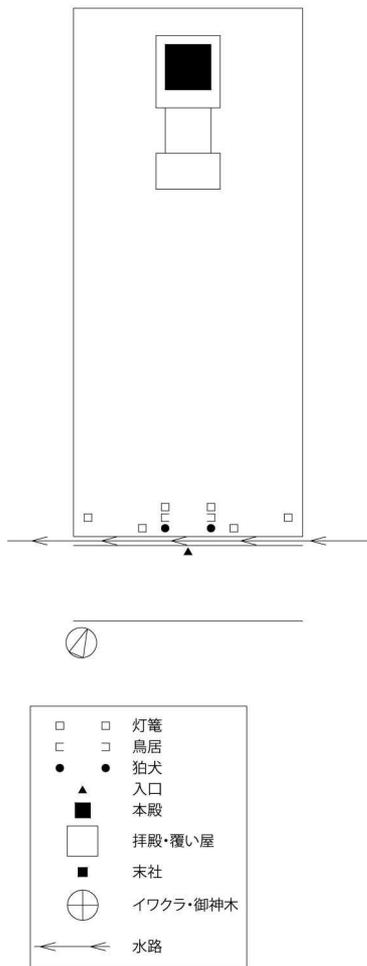


図 若一王子宮境内略図 S = 1 : 500

25. 太郎丸村 村社：八坂神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南東 139
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交背面
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：影響なし
- (6)集落と神社の立地関係：縁

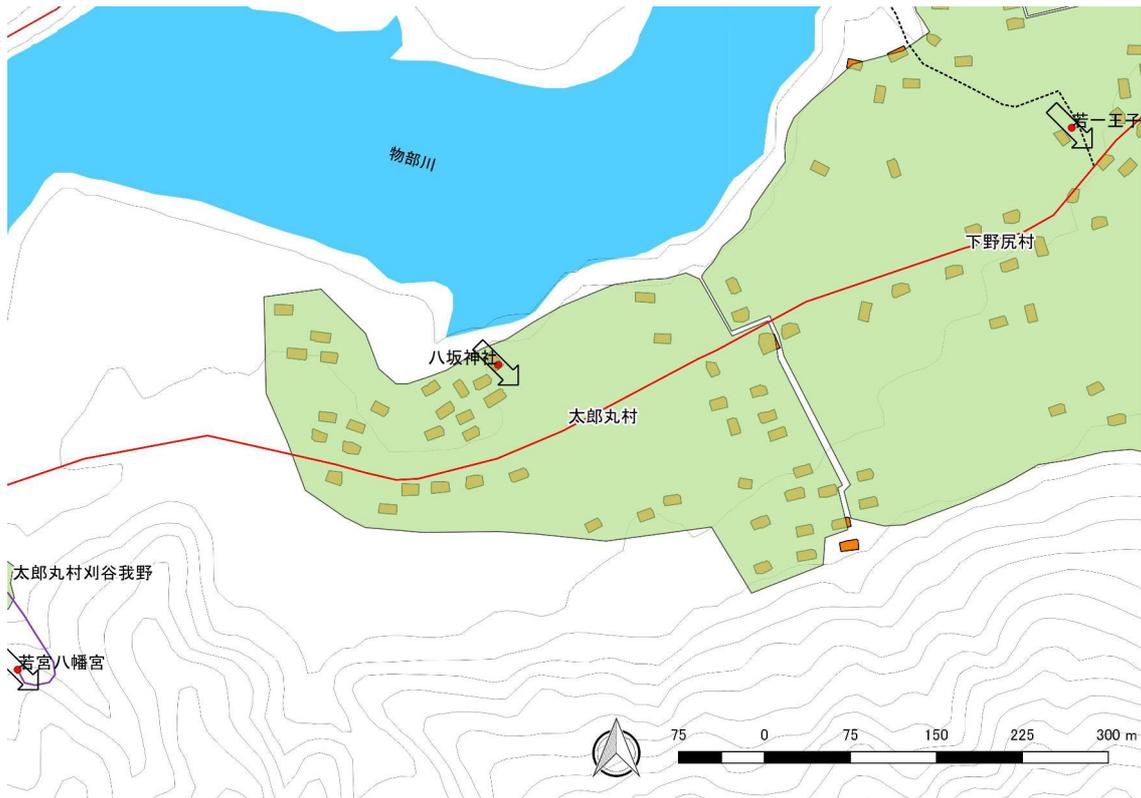


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

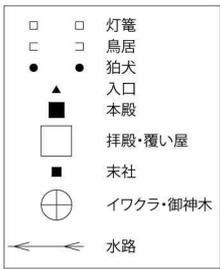
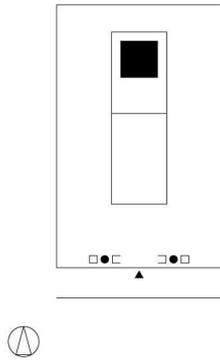


図 八坂神社境内略図 S = 1 : 500

26. 太郎丸村刈谷我野 村社：若宮八幡宮

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南東 113
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交背面
- (4)神社地形：斜面地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

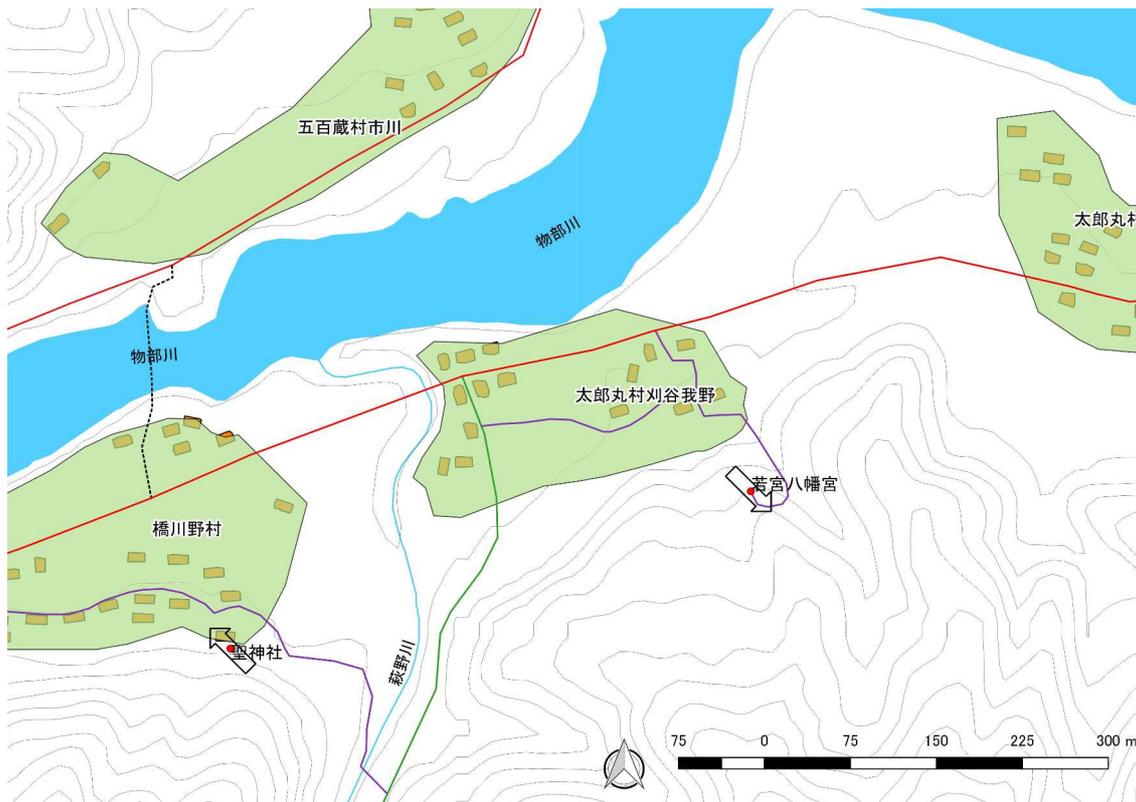


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

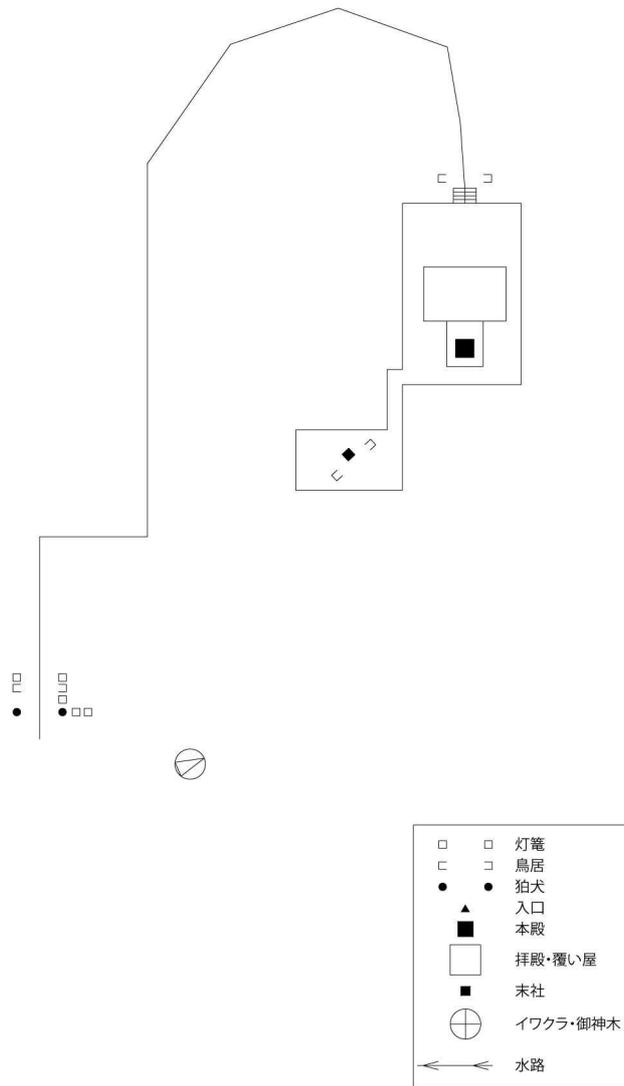


図 若宮八幡宮境内略図 S = 1 : 500

27. 五百蔵村上平 村社：聖神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 186
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

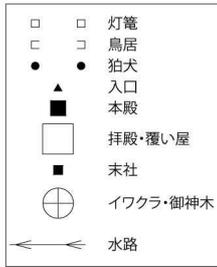
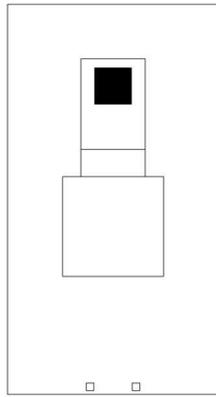


図 聖神社境内略図 S = 1 : 500

28. 五百蔵村市川 村社：御市川若一王子宮

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南 178
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：平地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：影響なし
- (6)集落と神社の立地関係：内



図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

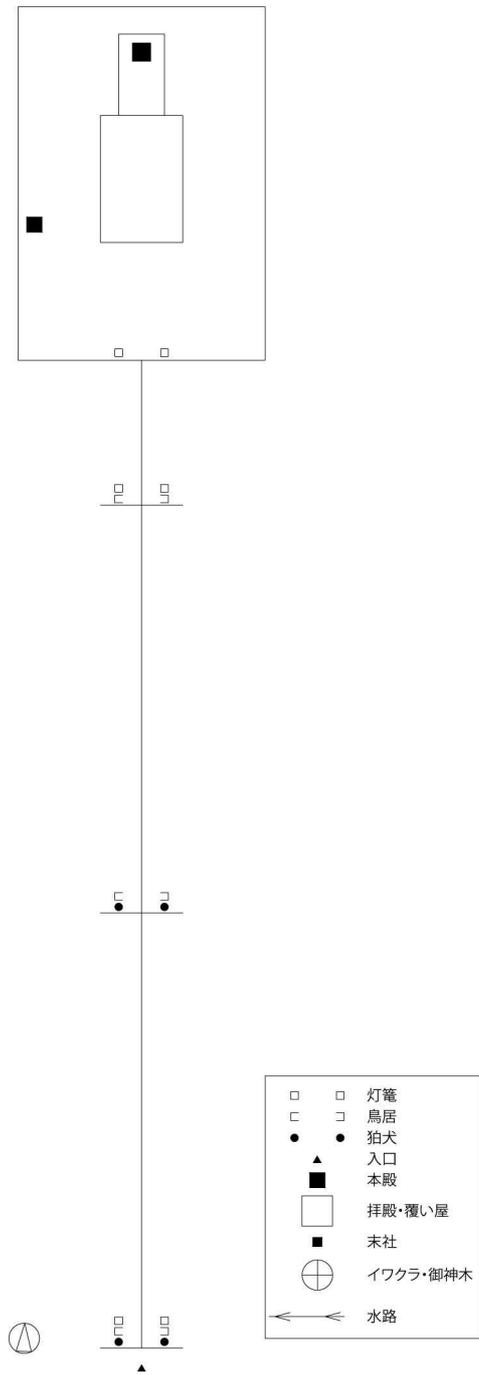


図 御市川若一王子宮境内略図 S = 1 : 500

29. 白川村大根木 村社：白川神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：西 251
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：谷
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：谷筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁

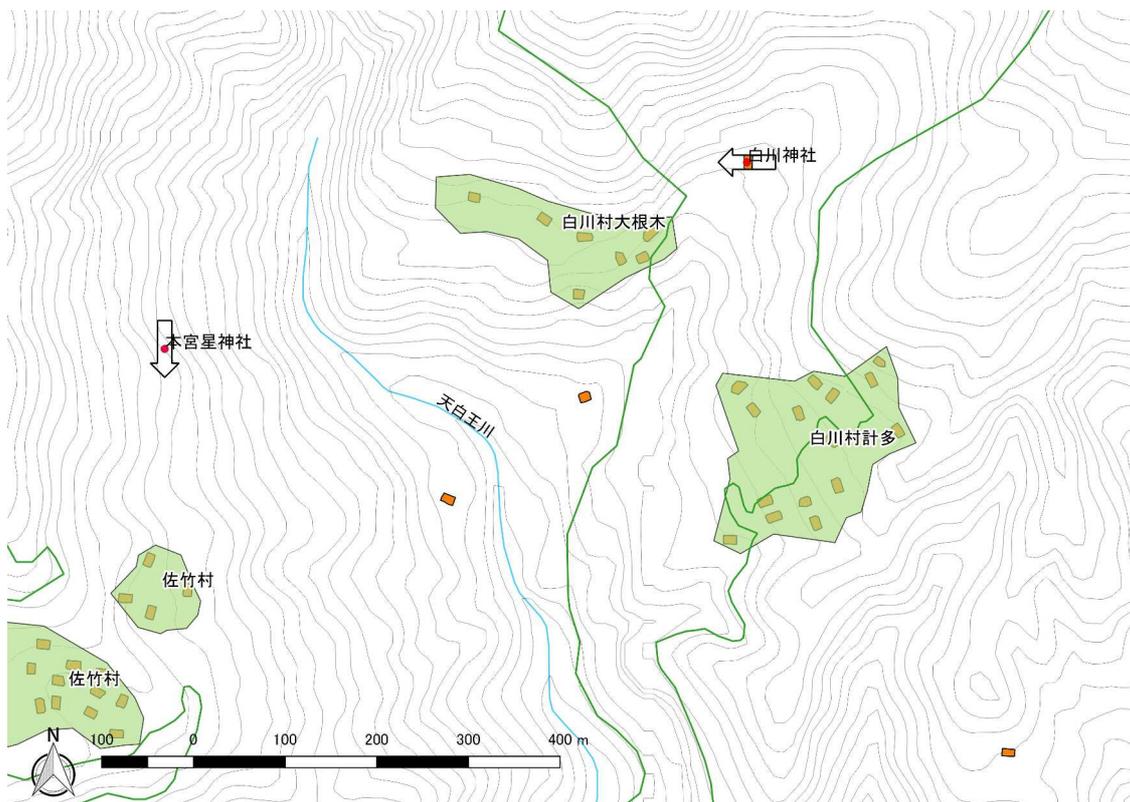


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

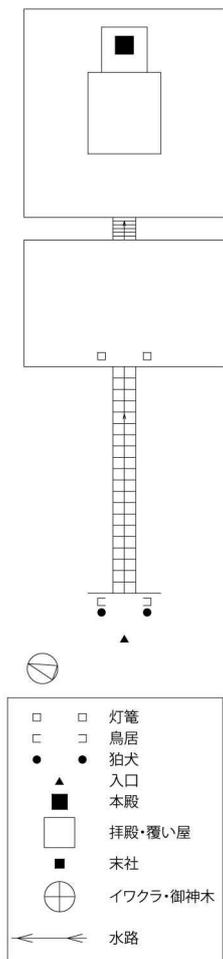


図 白川神社境内略図 S = 1 : 500

30. 白川村下白川 村社：須賀神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南 171
- (3)神社正面の河川に対する向き： 直交正面
- (4)神社地形：谷
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：谷筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁

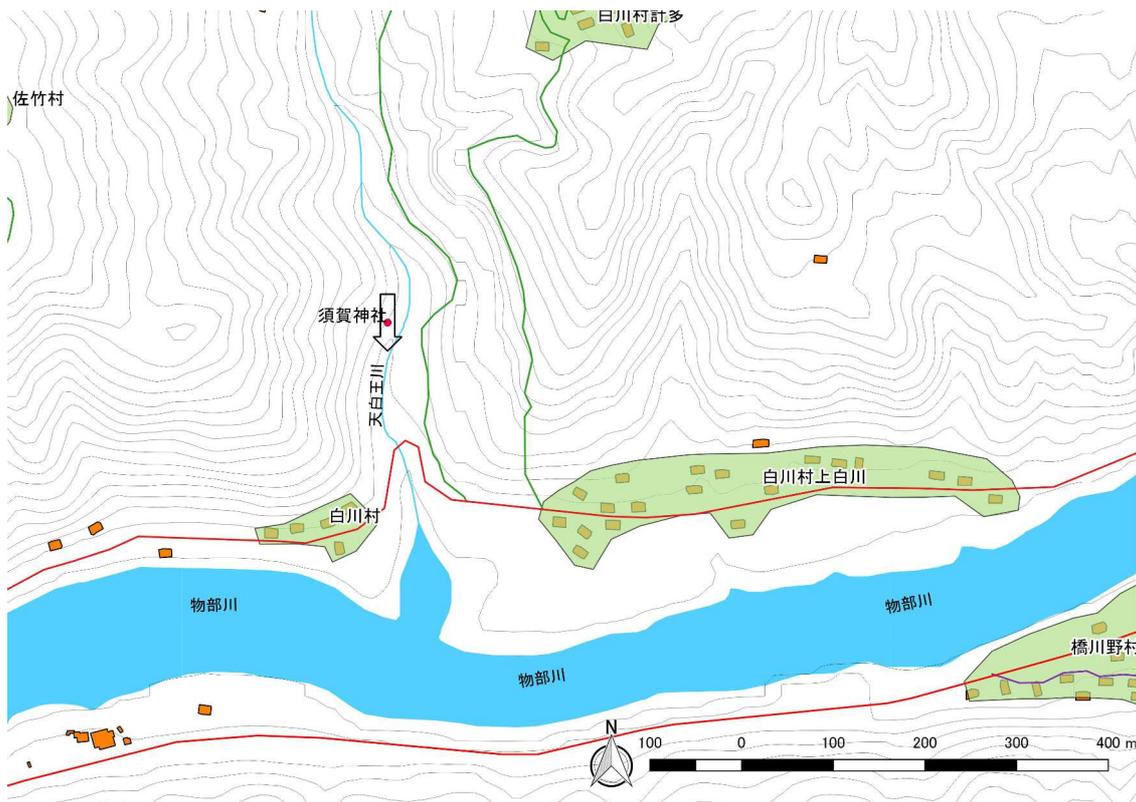


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

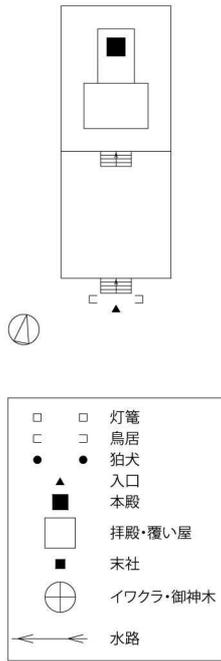


図 須賀神社境内略図 S = 1 : 500

31. 橋川野村 村社：聖神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：北西 310
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：平行
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 居住地神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

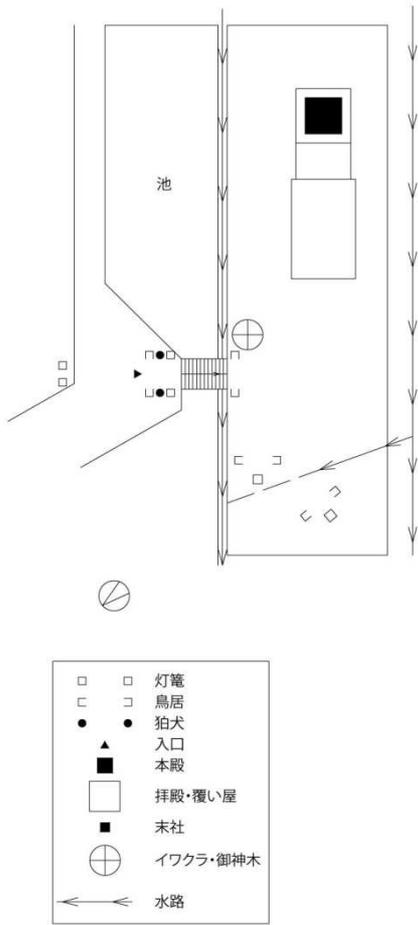


図 聖神社境内略図 S = 1 : 500

32. 佐竹村 村社：本宮星神社

- (1)集落地形：尾根
- (2)神社正面の方位：南 178
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：斜面地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：平行
- (6)集落と神社の立地関係：縁

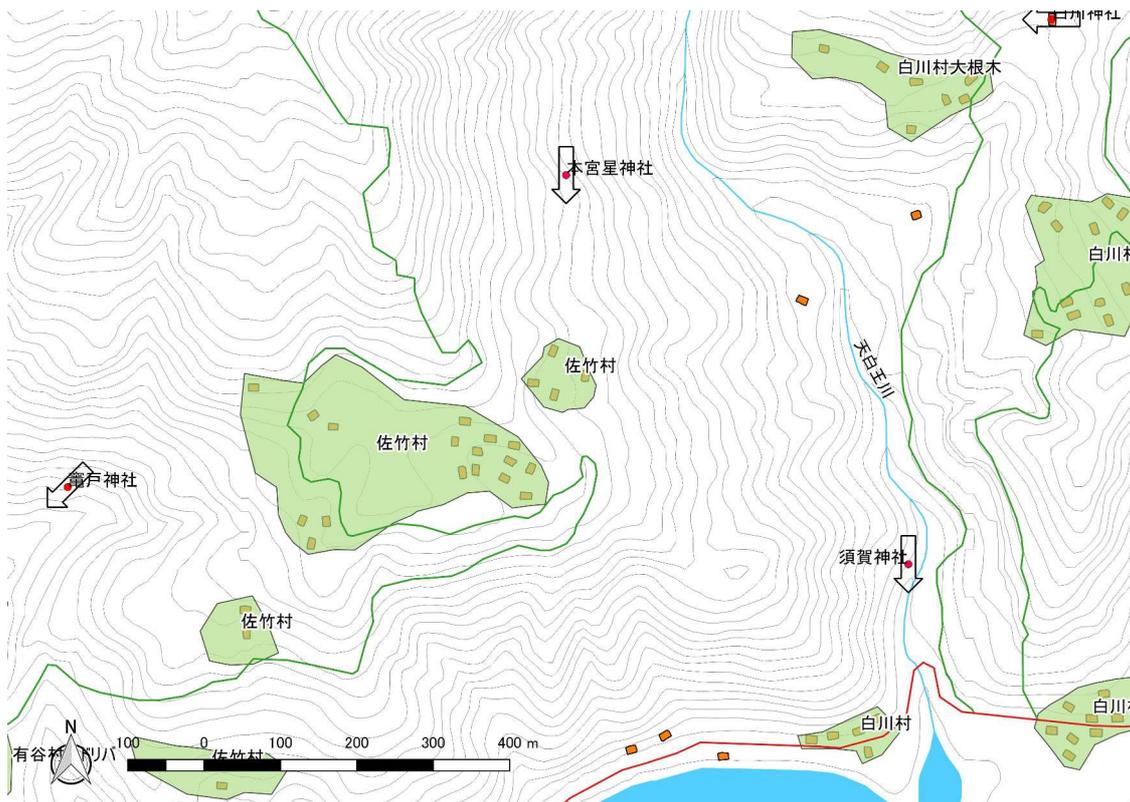


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

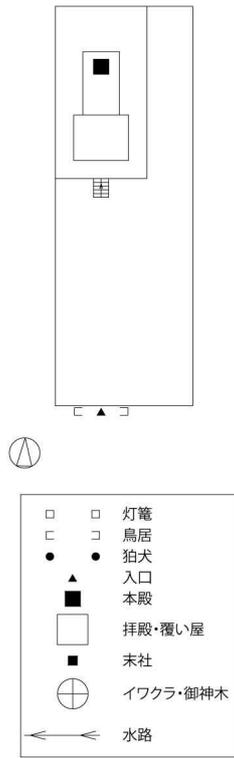


図 本宮星神社境内略図 S = 1 : 500

33. 杉田村 村社：若一王子宮

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南西 239
- (3)神社正面の河川に対する向き：平行
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：平行
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

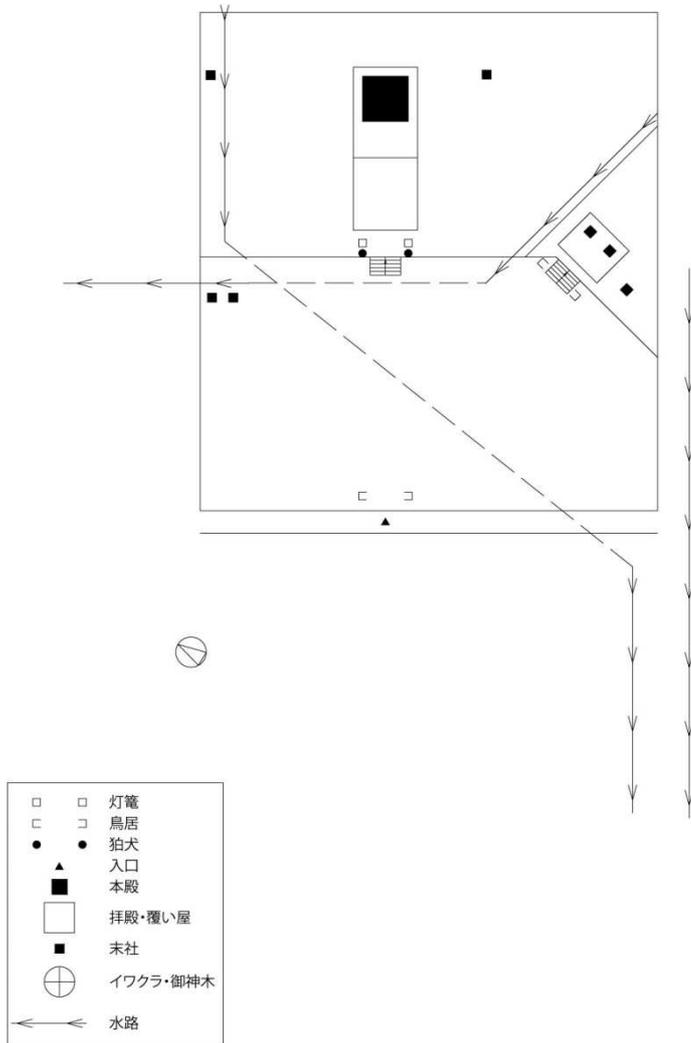


図 若一王子宫境内略図 S = 1 : 500

34. 有谷村 村社：竈戸神社

- (1)集落地形：谷
- (2)神社正面の方位：南西 224
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：谷
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：谷筋方向
- (6)集落と神社の立地関係：縁

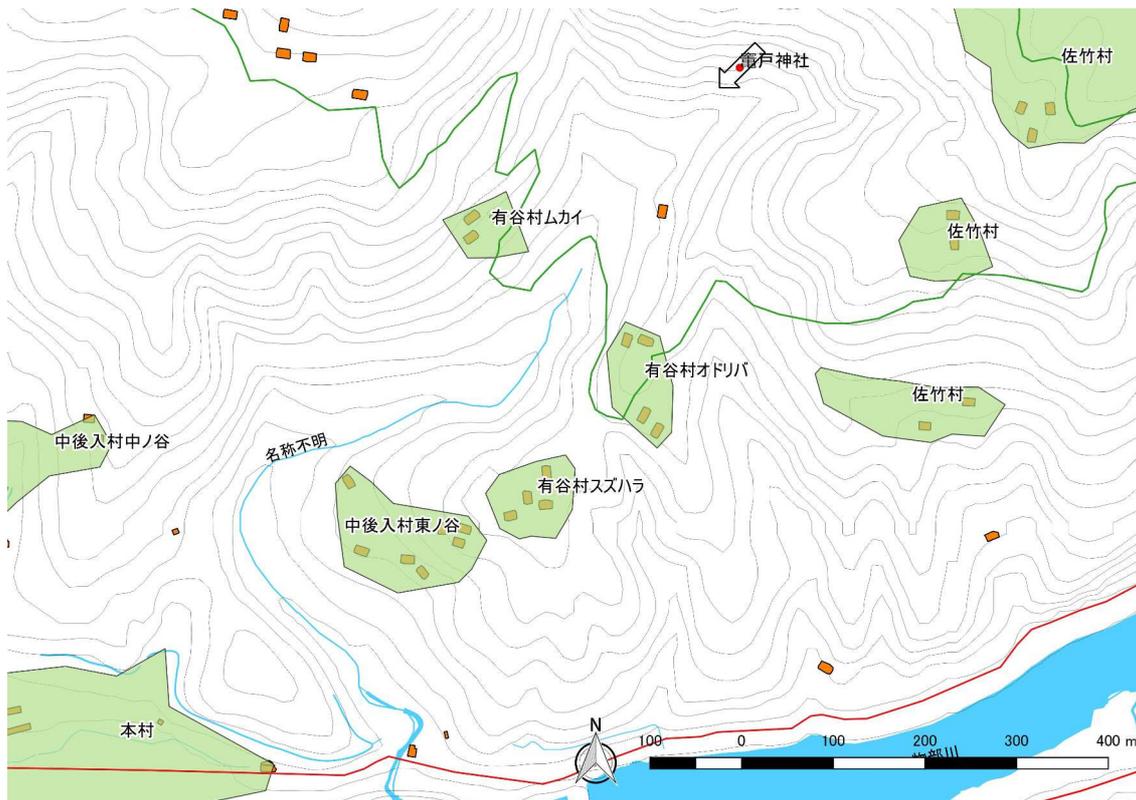


図 居住地神社配置図

凡例	凡例
住宅	川と並行の道
居住地	川と直交する道
神社	対岸への経路
神社方位	等高線沿いの道
	その他の道

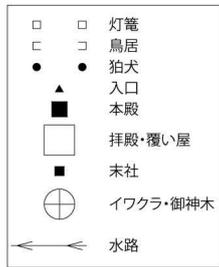
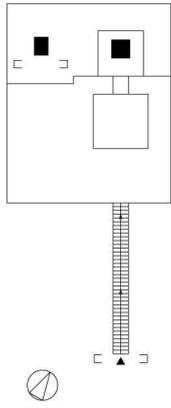


図 竈神社境内略図 S = 1 : 500

35. 中後入村中ノ谷東ノ谷 村社：須賀神社

- (1)集落地形：尾根
- (2)神社正面の方位：南 198
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：谷
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：平行
- (6)集落と神社の立地関係：縁



図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

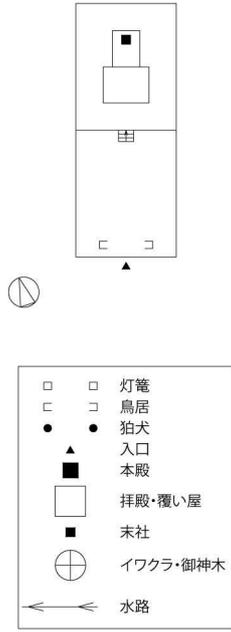


図 須賀神社境内略図 S = 1 : 500

36. 中後入村西ノ谷 村社：金峯神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南西 240
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：斜面地中央
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：斜向
- (6)集落と神社の立地関係：縁

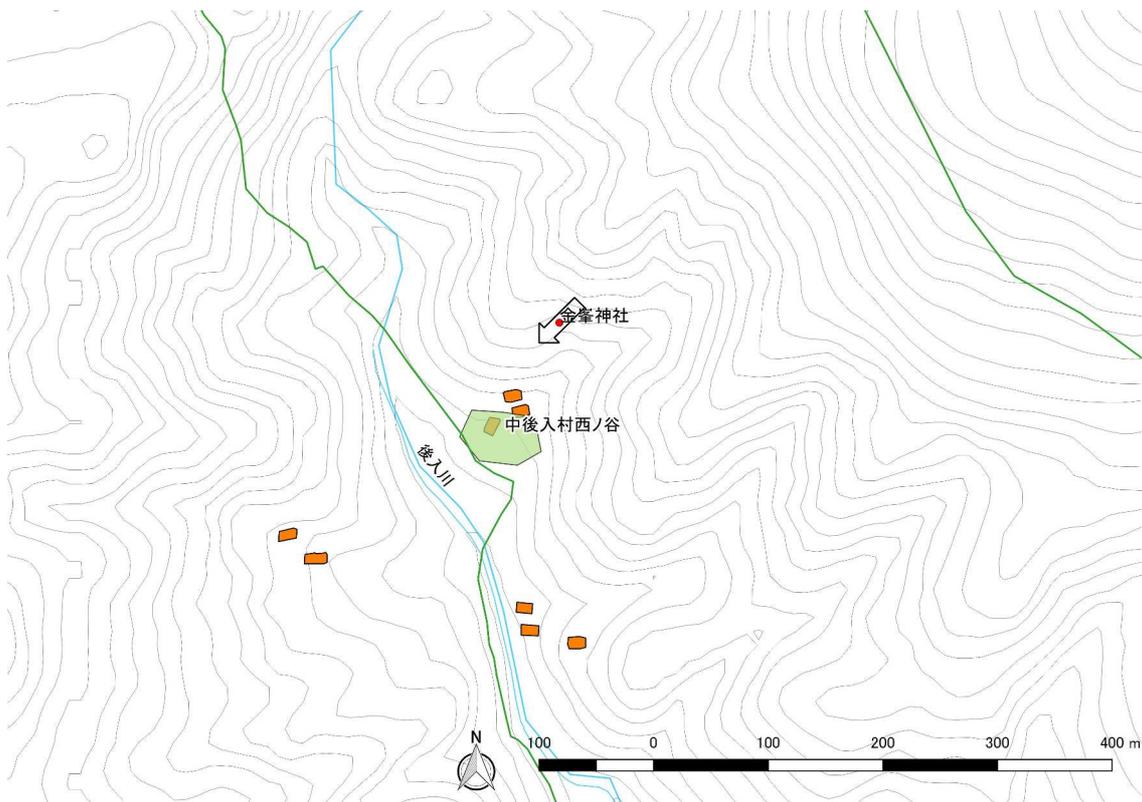


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

37. 本村 村社：星神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南 199
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山岬
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：尾根筋直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

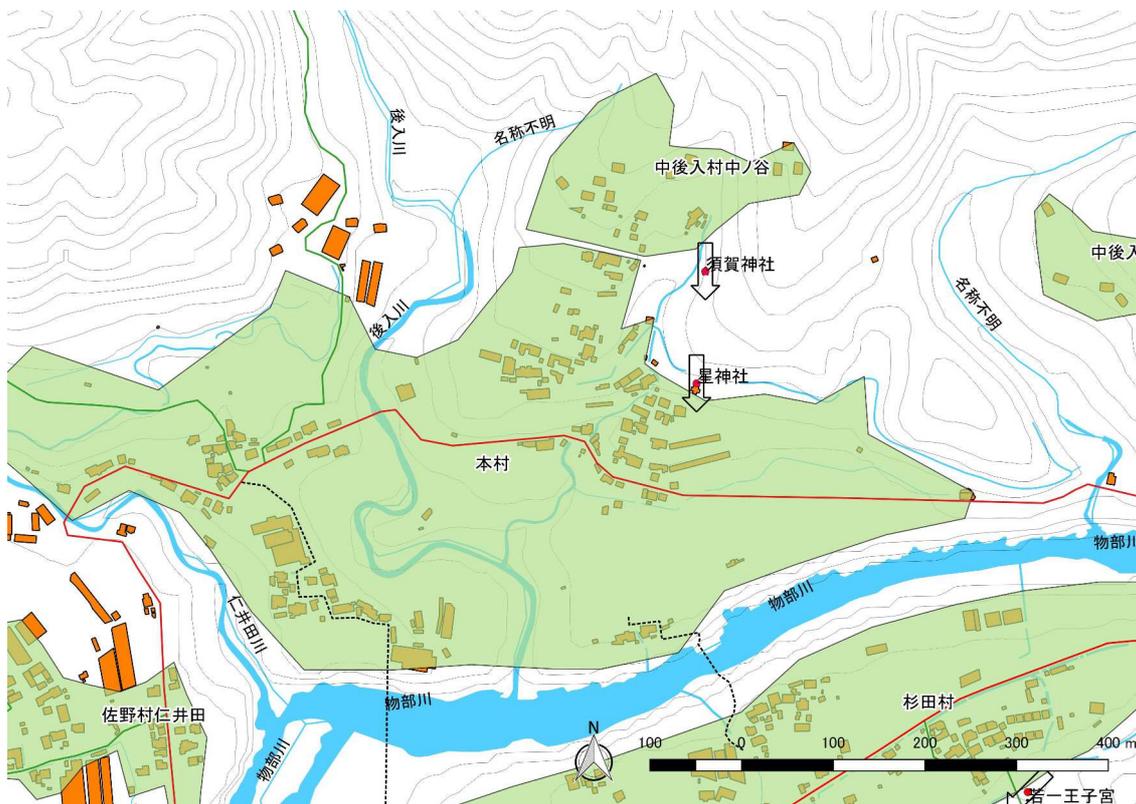


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

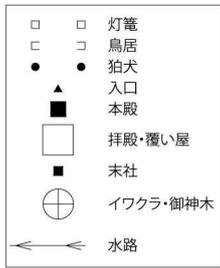
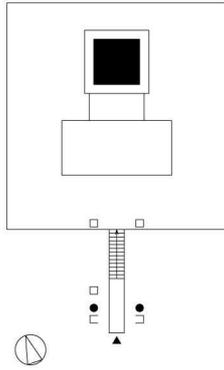


図 星神社境内略図 S = 1 : 500

38. 佐野村仁井田 村社：仁井田五所神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：南 168
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

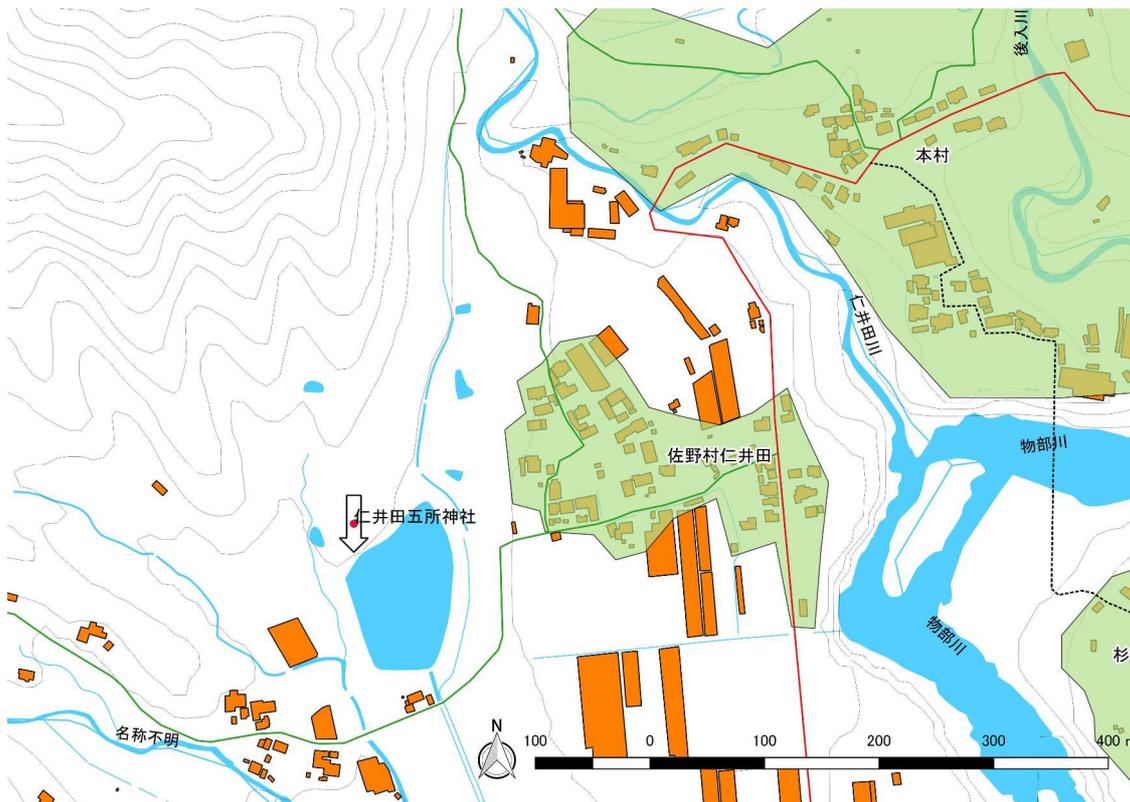


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

39. 佐野村 村社：美丸神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：東 81
- (3)神社正面の河川に対する向き：
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

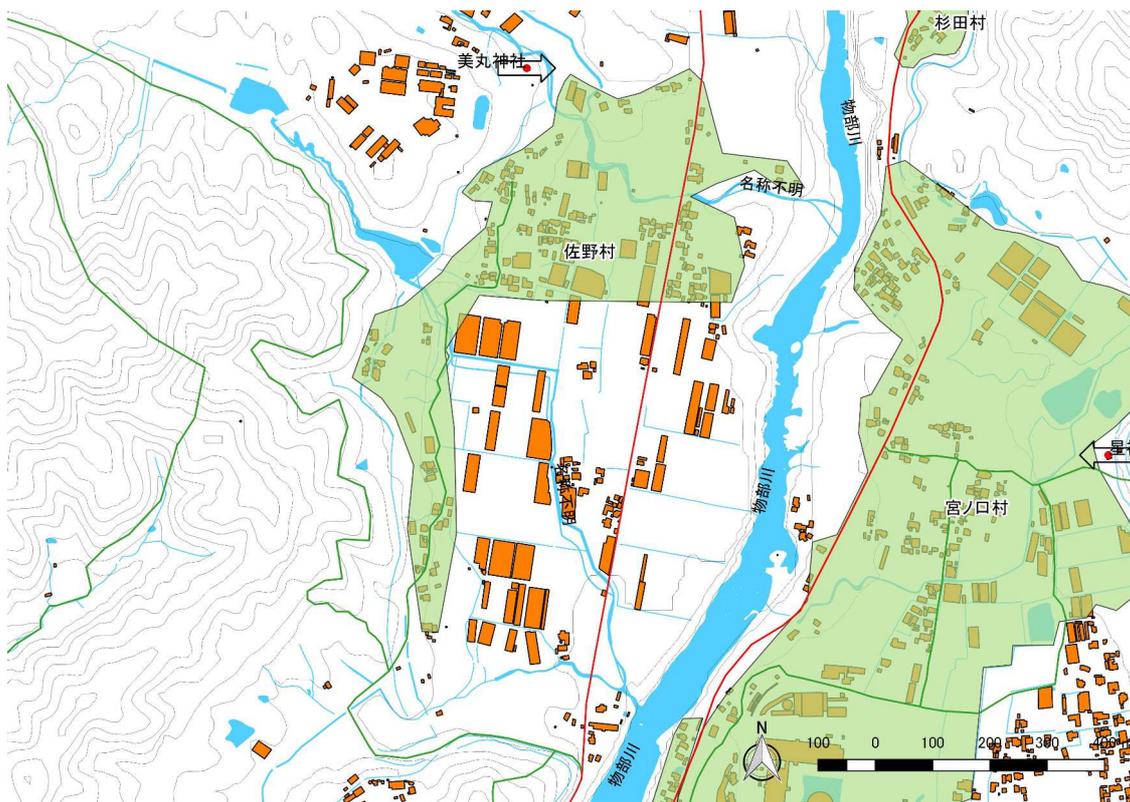


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

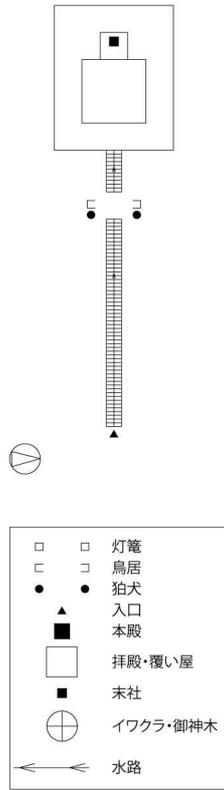


図 美丸神社境内略図 S = 1 : 500

40. 宮ノ口村 村社：星神社

- (1)集落地形：平地
- (2)神社正面の方位：西 254
- (3)神社正面の河川に対する向き：直交正面
- (4)神社地形：山際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：直交
- (6)集落と神社の立地関係：縁

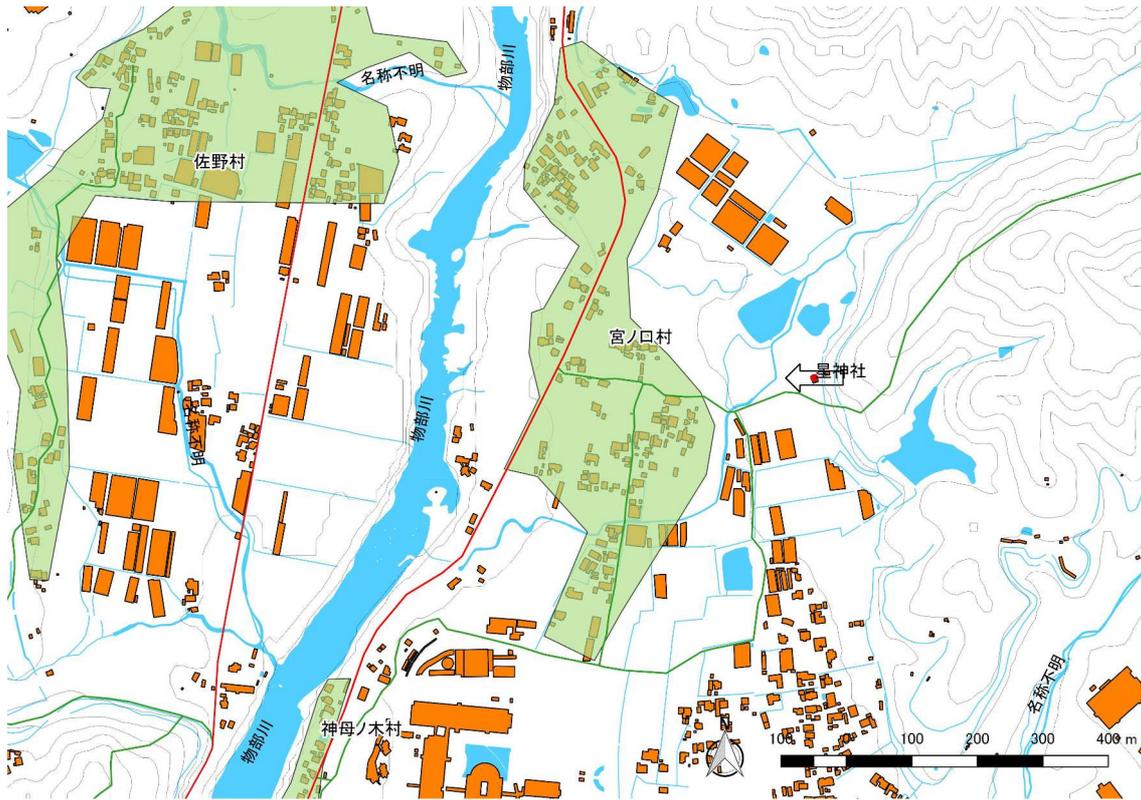


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

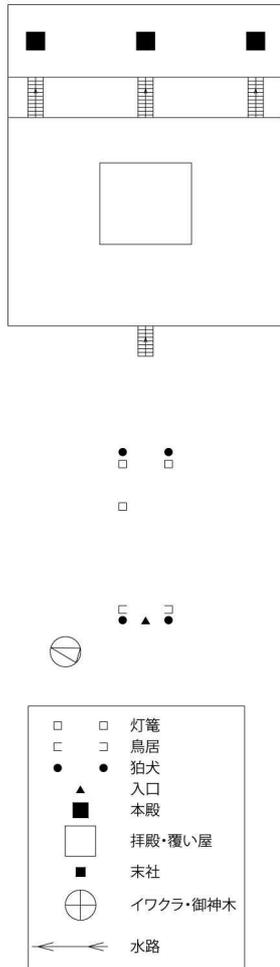


図 星神社境内略図 S = 1 : 500

41. 神母ノ木村 村社：神母神社

- (1)集落地形：その他の斜面地
- (2)神社正面の方位：南
- (3)神社正面の河川に対する向き：平行
- (4)神社地形：川際
- (5)斜面方向に対する神社正面の向き：影響なし
- (6)集落と神社の立地関係：縁

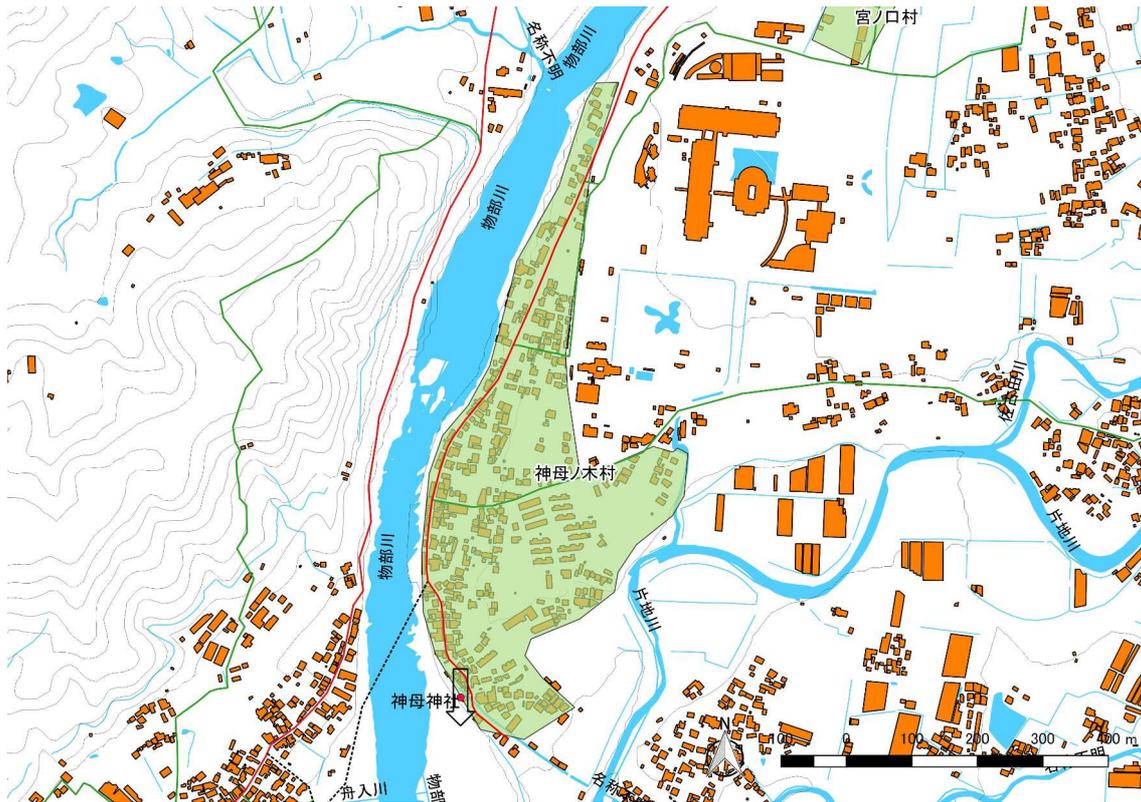


図 居住地神社配置図

凡例		凡例	
	住宅		川と並行の道
	居住地		川と直交する道
	神社		対岸への経路
	神社方位		等高線沿いの道
			その他の道

	三所神社 水神社(明治44年馬岡公土方神社に合祭)	宮ヲキ	未詳	三社大明神	村
	若宮神社 山神社(明治44年馬岡公土方神社に合祭)	市宇谷	未詳	若宮權現	村
	山神社(明治44年馬岡公土方神社に合祭)	柿平	山津見命		無
	八幡宮(明治44年馬岡公土方神社に合祭)	森山	應神天皇	森ノ宮八幡	無
別役村	小松神社 地頭神	宮ノ谷→下天山	未詳(未詳)		村
	五百八社(小松神社に合祭)	ツヅロオ	未詳		無
	仁井田五所神社	セジロ			無
市宇村	十二所神社	カミノクラ→ノ内	未詳	十二社權現	村
	石槌尺毛神社	月谷→ホドノ	未詳	石槌尺毛權現	無
	白王神社(明治43年十二所神社に合祭)	栗坂→本田	天物知命	白王權現	無
	八幡宮(明治43年十二所神社に合祭)	古土居	応神天皇		無
別府村	公土方神社	ミヤノ奈路→シノ峯	奇日方命	公土方大明神	村
	有宮神社	宮ノ森→宮ノ西	未詳	有宮三所大明神	村
	馬岡神社(明治43年公土方神社に合祭)	ノヤ→ナロ	未詳	馬岡大明神	無
	八幡宮(明治43年公土方神社に合祭)	柿ノ火手	應神天皇		無
上葦生:久保村	清田神社 山神社	上久保 シ?ニ草	猿田彦尊(山津見命)	常住權現九体神社	村
	八幡宮	高尾山	應神天皇		無
	聖神社	宮ノ本ヌル井→沼井	天照皇太神	聖大權現	村
	石土神社	高山→影	埴山姫命	石土尺毛權現	村
	須賀神社	栃ノ平→安野尾	素戔鳴尊	五王權現	村
	山神社	沼井	山津見命	山ノ神大明神	無
	白髮神社	新屋→中内	長白羽命	白髮大明神	村
	山神社	宮ノナロ→影	山津見命	伽藍宮	無
大西村	仁井田三所神社 山神社 龜神社	ミヤノクビ	大雷神 大山祇神 高龍神(山祇命)(庭高津日神)	仁井田大權現	村
中上村	仁井田三所神社	東谷	大雷神 大山祇神 高龍神	仁井田大權現	村
南池村	須賀神社 仁井田神社 山神社	仁井田畝	須蓋鳴命(天国玉命)(山祇神)	須賀大權現	村
笹村	仁井田三所神社	土居ノ後	大雷神 大山祇神 高龍神	仁井田大權現	村
	磐本神社 龜神社 山神社	カブリ	国常立命(庭高津日神)(山祇命)	高田大權現	村
	琴平神社	土居ノ後	大物主命	金比羅大權現	無
	岩本神社	遠石	山祇命	岩本大權現	無
	八幡宮	土居ノ後口	應神天皇		無
五王堂村	田中神社 熊野神社 山祇神社	神田	保食神(伊弉諾命)(山祇命)	田中大明神	村
	竈戸神社	ススキ谷	庭高津日神	荒神	無
	恵美須神社(田中神社に合祭)	戎	事代主神		無
	八幡宮	初ノ谷(城山)	應神天皇		無
	八幡宮	五王谷	應神天皇		無
黒代村	谷邊神社 山祇神社	宮ノ首	國常立尊(山祇命)	常住權現	村
	堰神社	クリノ峠	水分神	井ノ上大明神	無
	八幡宮	堂ノ畝	應神天皇		無
安丸村	安丸神社 須賀神社 山神社	宮ノ前	天之水分神(素戔鳴尊)(山津見命)	天王大明神	村
	杉神社	大屋敷	未詳	杉ノ明神	無
	峯靈社	峯→ムネ	未詳	靈大權現	無
	八幡宮	城山	應神天皇	古城八幡宮	無
神池村	王子宮 杉尾神社 聖神社	寺谷	大日靈貴尊(山咋命)(天照大神)	王子大權現	村
	星神社 重高神社	水ノモト	大元命(三明星)	三鉢妙見	無
猪佐古村	的場神社 伊氣神社	キリサコ	國常立命(保食神)	的場權現	村
	八幡宮	土居ヤシキ	應神天皇		無
柳瀬村	柳瀬神社 牛王神社 仁井田神社 天満宮 山祇神社 八幡宮 八幡宮	柿ノ平	應神天皇(素戔鳴尊)(天国玉命)(菅原大神)(大山津見命)(應神天皇)(應神天皇)	八幡大菩薩	村
	八幡宮	土居ヤシキ	應神天皇		無
	秋葉神社	大倉山	軻遇突知神	秋葉大權現	無
	銚天神社	受根	天御銚命	荒神	無

蕪生郷	根須村	神社明細帳(明治10年)	字	祭神	明治元年以前の名称	社格	
		日吉神社 竈戸神社 山神社	比ノ谷	山末之大主神 (稲倉玉神) (大山祇命)	山王八天之三前宮	村	
		山神社	渡瀬	山祇命		無	
	白石村	岩別神社	下モ赤木	海津見神	岩別之明神	無	
		山神社 巖島神社 八幡宮	宮ノ本	山祇命 (市杵島姫命) (應神天皇)	山之神御社	村	
	巖野村	磯山神社	巻ノ上	海津命	若宮権現	村	
		山神社	谷ノヲク	山祇命		村	
	永瀬村	聖神社 井神 鎮守神社	ヲヲタ	天照大御神 (水波女神) (未詳)	聖権現	村	
		八幡宮	城ノ下	應神天皇		無	
	在所村	猪野々村	王子宮	西ヶ谷	大日靈貴神 天忍穗耳命 天彦火瓊々杵神 天彦火々出見神 鵜茅不合尊神		村
王子宮境内社 熊野神社 八坂神社 長者 神社 桑谷神社 丹中丸神社			西ヶ谷	(伊弉諾命 速玉男命 事解男命) (素盞 鳴命) (未詳) (未詳) (未詳)		無	
八幡宮 水神社		猪ノ城	應神天皇 (水波女命)		無		
鎮守神社 金賀神社		妙法寺	未詳 (金山彦命)	金賀権現	無		
大奈路神社		佛ザコ	水波女命	金輪明神	無		
大山祇神社		ヲモ谷	大山祇命		無		
轟神社		轟	海津見命		無		
須賀神社		大久保	素盞鳴命		無		
在所村		清爪村	杉尾神社 竈戸神社	大宮	大物主命 (奥津彦命 奥津彦命 埴山姫 命 素盞鳴命)	杉尾大明神	村
			八幡宮(杉尾神社に合祭)	仁ノエ	應神天皇	古城八幡	無
	御崎神社(杉尾神社に合祭)		栢ノ本	素盞鳴尊 (天照皇神大神 海津見神 大 山祇神 日本武尊)	御崎大権現	無	
	日裏込村	鎮守神社(杉尾神社に合祭)	堂ノ谷	未詳	鎮守聖権現	無	
		八坂神社	木戸屋敷	素盞鳴命	牛頭天王権現	村	
	梅久保村	仁井田神社	?田	山末之大主神	仁井田大明神	村	
		須賀神社	宮ノ奈路	素盞鳴命	牛頭天王宮	村	
	大井平村	八幡宮	柳ノ本	應神天皇		無	
		御崎神社	西平ラ	大山咋命	御崎大明神	無	
		山神社	富田	山祇命		村	
野麓神社		宝蔵寺	麓山祇命	永野神社	村		
山神社		山神宮床	山祇命		村		
大元神社		大元宮床	国常立尊	姥神	無		
八幡宮		八幡?	應神天皇	長岡八幡	無		
三森神社		三森	大山祇命		無		
海津見神社	下モ竈ノ上	海津見神		無			
美良布村	日比原村 大束村						
		朴ノ木村	巖島神社	宮ノ谷	市杵島比賣命	村	
	谷相村 中谷村 横谷村	須賀神社	大小合	素盞鳴命	牛頭天王	無	
		八幡宮 八幡宮	城	應神天皇 (應神天皇)		無	
	美良布村	竈戸神社	ミヅカ峠→椎原 門田	奥津彦神 奥津姫神		無	
		山祇神社		山津見命		無	
		袖ノ木村	仁井田神社	宮ノ本	山祇命	仁井田権現	村
		吉野村	仁井田神社	仁井田	未詳 一日五山祇命	仁井田大明神	村
			北久保神社	土居	山祇神	北久保大明神	無
		竈神社	小谷	奥津彦神 奥津姫神		無	
日吉神社		上ノ川	山祇命	上ノ川山王権現	無		
八坂神社		ナロミチ	素盞鳴命		無		
於比谷神社		ヲビヤ谷	木花開耶姫命	ヲビヤ権現	無		
山祇神社		中生産谷	山祇命		無		
八幡宮	城コツモ	應神天皇	城八幡宮	無			
小川村	山祇神社 屋舟神社	古宮→宮ノ前	大山津見神 (匂々馳神 豊宇氣姫神)	マヘヤマ山之神	村		
	山祇神社	ロクノノ井口	山津見神	横谷山之神	無		
蕪生野村	八坂神社	笹ヶ奈路	素盞鳴命	祇園牛頭天王	無		
	事代主神社	笹ヶ奈路	事代主神		無		
	大川上美良布神社 若宮神社 琴平神社 秋葉神社 御崎神社	大宮	大田田祢古神 大物主命 活玉依比賣神 陶津耳神 櫛御方神 飯肩巢見神 美良比 賣神 建甕槌神 (伊邪那伎神) (大物主 命) (素盞鳴命) (山咋神)		郷		
	山祇神社 磯上神社	マツドオチ	山津見神 (海津神)		無		
	日吉神社	山王	大山咋神	山王権現	無		
	八幡宮	ハザマ	應神天皇	古城八幡宮	無		
	上野尻村	西山祇神社(東山祇神社に合祭)	ミヤノウエ	大山津見神	西山神	無	
		東山祇神社	ミツ屋敷	大山祇神	山ノ神東	無	
	山祇神社(東山祇神社に合祭)	シルジガ谷	山津見神	山之神	無		
	神明宮 聖神社 竈戸神社	溝尻	天照大神 (天照大神) (奥津彦神 奥津 姫神)		村		
竈戸神社	赤ハゲ	奥津彦神 奥津姫神	王宝荒神	無			
巖島神社	ヘイ	市杵島姫神	辨財天	無			
下野尻村	若一王子宮	釈迦堂屋敷	天忍穗耳命	若一王子権現	村		
	八幡宮(若一王子宮に合祭)	吉作屋敷古城	應神天皇		無		
太郎丸村	八坂神社	瀧ノ宮	素盞鳴命	牛頭天王	村		
	若宮八幡宮 山祇神社	若宮谷	應神天皇 (山津見神)	若宮権現	村		
橋川野村	山祇神社	山積屋	山積神		無		
	竈戸神社	竈ヶ森	奥津彦神 奥津姫神		無		
	巖島神社	ヤナゼ	市杵島姫神	辨財天	無		
	聖神社 竈戸神社 巖島神社	宮ノ西	天照大神 (奥津彦神 奥津姫神) (市杵 島姫神)	聖権現	村		

	山祇神社	山之神	山津見神	山神	無
日ノ御子村	日野御前神社 琴平神社	上日野	大日靈貴命〔天照大神〕（崇徳天皇）	日之宮	村
	聖神社 節神社	土居川	天照皇大神（未詳）	聖權現	村
	柳川神社	鳥首	御井命	若宮大明神	村
	山祇神社	土居畝	山津見神		無
	海津見神社	和光淵	綿津見之命	辨財天女官	無
	古井村				
	河野村				
曉霞村	五百蔵村	御市川若一王子宮	市川	天忍穗耳命	御市川若一大王子權現
		御前谷竈戸神社	宮ヶ畝	奥津彦命 奥津姫命	三宝荒神
		白山神社(1712年聖神社に合祭)	笹ヶ畝	伊弉諾命 伊弉冉命 菊里姫命	白山權現
		聖神社	久保田	天照皇大神	聖權現
		山祇神社(御市川若一王子宮に合祭)	奥宮ヶ畝	山祇命	東クホ大神
		伊氣神社	南屋敷	泣澤實命	無
		八幡宮	城屋敷	應神天皇	無
		山祇神社 枝折神社	ザコ畑	山祇神（山咋神）	無
白川村		白川神社	宮ノ前	天忍耳命	仁井田大明神
		須賀神社	天皇獄	素戔鳴命	牛頭天王
		巖島神社	杭ヶ？	市杵島姫命	辨財天
		山祇神社	山本屋敷	山祇命	無
	西又村				
有瀬村		奥有瀬山祇神社	中屋敷	山祇命	山祇大明神
		山祇神社(大正11年奥有瀬山祇神社に合祭)	山ノ神	山祇命	無
		伊氣神社	高アゼ	啼澤女命	井下大明
西峯村		金峯神社	大城屋敷	安閑天王	座王權現
		竈戸神社	網附	庭高津見命	三宝荒神
		山祇神社	蛇淵	山祇命	無
		八幡宮	朽ヶ谷	應神天皇	無
		巖島神社	川口	海津見命	無
	有川村				
佐岡村	有谷村	竈戸神社 王子宮 八幡宮	カマドノシンミヤ	奥津比古神 奥津比姫神（天忍穗耳命）	八面荒神
	佐竹村	本宮星神社 木船神社	宮ノ本	加賀背男神（霧神）	本宮妙見大明神
		巖島神社	楠井	市杵島姫命	弁財天
有谷村		日吉神社	ミヤノオク	大山咋命	山王權現
中後入村		金峯神社	宮ノ谷	安閑天王	座王權現
		須賀神社	ミヤカゲ	須佐之男命	祇園牛頭天王
		山祇神社	フロゲ谷	大山祇命	山神
本村		星神社 ?年神社 佐婆為神社 若宮神社	アカノ水	加賀背男神（?年神）（未詳）（未詳）	三昧妙見
		八幡宮 伊氣神社 佐婆為神社	コシヤク?	應神天皇（泣澤女命）（未詳）	無
				大日本根子彦大瓊命 磯城細姫命 大山祇命・吉備彦狭嶋命 伊予二名洲小千命	仁井田五社大明神
佐野村		仁井田五所神社 山祇神社 伊氣神社	仁井田五社丸	伊予天狹貴尊（大山祇命）（泣澤女命）	無
		美丸神社	岩サキ	伊弉諾命	美丸大明神
		住吉神社 巖島神社	レモウエノ?	上筒男命 中筒男命 底筒男命（市杵島姫命）	無
		伊氣神社	イケノモト	泣澤女命	無
片地村	宮ノ口村	星神社 大山祇神社 巖島神社 竈戸神社	宮ノ口大澤	未詳（大山祇命）（市杵島姫命）（澳津彦神 宇賀魂命 澳津姫命）	三昧妙見聖權現
	杉田村	若一王子宮 大山祇神社 竈戸神社 野々神社	杉田字東野	未詳 天忍穗耳命（大山祇神）（澳津彦神 澳津姫命）（未詳）	若一王子權現
		八坂神社	天王	素盛鳴命	牛頭天王
神母ノ木村		伊氣神社	神母ノ木字伊氣元	未詳 泣澤女命	神母神社
		住吉神社	神母ノ木字鹿落	上筒男命 表筒男命	牛頭天王